

大田区の環境

～平成29年度 大田区環境基本計画（後期）に基づく実績報告～

大田区

「大田区の環境」 作成にあたって

平成24年3月に、平成24年度から10年間の計画として「大田区環境基本計画」を策定しました。大田区の施策を環境の視点から整理・体系化し、環境の保全に関する基本的方向を示しています。

計画策定から5年目にあたる平成28年度には、施策体系や取組内容等に関する中間見直しを行い、「大田区環境基本計画（後期）」を策定しました。

「大田区の環境」は、「大田区環境基本計画」の進行管理にあたり、取組みの実績等、進捗状況を点検・評価するものです。

今後も「大田区の環境」を毎年度発行し、大田区環境基本計画の進行管理を確実に実施してまいります。

<本報告書について>

【報告対象】	大田区内全域および庁内における大田区環境基本計画に基づく取組み
【報告対象期間】	平成29年4月1日～平成30年3月31日
【発行日】	平成30年12月17日
【作成者】	大田区 環境清掃部 環境計画課 東京都大田区蒲田5-13-14 電話 03-5744-1625

はじめに

地球規模で人やモノ、資本が移動するグローバル経済の下では、気候変動、自然災害、感染症といった課題も地球規模で連鎖して発生し、経済成長や社会問題にも波及し深刻な影響を及ぼす時代になってきています。

このような状況を踏まえ、平成 27 年 9 月、国連総会において、環境、経済及び社会に関する広範な課題へ統合的に取り組む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、その中に「持続可能な開発目標 (SDGs)」として、気候変動への対処、生物多様性の保全などを含む 17 のゴール (目標) と 169 のターゲットが掲げられました。

また、国においても SDGs の実施を総合的かつ効果的に推進するため、平成 28 年 5 月、SDGs 推進本部を内閣に設置し、「省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会」への取り組みなどを優先課題とする「持続可能な開発目標実施指針」が策定されたところです。

こうした世界的規模で環境に対する姿勢が変化する中、区では平成 29 年 3 月、「大田区環境基本計画 (後期)」を策定しました。

「大田区環境基本計画 (後期)」で定める区の目指す環境像である、「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市」の実現のためには、私たちの日々の営みが、環境の大きな負荷となることを自覚して生活や事業活動を見直していくことが求められています。あわせて環境にやさしい社会の実現を目指し、節電行動や次世代エネルギーの活用など、区民・事業者の皆様一人ひとりの環境に配慮した行動を「地域力」として結集することも欠かせません。

地域社会からの不断の行動により、区の環境問題を解決し、快適で安全な暮らしが持続的に実現されるものと考えます。

本報告書「大田区の環境」は、計画に基づく平成 29 年度の取組実績等の進捗状況について、おおた環境基本計画推進会議、大田区環境審議会の審議を経て公表するものです。

今回の報告書を通じて、区民、事業者の皆様が大田区の環境だけでなく地球規模の環境問題まで幅広く関心を持っていただき、継続的な実践行動につなげていただく一助となれば幸いです。

平成 30 年 12 月 大田区長 松原忠義

目 次

＜本報告書の位置付け＞	1
＜環境基本計画の推進＞	2
＜環境基本計画（後期）施策一覧＞	4
＜平成29年度の主な取組み＞	6
＜環境基本計画（後期）重点プロジェクトの取組内容（平成29・30年度） 及び評価（平成29年度）＞	11
○ 重点プロジェクトA（産業）	14
○ 重点プロジェクトB（公害・安全）	17
○ 重点プロジェクトC（温暖化対策）	20
○ 重点プロジェクトD（生物多様性）	23
○ 重点プロジェクトE（リサイクル）	27
○ 重点プロジェクトF（環境学習）	29
＜環境基本計画（後期）に基づく取組内容（平成29年度）＞	41
○ 基本目標A（産業）	42
○ 基本目標B（公害・安全）	47
○ 基本目標C（温暖化対策）	55
○ 基本目標D（生物多様性）	69
○ 基本目標E（リサイクル）	80
○ 基本目標F（環境学習）	86
＜環境基本計画（後期）進捗管理指標一覧＞	95
＜資料 大田区環境基本条例＞	101

<本報告書の位置付け>

大田区基本構想

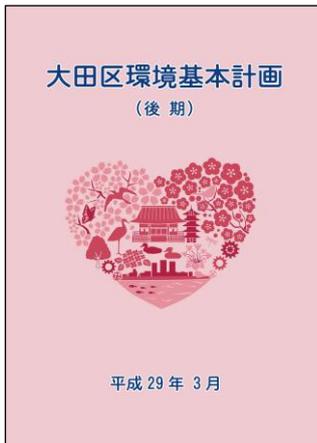
【大田区の将来像】

地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市おおた



大田区 10 か年基本計画
おおた未来プラン 10年

環境面の施策



大田区環境基本計画
平成 24 年 3 月策定
平成 28 年度中間見直し
平成 29 年 3 月環境基本計画 (後期) 策定

・平成 33 年度まで 10 年間の計画

計画の進捗報告



大田区の環境

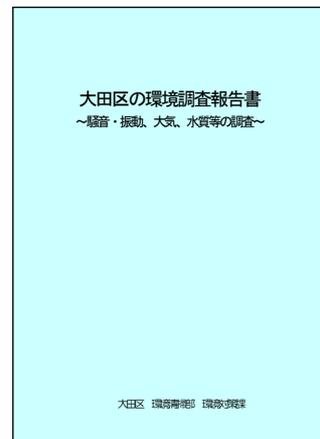
- ・環境基本計画に基づく取組みに関する年次報告
- ・年 1 回発行

詳細情報



大田区ホームページ
>生活情報
>住まい・まちなみ・環境
>環境・地球温暖化対策・公害
>環境関連の計画

基本目標 B



大田区の
環境調査報告書
～騒音・振動、大気、
水質等の調査～

・年 1 回発行

環境基本計画の推進

環境基本条例の制定

大田区では、平成22年3月「大田区環境基本条例」を制定しました。

この条例では、環境の保全についての理念を定め、区、区民及び事業者の役割を明らかにしています。また、環境の保全に関する基本的事項を定め、施策を総合的かつ計画的に推進することにより、区の良い環境を確保することを目的としています。

未来の世代へ継承する良い環境を育み、地域間交流や国際交流を通じて、環境の尊さを世界へ発信する「環境先進都市おおた」を目指します。

環境基本計画の策定と中間見直し

大田区環境基本条例第7条の規定に基づき、平成24年3月に「大田区環境基本計画」を策定しました。

区の施策を環境という視点から整理・体系化するとともに区が策定する個別計画や事業等に対して、環境の保全に関する基本的方向を示しています。また、区民等や事業者が日常生活や事業活動等に際し、環境の保全及び創造に関する取組みを主体的にかつ協力して実践して行くための指針となるものです。

大田区が目指すべき環境像として「ものづくりのまち」としての特性を踏まえ、「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市（まち）」の実現を掲げます。

本計画が目指す環境像の実現のためには、環境政策をめぐる社会動向を踏まえ、計画に位置づけられた取組みの考え方や具体的な方策を見直し、より効果的な取組みへと改善することが必要です。

こうしたことから、計画策定後5年目にあたる平成28年度に、施策体系や取組内容等に関する中間見直しを行いました。

6つの基本目標

大田区環境基本計画では、将来の環境像を実現するための6つの基本目標を定め、区民等、事業者及び区のパートナーシップのもとで、各基本目標の達成に向けた環境保全の取組みを推進します。

大田区環境基本計画の着実な推進は、大田区基本構想において掲げられる将来像の実現に繋がるものです。

6つの基本目標



環境基本計画（後期）施策一覧

基本目標A 環境と産業の調和の実現と好循環の創出

取組みの方向性	個別施策	
A-1 住工環の調和	(1) 工場の立地・操業環境の整備	① ものづくり拠点の形成支援 ② 地域や環境にやさしい工場の認定
A-2 環境経営の推進	(1) 環境対応基準の取得支援 (2) 事業活動に伴う環境負荷の低減促進	① 環境マネジメントシステムの取得支援 ① 環境にやさしい商店街の推進
A-3 環境産業の創出	(1) 新製品・新技術開発の支援 (2) 市場開拓の支援	① 環境関連の新製品・新技術開発の支援 ① 世界へ発信する産業支援拠点の整備
A-4 環境技術分野における国際交流・貢献	(1) 国際環境交流の推進	① 国際貢献のための環境技術情報の提供
A-5 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備	(1) 事業者・行政の連携強化	① 環境配慮行動の促進 ② 事業者・行政の連携強化

基本目標B 快適で安全な暮らしの実現

取組みの方向性	個別施策	
B-1 沿道環境の保全対策	(1) 騒音・振動対策の推進 (2) 大気環境の保全対策の推進	① 自動車騒音・振動調査 ① 大気汚染調査 ② 都市計画道路の整備
B-2 環境保全対策	(1) 水環境の保全対策の推進 (2) 環境保全対策の推進	① 河川等水質浄化対策の推進 ② 水質汚濁調査 ① 鉄道騒音・振動調査 ② 航空機騒音調査 ③ 土壌汚染対策 ④ 事業所の危機管理対策 ⑤ 安全安心な暮らしのための情報提供
B-3 美しい都市環境の創造	(1) 景観・美観に配慮したまちづくり	① 景観計画の推進 ② 歩きたばこ・路上喫煙対策 ③ 地域美化活動の支援
B-4 自然災害に強いまちづくり	(1) 健全な水循環の確保に向けた取組みの推進 (2) 地域分散型エネルギーの確保	① 健全な水循環の確保に向けた取組みの推進 ① 緊急時のエネルギー確保のための対策の推進

基本目標C 低炭素社会の構築

取組みの方向性	個別施策	
C-1 省エネルギー型の行動様式への転換	(1) 家庭・事業所における省エネルギー行動の促進 (2) 区役所による率先行動 (3) 住宅・建築物の省エネルギー化の促進	① 家庭における省エネ型行動様式（生活様式）への転換 ② 事業所における省エネ型行動様式への転換 ① 区の業務から排出される二酸化炭素（CO ₂ ）の削減 ① 住宅・建築物の省エネルギー化の促進
C-2 低炭素まちづくり	(1) 環境にやさしいまちづくり (2) 交通ネットワークの構築 (3) ヒートアイランド対策の推進	① 中心拠点のまちづくり ① 空港臨海部における交通ネットワークの検討 ② 新空港線「蒲蒲線」の整備推進 ③ コミュニティバスの運行支援 ④ 自転車等利用総合対策の推進 ⑤ 公共交通の利用促進 ① 呑川緑道における風の道のまちづくり ② 緑化の推進 ③ 打ち水の普及促進
C-3 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大	(1) 区有施設への積極導入 (2) 区民・事業者の導入の支援 (3) 次世代エネルギーの普及促進	① 区有施設への再生可能エネルギー設備等の導入、エネルギーの効率化・最適化設備の利用促進 ① 住宅用太陽エネルギー利用機器等の設置拡大 ② 大規模開発時における再生可能エネルギーの導入促進 ① 次世代エネルギーの普及促進
C-4 地球温暖化対策を促すための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備	(1) 区民等・事業者・行政の連携強化 (2) 他地域と連携した取組みの推進	① 大田区地球温暖化対策地域協議会との連携 ① 他自治体との連携による二酸化炭素（CO ₂ ）呼吸量の確保

基本目標D 自然共生社会の構築

取組みの方向性	個別施策	
D-1 生物多様性の社会への浸透	(1) 生物多様性の理解促進	① 生物多様性の普及啓発 ② 区民体験型の自然環境調査の実施
D-2 人と自然の関係の再構築	(1) 地域による緑づくりへの支援	① 地域みんなのみどりづくり
	(2) 緑を支える仕組みづくり	① みんなの緑づくり ② 緑のまちづくりのための基本的な仕組みづくり
	(3) 野生生物の保護・管理	① 絶滅のおそれのある野生生物の調査 ② 特定外来生物の防除
D-3 水と緑のネットワークの構築	(1) 緑の環境軸の形成	① 臨海部における緑の拠点形成 ② 緑の骨格づくり
	(2) 水の環境軸の形成	① 水辺環境のネットワークづくり
	(3) 身近な緑の確保	① 貴重な緑の保全 ② 公園・緑地の整備 ③ 道路空間の緑化推進 ④ 公共施設の緑化推進
	(4) 歴史と文化のまちなみづくり	① 歴史と文化と自然の散歩道づくり
D-4 生物多様性の保全・再生	(1) エコロジカルネットワークの形成	① 生き物の生育・生息空間づくり ② 区民等が行うビオトープづくりの活動支援 ③ ブルートライアングルプロジェクトとの連携

基本目標E 循環型社会の構築

取組みの方向性	個別施策	
E-1 ごみを出さない生活への転換	(1) 発生抑制、再使用の生活様式の促進	① 生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換 ② 商店街やスーパーと連携したごみの発生抑制につながる生活様式の促進
E-2 資源循環のまちづくり	(1) 環境負荷の低減	① 温室効果ガス削減方策の検討
	(2) 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの資源化促進	① 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの資源化促進 ② 金属、レアメタル回収の検討
E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築	(1) ごみの適正な分別の徹底	① 排出ルールへの周知 ② 資源持ち去り対策の徹底
	(2) 区民等が参加しやすいサイクルの仕組みの構築	① 資源回収の充実
	(3) 大田区清掃・リサイクル協議会との連携	① ごみの減量と資源の有効活用
	(4) 安定的・効率的な清掃事業の構築	① 安定的・効率的な清掃事業の構築 ② ボランティアごみの収集支援の促進 ③ 高齢者等への戸別収集サービス
E-4 事業者処理責任の徹底	(1) 事業系廃棄物の自己処理責任の徹底及び事業者に対する適正排出の徹底	① 事業用建築物の所有者に対する廃棄物の減量及び適正分別排出の指導強化 ② 廃棄物等保管場所設置の指導の強化 ③ 廃棄物の排出量基準の変更の検討

基本目標F 持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出

取組みの方向性	個別施策	
F-1 環境マインドを持つ人材の育成	(1) 環境推進リーダーの育成・活動支援	① 環境推進リーダー育成・活動支援 ② 職員研修の実施 ③ 環境にかかわる表彰制度等の創設
	(2) 環境学習・環境教育の推進	① 環境学習の推進 ② 環境保全意識の啓発 ③ 自然観察会の実施 ④ 自然体験学習の推進 ⑤ 学校教育における環境教育の推進 ⑥ 地域活動の担い手の育成
F-2 多様な主体が参加できるネットワークづくり	(1) 地域活動団体の支援	① 地域活動団体への支援
F-3 学習・情報発信・活動のための基盤づくり	(1) 環境活動拠点の整備	① (仮称) おおたエコプラザの開設
	(2) 環境情報の収集・提供	① 区民等が保有する環境情報の収集 ② 環境白書等による環境情報の提供

※ 太枠は本計画の「重点プロジェクト」です。

平成29年度の主な取組み

平成29年度は大田区環境基本計画（後期）の実施初年度となりました。

ここでは、環境基本計画に基づく取組みの中から、6つの基本目標ごとに特徴的なもの、新しい動きがあったものを主な取組みとして報告します。

基本目標A 環境と産業の調和の実現と好循環の創出

大田区の更なる都市化の進展により予想される操業環境の悪化に対して、これまでに続けられてきた周辺環境に配慮した工場づくり、操業形態、企業経営者と生活者の良好な関係形成の取組みを一層推進し、地域産業と地域住民の生活環境が調和したまちづくりを目指します。

一方で、わが国のトップクラスの技術を有するものづくり企業の集積の維持発展に向け、区内企業の環境経営の推進や環境産業創出の支援を行います。

また、産業分野における新たな取組みの推進エンジンのための主体間連携を強化します。

【個別施策 取組みの概要】

環境産業の創出として新製品・新技術の開発支援策、主体間連携の強化や環境課題の解決に向け、新たな仕組みの整備を進めました。

- 大田区内企業における優れた環境製品や技術を紹介する「環境製品技術カタログ」（日本語版、英語版）を発行し、おおた工業フェアなどの展示会で配布しました。
- 食品廃棄物の削減やCO₂削減などの環境課題の解決に向け、産官の連携体制を整備し、環境学習や環境教育に役立つ事業について調査を実施しました。

基本目標B 快適で安全な暮らしの実現

呑川の水質汚濁、幹線道路沿道における二酸化窒素や騒音の環境基準の超過などの公害関連の課題に対して、国や東京都と必要に応じて連携しながら、適正な対処を図ります。

また、事業者が取り扱う有害化学物質の流出・拡散など、災害時において心配される環境汚染問題についても、区として必要な対策を講じます。

上記の環境保全対策に加えて、羽田空港の沖合展開後の増便などに伴う影響を注視するほか、まちの景観・美観への対応などを図り、大田区の美しい都市環境を維持するとともに、さらなる改善を目指します。

国や東京都との連携のもとでの健全な水循環の確保に向けた取組みや、避難所等における緊急時のエネルギー確保など、自然災害に強いまちづくりを進めます。

【個別施策 取組みの概要】

事業所の危機管理対策として、化学物質を取り扱っている事業者に対し、自主管理支援を行いました。

- 平成28年度から「適正管理化学物質」の使用量が100kg未満の事業所に対し、「化学物質等使用状況及び現況報告」の提出を求めています。化学物質の使用有りと回答があった事業所に立入り調査を実施し、化学物質の保管・取扱い方法や災害時等に発生する漏洩等に対応できる態勢を確立するための指導、助言を行い、自主管理体制確立を促しています。

基本目標C 低炭素社会の構築

低炭素社会実現の重要性を認識し、区民等、事業者及び区がそれぞれの責務を果たすよう、これまで続けてきた取組みをさらに加速させます。

区民等の日常生活などにおける身近な対策の定着に加え、エネルギー効率の高い機器や住宅・建築物の導入等を進めるなど、省エネルギー型の行動様式への転換を促進します。

中心拠点のまちづくりや交通ネットワーク構築を進めるとともに、ヒートアイランド対策に配慮したまちづくりを進めます。

また、既存の建物に加え、大規模開発時を対象とした再生可能エネルギーの導入促進を図ります。

地球温暖化対策を促すため、区民等、事業者及び区の連携強化や、自治体間が連携した取組みを推進します。

【個別施策 取組みの概要】

大田区地球温暖化対策地域協議会と連携を図りながら、地域における地球温暖化防止の機運醸成や「省エネ型行動様式への転換」の推進を目的に、多数の普及事業を実施しました。

再生可能エネルギーの導入拡大を目的に、区有施設に太陽光発電設備等を設置しました。

○地球温暖化防止講演会として、お天気キャスター木原実の「2050年!地球未来予報」を6月10日(土)に開催しました。参加者320人

○中高生を対象に、JAL工場見学SKY MUSEUMとそらエコ教室「飛行機の世界から学ぶ地球温暖化対策」を12月9日(土)開催しました。参加者70人

○地球温暖化防止、食品ロス削減、ごみ減量を目的にエコレシピコンクールを開催しました。応募総数152件の中から最優秀賞1件 優秀賞2件 入賞3件を選考しました。

○区の業務から発生する環境負荷の低減及びコピー用紙の削減を目的に、世界初の水を使わない製紙技術により庁舎内で使用済みコピー用紙を再生する乾式オフィス製紙機「PaperLab」を本庁舎2階に設置しました。

○各部局における省エネ・省資源対策の推進を目的に、電気・ガス・水道・コピー用紙などの使用状況や経年変化を見える化するエネルギー管理システムを導入しました。

○改築を行った東六郷小学校で256Wのハイブリット(太陽光・風力発電)の外灯を設置しました。

○改築を行った東六郷小学校と志茂田中学校の体育館に地熱を利用した換気設備を設置しました。



木原実の2050年!地球未来予報



ものづくり教育・学習フォーラム

基本目標D 自然共生社会の構築

大田区は、多摩川と東京湾に面し、干潟などを中心に貴重な自然が残されています。自然観察路を中心とした調査を実施して、区内にある生物多様性の保全上の重要箇所の抽出などを行い、これら貴重な自然環境の保全に取り組みます。

開発の進んだ都市部である大田区の環境特性を踏まえた生物多様性保全の取り組みを行います。

自然との共生を図るため、水と緑のネットワークの構築など、自然共生型まちづくりの実現を目指します。

【個別施策 取り組みの概要】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、アオスジアゲハをシンボルとした「おもてなしのまちづくり」として、バタフライガーデンやバタフライコーナーなどの環境整備や環境学習等の取り組みを進めています。

- 東京2020参画プログラム「ブルートライアングル公開講座」を開催しました。
- バタフライガーデン整備工事（東糀谷防災公園）を実施しました。
- バタフライコーナー整備工事（大森ふるさとの浜辺公園）を実施しました。
- 自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」（平和の森公園）を実施しました。

8月27日（日） 参加者26人



バタフライガーデン（東糀谷防災公園）



自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」

基本目標 E 循環型社会の構築

国の「第三次循環型社会形成推進基本計画」に示される考え方に則り、発生抑制（Reduce：リデュース）と再使用（Reuse：リユース）の2Rの取組みを優先して進め、それでも発生する不用物は再生利用（Recycle：リサイクル）に取り組みます。

発生抑制、再使用、再生利用の3Rを推進したうえで、なお排出されるごみは環境に負荷を与えないように適正に処理します。

【個別施策 取組みの概要】

区民、事業者、区が連携して目指す循環型社会の実現を目指し、3Rと適正処理を推進するため、普及・啓発事業を充実させるとともにピックアップ事業の拡充を図りました。

小型家電リサイクル制度の普及や回収量の向上につながると期待されることから、小型家電リサイクル事業における区内42か所の拠点回収とイベント回収スキームを活用し、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参画することで、さらなる資源の循環とごみの減量に取り組みました。

○平成28年度にモデル事業として蒲田清掃事務所管内で実施した保育園・児童館での環境学習を拡大し、4園4館（262人）で実施しました。

○若年層や外国人のスマートフォン利用率が約9割であることに着目し、外国人や幅広い世代に周知徹底するため、従来の紙媒体等に加え、多言語に対応したスマートフォンアプリを平成29年11月から導入し、3R及び適正排出を促進しました。

○「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参画し、金・銀・銅などの貴金属を含むレアメタルや鉄分等有価物を平成28年度比約131%増の3.42t回収し売却しました。

○平成28年度にモデル事業として開始した不燃ごみの適正処理及び資源化事業において、収集区域を大森清掃事務所及び調布清掃事務所管内全域に拡大し、小型家電・鉄類等の有価物を平成28年度比約244%増の566.59t回収し売却しました。



清掃事務所による保育園での環境学習

基本目標F 持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出

本計画の推進の原動力となる「環境マインド（環境保全の姿勢や使命感）」を拡大するため、環境推進活動のリーダーの育成・活動支援や環境活動に対する表彰制度の創設、地域及び学校等における多様な環境学習・環境教育等を推進します。

また、地域活動団体による環境活動の支援や、環境に関わる情報の集約・発信等に取り組みます。

【個別施策 取組みの概要】

環境マインドの向上を目的に、学習リーダーの育成に取り組むとともに、多数の啓発事業を実施しました。また、環境活動を支援するための表彰制度やコンテスト等を創設し、環境活動を推進・継続するためのインセンティブの向上を図りました。

○地域の環境学習における中心的な役割を担うとともに環境保全における地域のリーダーとなる人材の育成を目的として、大田区環境マイスター養成講座を実施しました。また、講座修了生が本講座や区主催の自然観察会等の行事にスタッフとして参加し、受講後のスキルアップを図りました。 講座修了者 8人

○次代を担うこどもたちを主な対象に、区民・事業者・区の協働による「第17回エコフェスタワンダーランド in 蒲田」を2月25日（日）におなづか小学校で開催しました。
参加 28団体・1,200人

○区内の小・中学生を対象に、「地球にやさしいまちづくりポスター」を募集し、入選作品を大田区ホームページ、環境イベント等で展示しました。

応募校数 24校 応募数 189点 表彰数 22点

○地球温暖化防止、食品ロス削減、ごみ減量を目的にエコレシピコンクールを開催しました。
応募総数 152件の中から最優秀賞 1件 優秀賞 2件 入賞 3件を選考しました。

○区内の事業用大規模建築物における廃棄物の減量及び適正処理について、自主的かつ積極的に取り組み、顕著な成果を挙げていると認められる6件の建物所有者等を表彰しました。



「第17回エコフェスタワンダーランド in 蒲田」の様相

環境基本計画（後期）重点プロジェクトの取組内容（平成29・30年度）及び評価（平成29年度）

重点プロジェクトとは

大田区の目指す将来の環境像「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市（まち）の実現」に向け、区民等、事業者及び区の連携のもとで、重点的かつ優先的な具体展開を図っていくべき主要な施策・事業を「重点プロジェクト」として選定しています。

資料説明

【重点プロジェクトの取組み内容と評価】

- 平成29年度の取組内容とその評価を記載しております。
- 評価に関しては、以下の基準に基づきます。

「大田区環境基本計画重点プロジェクト 評価の基準」

- A・・・計画以上の進捗があった
- B・・・計画どおりの進捗があった
- C・・・一部進捗した
- D・・・進捗しなかった

<用語の解説について>

「*」マークを表示した用語については、40ページに解説を掲載しています。

【重点プロジェクト 一覧】

重点プロジェクトA 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備		評価
(1) 事業者・行政の連携強化	① 環境配慮行動の促進 ＜担当部＞環境清掃部、産業経済部	B
	② 事業者・行政の連携強化 ＜担当部＞環境清掃部、産業経済部	B
重点プロジェクトB 沿道環境の保全対策		評価
(1) 騒音・振動対策の推進	① 自動車騒音・振動調査 ＜担当部＞環境清掃部	B
	(2) 大気環境の保全対策の推進	
	① 大気汚染調査 ＜担当部＞環境清掃部	B
	② 都市計画道路の整備 ＜担当部＞都市基盤整備部、まちづくり推進部	B
重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大		評価
(1) 区有施設への積極導入	① 区有施設への再生可能エネルギー設備等の導入、エネルギーの効率化・最適化設備の利用促進 ＜担当部＞企画経営部、都市基盤整備部、環境清掃部	B
	(2) 区民等・事業者の導入の支援	
	① 住宅用太陽エネルギー利用機器等の設置拡大 ＜担当部＞環境清掃部	B
	② 大規模開発時における再生可能エネルギーの導入促進 ＜担当部＞環境清掃部	
(3) 次世代エネルギーの普及促進	① 次世代エネルギーの普及促進 ＜担当部＞環境清掃部	B

重点プロジェクトD 生物多様性の保全・再生		評価
(1) エコロジカルネットワークの形成	① 生き物の生育・生息空間づくり ＜担当部＞都市基盤整備部	B
	② 区民等が行うビオトープづくりの活動支援 ＜担当部＞環境清掃部、都市基盤整備部	B
	③ ブルートライアングルプロジェクトとの連携 ＜担当部＞観光・国際都市部、都市基盤整備部、環境清掃部、教育総務部	B

重点プロジェクトE ごみを出さない生活への転換		評価
(1) 発生抑制、再使用の生活様式の促進	① 生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換 ＜担当部＞環境清掃部	B
	② 商店街やスーパーと連携したごみの発生抑制につながる生活様式の促進 ＜担当部＞環境清掃部	B

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成		評価
(1) 環境推進リーダーの育成・活動支援	① 環境推進リーダーの育成・活動支援 ＜担当部＞環境清掃部	B
	② 職員研修の実施 ＜担当部＞総務部、環境清掃部	B
	③ 環境にかかわる表彰制度等の創設 ＜担当部＞環境清掃部、教育総務部	B
(2) 環境学習・環境教育の推進	① 環境学習の推進 ＜担当部＞環境清掃部、教育総務部	B
	② 環境保全意識の啓発 ＜担当部＞環境清掃部	B
	③ 自然観察会の実施 ＜担当部＞環境清掃部	B
	④ 自然体験学習の推進 ＜担当部＞教育総務部	B
	⑤ 学校教育における環境教育の推進 ＜担当部＞教育総務部	B
	⑥ 地域活動の担い手の育成 ＜担当部＞地域力推進部	B

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、事業活動に関連した環境配慮の普及啓発を行うことで、事業者の省エネ行動を促します。また、事業者間及び事業者と行政との連携を強化し、産業分野の新たな取組みの推進エンジンとなる体制を整備するものです。



環境経営勉強会
施設見学の様子

(2) プロジェクトの意義

本プロジェクトは、「ものづくり」という大田区独自の特性を活かした環境面の新たな試みであり、本計画を特徴づける大きな要素の一つになり得ます。

また、志を有した事業者が集まったモデル的な取組みを積極的に情報発信することで、区内事業者の「環境マインド」向上に波及効果を生むことが期待されます。

重点プロジェクトA 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34～	担当
環境配慮行動の促進					→	継続	環境清掃部 産業経済部
		省エネ行動の促進					
事業者・行政の連携強化					→	継続	環境清掃部 産業経済部
		連携強化の推進					

(1)事業者・行政の連携強化

① 環境配慮行動の促進

(事業概要) セミナーやイベントの開催、ホームページなどによる情報発信、環境配慮製品の流通促進などの普及啓発活動により、家庭や事業所における省エネ行動を促進します。	<評価> B
---	----------------------

<平成 29 年度の取組内容>

- 大田区内企業における優れた環境製品や技術を紹介する「環境製品技術カタログ」の掲載企業を増やし、平成 29 年 12 月に日本語版、英語版を発行しました。
- 区ホームページでの公表以外に、公益財団法人大田区産業振興協会に依頼して、おおた工業フェア（平成 30 年 1 月 31 日（水）から 2 月 2 日（金）まで）などの展示会にパンフレットを置くなどして、区内企業の技術紹介に努めました。
- その他、環境に配慮した製品、技術、ノウハウを幅広く集め、ビジネスマッチングの活性化を目指して開催された「川崎国際環境技術展」（平成 30 年 2 月 1 日（木）、2 日（金））にて配布しました。

<平成 30 年度の主な取組内容>

- 大田区内企業における優れた環境製品や技術を紹介する「環境製品技術カタログ」の掲載企業を増やし内容の充実を図り、区ホームページで公表するとともに、公益財団法人大田区産業振興協会が主催する展示会出展等で「環境製品技術カタログ」の配布を行い、環境技術の紹介に努めます。

<担当部>環境清掃部、産業経済部

重点プロジェクトA 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

②事業者・行政の連携強化

(事業概要) 産業分野の取組みの推進エンジンとなる産官の連携体制を整備し、事業者と行政が一体となって取組みを進めます。	<評価> B
--	----------------------

<平成 29 年度の取組内容>

- 【環境課題解決のための取組支援業務委託】
- 食品廃棄物削減など循環型社会の構築や CO₂ 削減などの環境課題の解決に向け、区内企業が連携して、装置を開発し、環境学習や環境教育に役立てる事業について調査を実施しました。
- 【環境経営勉強会】
- 環境技術分野における国際交流・貢献をはじめ、産業分野の取組みには、区内企業、公益財団法人大田区産業振興協会、区関係部が一体となった取組みが必要となります。そのため、産業部局及び区内企業を交えた勉強会を平成 25 年度から立ち上げ、引き続き開催しました。

「環境課題解決のための取組支援業務委託」についての調査結果を報告し、勉強会を実施しました。(参加企業 16 社 1 回)

「平成 29 年度 大田区都市型地産地消循環型社会モデル事業支援業務委託についての事業報告」

「平成 30 年度 環境課題解決の取組について」

<平成 30 年度の主な取組内容>

○食品廃棄物削減など循環型社会の構築や CO₂ 削減などの環境課題の解決に向け、区内企業が連携して、装置を開発し、環境学習や環境教育に役立てる事業を実施します。平成 30 年度は平成 29 年度の検討結果を基に、環境課題解決に向けた具体的な取組として、給食残渣削減のための機器開発に取り組みます。

○産業部局及び区内企業を交えた「環境経営勉強会」を引き続き実施していきます。

<担当部>環境清掃部、産業経済部

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、都市計画道路や幹線道路の整備促進を行い、区内沿道の環境保全対策を図ります。

また、羽田空港の沖合展開後の増便などに伴う影響に対して、騒音・振動対策や大気環境保全対策に係る取組みを継続して展開します。

(2) プロジェクトの意義

空港周辺の自動車交通量の増加に対して、都市計画道路や幹線道路の整備促進のほか、公共交通の利用促進、沿道環境に関する調査測定など、快適で安全な暮らしの実現に向け、区として必要な対策を一体的に講じます。



第一京浜国道沿道の自動車
排出ガス及び騒音測定局

重点プロジェクトB 沿道環境の保全対策

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34～	担当	
自動車騒音・振動調査		毎年調査の実施				→	継続	環境清掃部
大気汚染調査		毎年調査の実施				→	継続	環境清掃部
都市計画道路の整備		用地取得・整備・測量				→	継続	都市基盤整備部 まちづくり推進部

(1)騒音・振動対策の推進

① 自動車騒音・振動調査

(事業概要)

自動車騒音・振動の実態把握とその対策のため、騒音・振動に関する調査を行い、関係機関へ対策を要望します。

<評価>

B

<平成 29 年度の取組内容>

○幹線道路面的評価監視*に係る調査を 10 区間で実施しました。

定点 (6 幹線道路) として、第一京浜、第二京浜、産業道路、中原街道、環七通り、環八通り、準定点 (4 地点 原則、5 年周期で地点を変更) として、第二京浜、中原街道、ガス橋通り、産業道路を行いました。

道路近傍騒音 10 区間中、昼間は 5 区間、夜間は 2 区間で環境基準を達成しました。

面的評価による環境基準達成率 10 区間全体で昼間 89.7%、夜間 79.3%、昼夜とも 78.4%

○要請限度調査*を 2 路線で 2 地点ずつ実施しました。

要請限度調査*では振動は全地点・全時間区分で達成しました。騒音は昼間 4 地点で達成、夜間 3 地点で達成しました。騒音の環境基準は昼間 2 地点で達成、夜間 1 地点で達成しました。道路管理者に対して改善の要望を行いました。

<平成 30 年度の主な取組内容>

○幹線道路面的評価監視*に係る調査 (9 区間、定点 6+準定点 3) を行います。

○要請限度調査*を 2 路線 2 地点ずつ実施します。また、要請限度を超過している場合には道路管理者などへ要請や要望を行います。

<担当部>環境清掃部

重点プロジェクトB 沿道環境の保全対策

(2)大気環境の保全対策の推進

① 大気汚染調査

(事業概要)

区内の大気汚染の状況を把握するため、住宅地などの一般環境、主要な道路沿道に測定局を設置し、常時測定を行います。光化学スモッグによる被害を防止するため、光化学オキシダント濃度が高くなった場合は光化学スモッグ注意報等を発令します。

<評価>

B

<平成 29 年度の取組内容>

【大気汚染常時監視測定結果】

○環境基準が定められている大気汚染物質について、住宅地域等に設置している一般環境大気測

<p>定局5局と、主要な道路沿道に設置している自動車排出ガス測定局3局で測定を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化硫黄 全測定局で環境基準を達成 ・二酸化窒素 全測定局で環境基準を達成 ・光化学オキシダント 全測定局で環境基準を非達成 光化学スモッグの学校情報の提供日数は3日、注意報発令日数は1日 ・浮遊粒子状物質 全測定局で環境基準を達成
<p><平成30年度の主な取組内容></p> <p>○東京オリンピック・パラリンピックを控え、交通量の増大が想定される羽田地域に測定局がないため、新たに環状八号線沿道に自動車排出ガス測定局を設置し、今後もきめ細かい大気環境の監視を継続します。</p>
<p><担当部>環境清掃部</p>

重点プロジェクトB 沿道環境の保全対策	
②都市計画道路の整備	
<p>(事業概要)</p> <p>交通渋滞による道路周辺環境への影響を軽減するため、区内都市計画道路の整備推進を図るとともに、国や東京都に働きかけます。</p>	<p><評価></p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p>
<p><平成29年度取組内容></p> <p>大田区で行った事業</p> <p>事業中：補助線街路第38号線（羽田旭町付近）・43号線（仲池上付近）・44号線（上池台付近） 大田区画街路第1号線（北千束付近）・7号線（蒲田駅東口） 京浜急行電鉄本線附属街路第2号線（梅屋敷駅前）</p>	
<p><平成30年度取組内容></p> <p>大田区で行う事業</p> <p>事業中：補助線街路第38号線（羽田旭町付近）・43号線（仲池上付近）・44号線（上池台付近） 大田区画街路第1号線（北千束付近）・7号線（蒲田駅東口） 京浜急行電鉄本線附属街路第2号線（梅屋敷駅前）</p>	
<p><担当部>都市基盤整備部、まちづくり推進部</p>	

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、住宅における太陽エネルギー利用の拡大促進を行うとともに、区有施設への再生可能エネルギー*設備やエネルギーの効率化・最適化設備の利用促進、大規模開発において再生可能エネルギー*等の導入促進を図るものです。



区立羽田中学校の体育館屋根に設置している太陽光発電システム
(50kW)

(2) プロジェクトの意義

再生可能エネルギー*等の導入拡大には、以下に挙げるような多くの意義があります。

- 低炭素なエネルギーであり、電力使用に伴う二酸化炭素 (CO₂) 排出量をゼロにできる。
- 長期的には発電コストの低減が進み、経済的なメリットが期待できる。
- 導入設備が「見える」ことから、区民等や事業者に対する高い啓発効果が見込まれる。
- 関連装置の市場拡大が進み、区内工業を中心とした産業振興に繋がるものと期待される。
- 系統電力*のピークカット*に貢献できる (いわゆる節電効果)。
- 大規模停電等においても、再生可能エネルギー*による一定の熱・電力の供給が可能である。

重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34～	担当
区有施設への再生可能エネルギー設備等の導入、エネルギーの効率化・最適化設備の利用促進			導入			継続	企画経営部 都市基盤整備部 環境清掃部
住宅用太陽エネルギー利用機器等の設置拡大			設置拡大			継続	環境清掃部
大規模開発時における再生可能エネルギー*の導入促進			導入促進			継続	環境清掃部
次世代エネルギーの普及促進			普及促進			継続	環境清掃部

(1) 区有施設への積極導入

① 区有施設への再生可能エネルギー*設備等の導入、エネルギーの効率化・最適化設備の利用促進	
<p>(事業概要) 区有施設の建設等の際には、再生可能エネルギー*や高効率の設備の導入など環境配慮型の施設を検討します。 また、導入したシステムを活用し、平常時の電力ピークカット*等、エネルギーの効率的な活用を図り、温室効果ガスの削減を図ります。</p>	<p><評価> B</p>
<p><平成 29 年度の取組内容> ○羽田一丁目複合施設新築、羽田四丁目複合施設新築、六郷図書館改築で再生可能エネルギー*設備の導入等を検討しました。 ○改築を行った東六郷小学校で 256W のハイブリッド（太陽光・風力発電）の外灯を設置しました。 ○改築を行った東六郷小学校と志茂田中学校の体育館に地熱を利用した換気設備を設置しました。</p>	
<p><平成 30 年度の主な取組内容> ○六郷図書館改築工事で太陽光発電（屋上パネル）を設置します。 ○（仮称）羽田一丁目複合施設新築工事で太陽光発電（屋上パネル）を設置します。 ○（仮称）羽田四丁目複合施設新築工事で太陽光発電（屋上パネル）を設置します。 ○大森第四小学校改築工事で太陽光発電（屋上パネル）を設置します。 ○志茂田小学校と大森第四小学校の体育館に地熱を利用した換気設備を設置します。</p>	
<p><担当部>企画経営部、都市基盤整備部、環境清掃部</p>	

重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大

(2) 区民等・事業者の導入の支援

① 住宅用太陽エネルギー利用機器等の設置拡大																			
<p>(事業概要) 住宅に設置される太陽エネルギー利用機器等の費用の一部を補助し、導入を支援します。</p>	<p><評価> B</p>																		
<p><平成 29 年度の取組内容> ○住宅に太陽エネルギー利用機器等を設置した方に、その費用の一部を補助しました。</p>																			
	<table border="0"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[実績]</td> <td></td> <td style="text-align: center;">[累計]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>太陽光発電システム</td> <td style="text-align: center;">103 件</td> <td style="text-align: center;">478.37 kW</td> <td style="text-align: center;">2,845 件</td> <td style="text-align: center;">12,292.90 kW</td> </tr> <tr> <td>太陽熱ソーラーシステム</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">} 0 件</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">0.00 m²</td> <td style="text-align: center;">31 件</td> <td style="text-align: center;">132.81 m²</td> </tr> <tr> <td>及び太陽熱温水器</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		[実績]		[累計]		太陽光発電システム	103 件	478.37 kW	2,845 件	12,292.90 kW	太陽熱ソーラーシステム	} 0 件	0.00 m ²	31 件	132.81 m ²	及び太陽熱温水器		
	[実績]		[累計]																
太陽光発電システム	103 件	478.37 kW	2,845 件	12,292.90 kW															
太陽熱ソーラーシステム	} 0 件	0.00 m ²	31 件	132.81 m ²															
及び太陽熱温水器																			
<p>※資源エネルギー庁が公表する区内の太陽光発電システム(10kw 未満)設置件数 3,792 件、容量 14,676.70kw(平成 29 年 9 月末時点)</p>																			

<平成 30 年度の主な取組内容>		
○住宅に太陽エネルギー利用機器を設置した方を対象に、費用の一部を補助し、導入を支援します。		
〔対象機器/予定件数〕	太陽光発電システム	100 件
	太陽熱ソーラーシステム	1 件
	太陽熱温水器	1 件
<担当部>環境清掃部		

重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大	
② 大規模開発時における再生可能エネルギー*の導入促進	
(事業概要) 「地域力を生かした大田区まちづくり条例」により大規模開発時の再生可能エネルギー*の導入を促進します。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容>	
○「地域力を生かした大田区まちづくり条例」第 63 条の再生可能エネルギーの活用に基づき、再生可能エネルギー導入計画書の提出を受けました。 提出件数 138 件 うち導入予定 太陽光発電システム 6 件 (225.54kW)	
<平成 30 年度の主な取組内容>	
○「地域力を生かした大田区まちづくり条例」第 63 条の再生可能エネルギーの活用に基づき、再生可能エネルギー*の導入を促すことにより、区民の安全で快適な住環境を確保し、活力のある調和のとれた都市づくりの実現をめざします。	
<担当部>環境清掃部	

重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大	
(3)次世代エネルギーの普及促進	
① 次世代エネルギーの普及促進	
(事業概要) 環境にやさしい次世代エネルギーの普及促進のため、情報提供を図ります。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容>	
○燃料電池車（公用車）と企業の CSR を活用し、「こども環境教室」を開催しました。 ・「燃料電池車の出前授業」 小学校 6 校、参加者 397 人 ・「ものづくり教育・学習フォーラム（教育委員会主催）」への出展 1 月 20 日（土） 大田区産業プラザ 参加者 600 人	
○「第 17 回エコフェスターワンダーランド」に、大田区地球温暖化対策地域協議会と協働で出展し、省エネクイズや水素をつくる自転車・燃料電池車モデル・風力発電の体験、デジタル地球儀「触れる地球」の展示などを行いました。 2 月 25 日（日） おなづか小学校 参加者約 500 人 協力団体：東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター	
<平成 30 年度の主な取組内容>	
○各種イベントなどを活用し、次世代エネルギーとして期待される水素エネルギー等の普及啓発を行います。	
<担当部>環境清掃部	

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、国や東京都との連携を取りながら、生物多様性に配慮した緑地管理の試行のほか、区が管理する公園や施設等の一部を区民等が主体的に取り組むビオトープ*づくりに開放するなどの活動支援を行うものです。これらの取組みを通じて、区内におけるエコロジカルネットワーク*の形成を図り、生物が移動できる環境の確保を目指します。



森ヶ崎水再生センター屋上にて
コアジサシの親子（給餌中）

(2) プロジェクトの意義

都市の生活は、生物多様性の恵沢を享受することで成り立っています。生活や都市づくりなどのあらゆる場面において自然との共生が欠かせません。都市内に残された水辺や緑を活かしたエコロジカルネットワーク*の形成を図ります。

重点プロジェクトD 生物多様性の保全・再生

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34～	担当
生き物の生育・生息空間づくり			実施			継続	都市基盤整備部
区民等が行うビオトープ*づくりの活動支援			活動支援			継続	環境清掃部 都市基盤整備部
ブルートライアングルプロジェクトとの連携			連携			継続	観光・国際都市部 都市基盤整備部 環境清掃部 教育総務部

(1)エコロジカルネットワーク*の形成

① 生き物の生育・生息空間づくり

(事業概要)

生き物が生育・生息できる空間を確保するため、10か所の緑の拠点、緑の環境軸及び水の環境軸の一部や区管理の公園において、必要に応じて国や東京都との連携を図りながら、生物多様性に配慮した緑地管理を実施します。

<評価>

B

<平成 29 年度の取組内容>

- 多摩川の河川敷においては、生き物が生息できる空間を確保するため、草刈の高さを高くしました。
- 大森ふるさとの浜辺公園では、生き物の生息に配慮してヨシ原の粗放管理を実施しました。
- 馬込自然林緑地においては、区内の貴重な自然林を後世に引き継ぎ、また、生き物の生息環境を残すため、現状の植生を維持していくよう管理しました。

<平成 30 年度の主な取組内容>

- 多摩川の河川敷においては、生き物が生息できる空間を確保するため、草刈の高さを高くします。
- 大森ふるさとの浜辺公園では、生き物の生息に配慮してヨシ原の粗放管理を実施します。
- 馬込自然林緑地においては、区内の貴重な自然林を後世に引き継ぎ、また、生き物の生息環境を残すため、現状の植生を維持していくよう管理していきます。

<担当部>都市基盤整備部

重点プロジェクトD 生物多様性の保全・再生	
② 区民等が行うビオトープ*づくりの活動支援	
(事業概要) 区が管理する公園や施設等の一部を開放するなどして、区民等や区民活動団体が主体的に取り組むビオトープ*づくりや生き物の保全活動を支援します。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> ○洗足池水生植物園に大森第六中学校の生徒が、学校で育てたホタルの幼虫を放流しました。 ○「田園調布せせらぎ公園」で田んぼづくりをしている環境団体への支援、NPO との連携による本門寺公園や洗足池公園等での自然観察会、コアジサシの保護活動(森ヶ崎水再生センター屋上)を進める NPO との連携による観察会や支援、区民によるうのき水辺の楽校・羽田水辺の楽校の活動への支援等を実施しました。	
<平成 30 年度の主な取組内容> ○洗足池水生植物園に大森第六中学校の生徒が、学校で育てたホタルの幼虫を放流します。 ○「田園調布せせらぎ公園」で田んぼづくりをしている環境団体への支援、NPO との連携による本門寺公園や洗足池公園等での自然観察会、コアジサシの保護活動(森ヶ崎水再生センター屋上)を進める NPO との連携による観察会や支援、区民によるうのき水辺の楽校・羽田水辺の楽校の活動への支援等を実施します。	
<担当部>環境清掃部、都市基盤整備部	

重点プロジェクトD 生物多様性の保全・再生	
③ ブルートライアングルプロジェクトとの連携	
(事業概要) 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアオスジアゲハをシンボルとした「おもてなしのまちづくり」として、バタフライガーデンやバタフライコーナーなどの環境整備や環境学習等の取組みを進めます。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> ○東京 2020 参画プログラム「ブルートライアングル公開講座」を開催しました。 ・講演会(大森第五小学校) ・バタフライガーデンツアー(平和の森公園) ○ブルートライアングルプロジェクト基礎調査委託(その3)を実施しました。 ・内陸部の拠点公園及び駅前周辺におけるアゲハチョウ類の実態調査 ○バタフライガーデン整備工事(東糀谷防災公園)を実施しました。 ○バタフライコーナー整備工事(大森ふるさとの浜辺公園)を実施しました。 ○普及用のパンフレット「ブルートライアングルプロジェクト飼育体験マニュアル」を作成し、自然観察会等で活用しました。 ○自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」(平和の森公園)を実施しました。 8月27日(日) 参加者26人 ○パネル展示等の実施により事業のPRを実施しました。 ○東京労災病院と連携した飼育実証実験を継続しました。 ○「特色ある教育」の一環として、下記の取組みを実施しました(大森第五小学校)。 ・「ブルートライアングルプロジェクトへの積極的な参画」として、ブルートライアングルの産卵・孵化・脱皮・蛹化・羽化等の瞬間を観察することを全学級で行いました。 ・7月に、全学年で地域・保護者向けのオリンピック・パラリンピック報告会を実施し、各学年の発達の段階に応じた方法で、ブルートライアングルの飼育や観察等を発表しました。	

<平成 30 年度の主な取組内容>

- バタフライガーデン整備工事（本門寺公園、山王花清水公園、多摩川台公園）を実施します
- バタフライコーナー整備工事（あさひ海老取川公園、見晴らしばし公園）を実施します。
- 自然観察会等で「ブルートライアングルプロジェクト飼育体験マニュアル」を活用します。
- 自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」（大森ふるさとの浜辺公園）を実施します。
- パネル展示等の実施により事業のPRを実施します。
- 東京労災病院と連携した飼育実証実験を継続します。
- 「特色ある教育」の一環として、ブルートライアングルプロジェクトへの積極的な参画に加え、クロアゲハやナミアゲハ、キアゲハ等の蝶の飼育と観察を行います（大森第五小学校）。

<担当部>観光・国際都市部、都市基盤整備部、環境清掃部、教育総務部

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、家庭や事業所から排出されるごみの量そのものを減らす生活様式への転換を目指すものです。

ごみを出さない生活への転換に向けて、具体的には、生ごみの減量や無駄のない買い物の仕方など、発生抑制に関する普及啓発の強化や、子どもや地域を対象とした環境学習等の取組み拡大による区民意識の醸成を図ります。



スケルトン清掃車「ごみ ZERO」号を用いた小学生への環境学習の様子

(2) プロジェクトの意義

ごみの発生抑制は、区民等や事業者が行うことができる最も基本的な環境配慮行動の一つと言え、このような区民一人ひとりの行動が循環型社会の構築につながり、取組み全体を牽引する役割となります。

重点プロジェクトE ごみを出さない生活への転換

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34～	担当
生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換		ごみ減量の促進				継続	環境清掃部
商店街やスーパーと連携したごみの発生抑制の生活様式の促進		発生抑制の促進				継続	環境清掃部

(1)発生抑制、再使用の生活様式の促進

① 生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換

(事業概要)

循環型社会の構築のため、3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進、食品ロスを少なくするためのPRにより、さらに区民一人ひとりが生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換が図れるよう啓発を進めます。

<評価>

B

<平成 29 年度の実施内容>

- チラシ・ポスター等によるPRを実施しました。
 - ・清掃だよりの発行 年 10 回
 - ・区施設掲示板啓発ポスターの掲出 年 13 回
 - ・区報への掲載 年 15 回

<平成 30 年度の主な実施内容>

- チラシ・ポスター等によるPRを実施します。
 - ・清掃だよりの発行
 - ・区施設掲示板啓発ポスターの掲出
 - ・区報への掲載

<担当部>環境清掃部

重点プロジェクトE ごみを出さない生活への転換

② 商店街やスーパーと連携したごみの発生抑制につながる生活様式の促進

(事業概要)

使用済みのペットボトルは、集積所（行政回収）のほか、スーパーやコンビニ等の店頭（自主回収）にて回収の推進に努めています。
また、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進し、ごみを出さない生活様式への転換を促すため、区民には、買い物には買い物袋を持参してもらいレジ袋や余分な包装を断るよう普及・啓発を図ります。

<評価>

B

<平成 29 年度の実施内容>

- 資源とごみの分け方・出し方（転入者向け 95,000 部、外国語版 15,000 部）や冊子の発行の他、区ホームページ、区報に掲載し普及・啓発を図りました。
- 「大田区ごみ分別アプリ～資源とごみを分別～」を平成 29 年 11 月に導入しました。

<平成 30 年度の主な実施内容>

- 資源とごみの分け方・出し方や冊子の発行の他、区ホームページ、区報に掲載し普及・啓発を図ります。
- 「大田区ごみ分別アプリ～資源とごみを分別～」の普及を促進します。

<担当部>環境清掃部

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、本計画に基づき中長期的な環境保全の取組みを推進していく上で、その原動力となる人づくりを目的とするものであり、地域の環境教育における中心的な役割を担う環境推進リーダーを育成するほか、区民等や事業者に対して広く行う環境教育や環境情報の提供などの展開を図ります。

(2) プロジェクトの意義

環境推進リーダーとの連携のもとで、区民一人ひとりの環境マインドの充実・拡大を図り人材を育成することは、基本目標 F の推進のみでなく、本計画全体の推進に繋がります。

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

個別施策 (平成/年度)	29	30	31	32	33	34~	担当	
環境推進リーダー育成・活動支援	講座開催・修了者への活動支援					→	継続	環境清掃部
職員研修の実施	研修実施					→	継続	総務部 環境清掃部
環境にかかわる表彰制度等の創設	表彰実施					→	継続	環境清掃部 教育総務部
環境学習の推進	推進					→	継続	環境清掃部 教育総務部
環境保全意識の啓発	実施					→	継続	環境清掃部
自然観察会の実施	実施					→	継続	環境清掃部
自然体験学習の推進	推進					→	継続	教育総務部
学校教育における環境教育の推進	推進					→	継続	教育総務部
地域活動の担い手の育成	育成					→	継続	地域力推進部

(1)環境推進リーダーの育成・活動支援

① 環境推進リーダー育成・活動支援

(事業概要)

地域の環境教育を担い、より良い環境づくりに向け、地域のリーダーとしての活躍が期待される環境推進リーダーを育成するため、大学や区内の環境NPO等と連携した講座を開催します。

また、講座修了者が主体的に実施する環境学習プログラムの企画・運営を支援します。

<評価>

B

<平成29年度の取組内容>

○地域の環境学習における中心的な役割を担うとともに環境保全における地域のリーダーとなる人材の育成を目的として、大田区環境マイスター養成講座を実施しました。また、講座修了生が本講座や区主催の自然観察会等の行事にスタッフとして参加し、受講後のスキルアップを図りました。

第1回 マイスターの役割と気づきの学習、大田区環境基本計画について等

第2回 地球温暖化防止講演会

第3回 省エネ・エコライフについて、グループワーク研究テーマと班編成について等

第4回 下水処理の話(都下水道局森が崎水再生センター見学)等

第5回 大岡山駅前「みんなの庭づくり」

第6回 川と干潟のみち・大師橋干潟の生きもの観察、地域と連携した自然体験と保全活動等

第7回 公園のみどりについて、子ども・親子を対象にした自然体験活動について等

第8回 廃棄物とリサイクルについて(大田清掃工場見学)等

第9回 洗足池の自然と水、簡易水質測定器・パックテストを使った水質調査(実験)等

第10回 グループワーク研究発表、環境マイスターの活動について等

<平成30年度の主な取組内容>

○地域の環境学習における中心的な役割を担うとともに環境保全における地域のリーダーとなる人材の育成を目的として、大田区環境マイスター養成講座を実施します。

第1回 マイスターの役割と気づきの学習、大田区環境基本計画について等

第2回 公園整備の取り組み、下水処理の話と見学(下水道局森が崎水再生センター見学)等

第3回 子ども・親子を対象とした環境学習、身近な水質測定(パックテスト、透視度)

第4回 廃棄物とリサイクルについて（大田清掃工場見学）等
第5回 自然観察と保全活動（川と干潟のみち）、地域と連携した活動等
第6回 エコ検定関連講義（環境問題とその背景、環境関連ニュース等）
第7回 洗足池の自然（池のみち）、環境マイスターの活動について等
<担当部>環境清掃部

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

② 職員研修の実施

（事業概要） 環境を題材とした職員研修を実施し、環境意識の向上に努めます。	<評価> B
--	----------------------

<平成 29 年度の取組内容>

- 環境清掃部職員を対象に、区職員として率先垂範するため、環境マインドの向上を目的とした研修と清掃施設見学を実施しました。
- 環境課題について学び、情報収集を図るため、公的機関が実施する勉強会等及び東京ビッグサイトで開催されたエコプロ 2017 等の展示会に参加、視察しました。
- 各施設でのエネルギー使用量の削減を図るため、事業者向け省エネ対策セミナー「アルプス電気（株）の挑戦！BEMS を最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」に参加しました。
- 採用 2 年目職員対象の協働体験研修で、現場体験先のひとつとして区内の環境 NPO 活動に参加しました。

<平成 30 年度の主な取組内容>

- 環境清掃部職員を対象に、区職員として率先垂範するため、環境マインドの向上を目的とした研修と清掃施設見学を実施します。
- 職員の環境マインドの向上と大田区役所エコオフィス推進プランの取組強化を目的に「エネルギー管理システム操作説明会」を開催しました。
4 月 23 日（月）
- 採用 2 年目職員対象の協働体験研修で、現場体験先のひとつとして区内の環境 NPO 活動に参加する予定です。

<担当部>総務部、環境清掃部

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

③ 環境にかかわる表彰制度等の創設

（事業概要） 区民、学校、団体、事業所等を対象とした環境にかかわる表彰やコンテスト等を創設し、インセンティブの向上に努めます。	<評価> B
--	----------------------

<平成 29 年度の取組内容>

【「地球にやさしいまちづくりポスター」の募集】

- 区内の小・中学校の児童・生徒を対象に、「地球にやさしいまちづくりポスター」を募集し、入選作品を大田区ホームページ、環境イベント等で展示しました。また、平成 30 年 2 月 25 日開催の「第 17 回エコフェスタワンダーランド in 蒲田」の中で表彰しました。

応募校数 24 校 応募数 189 点 表彰数 22 点

【環境フォトコンテスト（エコフェスタワンダーランド）】

○エコフェスタワンダーランド内で環境フォトコンテストを実施しました。区内小・中学校に呼びかけて募集し、最優秀賞1点、優秀賞2点を表彰しました。

2月25日（日）おなづか小学校

参加団体7団体 応募写真13枚 投票者277人

【エコレシピコンクール】

○地球温暖化防止、食品ロス削減、ごみ減量を目的にエコレシピコンクールを開催しました。

・応募期間 5月29日（月）～9月27日（水） 応募件数152件

・最終審査 12月16日（土）佐伯栄養専門学校 最優秀賞1件 優秀賞2件 入賞3件

【廃棄物減量及び適正処理優良事業者の表彰】

○区内の事業用大規模建築物における廃棄物の減量及び適正処理について、自主的かつ積極的に取り組み、顕著な成果を挙げていると認められる者について表彰しました。

・11月の廃棄物管理責任者講習会において、6件の建築物の所有者等を表彰しました。

<平成30年度の主な取組内容>

【「地球にやさしいまちづくりポスター」の募集】

○区内の小・中学校の児童・生徒を対象に、「地球にやさしいまちづくりポスター」を募集し、入選作品を大田区ホームページ、環境イベント等で展示します。

【環境フォトコンテスト（エコフェスタワンダーランド）】

○エコフェスタワンダーランド内で環境フォトコンテストを実施します。

【廃棄物減量及び資源化推進優良事業者の表彰】

○事業用大規模建築物における廃棄物の減量及び適正処理に顕著な実績を挙げた優良事業者を表彰します。

<担当部>環境清掃部、教育総務部

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成	
(2)環境学習・環境教育の推進	
① 環境学習の推進	
(事業概要) 幼児から大人までの幅広い世代を対象にして、地球温暖化対策、自然や緑の分野をはじめ、保育園でのごみ減量の学習など循環型社会等について、環境学習を企業のCSRなども活用して進めます。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> <低炭素社会の構築> 【こども環境教室】 ○燃料電池車（公用車）と企業のCSRを活用し、「こども環境教室」を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・「燃料電池車の出前授業」 小学校 6 校、参加者 397 人 ・「ものづくり教育・学習フォーラム（教育委員会主催）」への出展 1 月 20 日（土） 大田区産業プラザ 参加者 600 人 【地球温暖化対策地域協議会と区の連携による普及啓発活動】 ○家庭における省エネ行動の促進を目的に、エコレシピコンクール最優秀作品を活用したエコライフ講習会「環境にやさしいお料理教室」を開催しました。 3 月 17 日（土） 佐伯栄養専門学校 参加者 32 人 ○家庭における省エネ行動の促進を目的に、自治会町会等が開催する省エネ講習会に講師を派遣しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり 10 月 15 日（日） 参加者 18 人 ・地域力推進六郷地区委員会 11 月 14 日（火） 参加者 65 人 ○家庭における省エネ行動の促進と児童の環境意識の向上を目的に、夏休みバス見学会を開催しました。 8 月 2 日（水） 大田清掃工場・（株）リーテム東京工場 参加者 18 組 39 人 ○事業者の省エネ行動の促進を目的に省エネ対策セミナー「アルプス電気（株）の挑戦！BEMSを最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」を開催しました。 3 月 1 日（木） 調布地域庁舎・アルプス電気（株）本社ビル 参加者 25 人 <自然共生社会の構築> ○区民協働調査で行った区自然観察路周辺の調査結果を基に、区内環境団体と協働でパンフレットを作成しました。パンフレットの内容は、区民の方がパンフレット片手に区自然観察路を散策できるよう、樹木・昆虫・野鳥などの紹介及びその地域ならではの環境以外の要素も取り入れています。 <循環型社会の構築> ○ごみ減量・リサイクルを啓発するために幼児から大人までの幅広い世代を対象にした環境学習や出前講座を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした環境学習 30 校 ・保育園・児童館の低年齢児童を対象とした環境学習 4 園、4 館 ・自治会・町会等を対象とした小型家電等の資源化事業などをテーマとする出前講座 27 回 	
<平成 30 年度の主な取組内容> <低炭素社会の構築> ○次代を担う子どもたちの環境学習を充実するため、企業のCSR活動などを活用しながら「子ども環境教室」を開催します。 ○大田区地球温暖化対策地域協議会と協働で、区民等や事業者を対象に講習会を開催します。	

<自然共生社会の構築>

○自然観察路「川と干潟のみち」周辺の区民協働調査を実施します。

<循環型社会の構築>

○ごみ減量・リサイクルについて啓発するために、小学生を対象とした環境学習を継続して取り組むと共に、保育園・児童館の低年齢児童を対象とした環境学習にも取り組みます。

○自治会・町会等を対象とした出前講座を実施します。

<担当部>環境清掃部、教育総務部

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

② 環境保全意識の啓発

(事業概要)

幼児から大人までの幅広い世代を対象にして、地球温暖化対策、自然や緑の分野をはじめ、循環型社会等について、パネル展示やイベント開催等を通じて、環境保全意識の啓発を行います。

<評価>

B

<平成 29 年度の取組内容>

<低炭素社会の構築>

【地球温暖化防止講演会】

○地域における地球温暖化防止の機運醸成と取組みを推進するため、地球温暖化防止講演会を開催しました。

・お天気キャスター木原実の「2050年!地球未来予報」

6月10日(土) 東京工科大学・日本工学院専門学校3号館地下1階大講義室

講師 気象予報士・防災士 木原 実氏 参加者 320人

・JAL工場見学SKY MUSEUMとそらエコ教室「飛行機の世界から学ぶ地球温暖化対策」

12月9日(土) JALメンテナンスセンター1

講師 パイロット 秋吉 信一 氏 参加者 70人(中高生)

【おおた打ち水大会】

○ヒートアイランド対策及び地球温暖化対策の推進を目的に、大蒲田祭(蒲田東口商店街)で「おおた打ち水大会」を開催しました。

8月6日(日) 参加者 約300人

○打ち水の普及促進を目的に、打ち水用具の貸し出し及び給付を行いました。

貸出件数 1件 給付件数 56件

【イベントへの出展】

○区民等の省エネ型行動様式への転換の契機となることを目的に、大田区地球温暖化対策地域協議会と協働でイベントに出展しました。

・OTAふれあいフェスタ 11月4日(土)、5日(日) 参加者 約2,500人

協力団体:大田空調衛生協会、大田区商店街連合会、大田区リサイクル事業協同組合、大田建設協会、大田造園協会、大田・花とみどりのまちづくり、大森法人会、キャノン(株)、(株)金羊社、京浜急行電鉄(株)、城南環境カウンセラー協議会、城南地区廃棄物リサイクル協同組合、東京ガス(株)、東京環境保全協会、東京急行電鉄(株)、東京工業大学坂野研究室、東京電力パワーグリッド(株)、東六郷一丁目町会(蒲田法人会、大同生命保険(株)、(株)マコト、(株)読売情報開発法人事業部)、プリンス電機(株)、(株)三尾建設ハウジングコミュニティ

・第17回エコフェスタワンダーランド 2月25日(日)おなづか小学校 参加者 約500人

協力団体:東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター

<自然共生社会の構築>

【多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～】

- 多摩川河川敷を歩きながらごみを拾い、自然環境保護の大切さを考えることを目的に開催しました。併せて自然環境団体等によるパネル展、ペットボトルキャップの回収も実施しました。

5月28日（日） 参加者 2,093人

【環境フォーラム】

- 自然環境団体による展示やステージ発表を実施しました。

3月10日（土） 池上会館

【緑のカーテン講習会】

- 省エネルギー効果のある「緑のカーテン」を広く区民に周知し、楽しみながら継続的に取り組める地球温暖化対策として、栽培方法などを習得する講習会を開催しました。

4月15日（土） 六郷特別出張所 参加者 27人

4月16日（日） 鵜の木特別出張所 参加者 27人

4月16日（日） 大田区役所 参加者 69人

4月22日（土） 大田文化の森 参加者 70人

【緑の講演会】

- みどりの効用と、草木の育成・栽培方法等について学ぶ機会を区民に提供しました。

6月7日（水） 区民ホールアプリコ 参加者 110人

共催：大田区、大田区緑化推進協議会

【第8回おた住まいづくりフェア内事業】

- 18色の緑づくり、生垣造成制度等のパネル展示、助成制度のパンフレット配布による紹介を行いました。気軽にできる園芸体験コーナー等、環境にかかわる啓発等を行いました。

11月26日（日） 大田区産業プラザPiO 参加者 103人

- 緑や花があふれる暮らしのコーナー

- ・18色の緑づくり、生垣造成制度等 PR コーナー

- ・園芸相談コーナー

【コアジサシ保護活動】

- 絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」の保護活動を進めるNPOと連携して、森ヶ崎水再生センターの屋上にある営巣地の整備や観察会、活動を報告する講演会を実施しました。

- ・コアジサシ観察会 6月24日（土） 参加者 136人 7月2日（日） 参加者 95人

- ・コアジサシ講演会 12月9日（土） 区民ホールアプリコ 参加者 134人

- ・コアジサシ営巣地整備 3月24日（土） 参加者 59人 3月25日（日） 参加者 60人

<循環型社会の構築>

【OTAふれあいフェスタ】

- ごみ減量・循環型社会への理解・協力を求めるため、OTAふれあいフェスタにおいて「清掃・リサイクルコーナー」を設置しました。

- ・ごみ・3Rのクイズ

- ・スケルトン清掃車へのごみ積み込み体験

- ・清掃事業紹介パネルの展示

- ・地球にやさしいまちづくりポスターの展示

<持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出>

【環境月間パネル展】

- 区の環境の現状や環境施策を広く区民に周知するため、パネル展を開催しました。

6月7日（水）～6月12日（月） 区役所本庁舎1階展示コーナー

【第17回エコフェスタワンダーランド】

- 子どもを主に、広く区民の環境意識の高揚をはかることを目的として、「地域から考える地球

の未来」をテーマに、区民・事業者・区が協働して開催しました。

区としては以下の展示を行いました。

- ・「小さな地球環境博物館」（大田区地球温暖化対策地域協議会との協働出展）
- ・「食品ロスマジックショー」
- ・「18色の緑づくり取組み紹介パネル展示」

2月25日（日）おなづか小学校 参加28団体・1,200人

出展団体：NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり、おおたく環境探検隊、大森海苔のふるさと館、おもちゃ病院・大田、ガールスカウトケナフおおた、株式会社環境向学、株式会社協和エクシオ、地球っ子広場・自由が丘、東京工業大学木倉研究室、NPO 法人東京港グリーンボランティア、日東工器株式会社、呑川の会、羽田ビーチクラブ、羽田水辺の楽校、パルシステム東京南部環境委員会、富士通株式会社、株式会社防災サービスセンター、まち井、NPO 法人リトルターン・プロジェクト、株式会社菱興社、株式会社リーテム、ワタミ株式会社、大田区地球温暖化対策地域協議会

<平成30年度の主な取組内容>

<低炭素社会の構築>

○省エネ型行動様式への転換を図るため、地球温暖化防止講演会を開催します。

○都市部のヒートアイランド対策及び地球温暖化対策を推進するため、「おおた打ち水大会」を開催します。

○区民等の省エネ型行動様式への転換の契機となることを目的に、大田区地球温暖化対策地域協議会と協働でO T Aふれあいフェスタなどに出展します。

<自然共生社会の構築>

【多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～】

○多摩川河川敷を歩きながらごみを拾い、自然環境保護の大切さを考えることを目的に開催します。併せて自然環境団体等によるパネル展、ペットボトルキャップの回収も実施します。

【緑のカーテン講習会】

○省エネルギー効果のある「緑のカーテン」を広く区民に周知し、楽しみながら継続的に取り組める地球温暖化対策として、栽培方法などを習得する講習会を開催します。

【緑の講演会】

○みどりの効用と、草木の育成・栽培方法等について学ぶ機会を区民に提供します。

共催：大田区、大田区緑化推進協議会

【第9回おおた住まいづくりフェア内事業】

○18色の緑づくり、生垣造成制度等のパネル展示、助成制度のパンフレット配布による紹介を行います。気軽にできる園芸体験コーナー等、環境にかかわる啓発等を行います。

【コアジサシ保護活動】

○絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」の保護活動を進めるNPOと連携して、森ヶ崎水再生センターの屋上にある営巣地の整備や観察会、活動を報告する講演会を実施します。

<循環型社会の構築>

○ごみ減量・循環型社会への理解・協力を求めるため、O T Aふれあいフェスタにおいて「清掃・リサイクルコーナー」を設置します。

<持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出>

【第18回エコフェスタワンダーランド】

○子どもを主に、広く区民の環境意識の高揚をはかることを目的として、「地域から考える地球の未来」をテーマに、区民・事業者・区が協働して開催します。

<担当部>環境清掃部

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成	
③ 自然観察会の実施	
(事業概要) NPO との連携も含め、区内の自然環境の理解・保護のための自然観察会を実施します。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> ○「平和の森公園で遊ぼう！」大森ふるさとの浜辺公園で、自然と触れあうゲームを行いました。 6月18日(日) 参加者 18人 ○「コアジサシ観察会」昭和島にある森ヶ崎水再生センター屋上で、絶滅のおそれのある渡り鳥「コアジサシ」の子育てを観察しました。 6月24日(土) 参加者 136人、7月2日(日) 参加者 95人 ○「トワイライト探検隊」夜の本門寺公園でコウモリやセミの羽化を観察しました。 7月30日(日) 参加者 27人 ○「アオスジアゲハを探しにいこう！」平和の森公園内の自然とふれあいながら、チョウ(アオスジアゲハ)やサナギ、卵を探してその生態を学びました。 8月27日(日) 参加者 26人 ○「多摩川台公園・雑木林のみちを散策しよう！」秋の雑木林でドングリや生き物を観察しました。 10月22日(日) 参加者 11人	
<平成 30 年度の主な取組内容> ・アオスジアゲハを探しにいこう！ ・「コアジサシ」観察会 ・トワイライト探検隊 ・(仮称) 自然観察路『池のみち』観察会	
<担当部>環境清掃部	

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成	
④ 自然体験学習の推進	
(事業概要) 伊豆高原(小5)、とうぶ(小6)、野辺山(中1)の移動教室での活動事例をまとめた「自然体験プログラム」を基に、学習ガイドを作成し、自然体験活動の一層の充実を図ります。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> ○移動教室を通じて、児童・生徒が豊かな環境の中で自然に親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳について体験・学習できるよう、自然体験活動推進委員会を開催し検討を行いました。	
<平成 30 年度の主な取組内容> ○自然体験活動推進委員会を開催し、移動教室が、より一層児童・生徒の自然に親しむ機会となるよう引き続き検討を行います。	
<担当部>教育総務部	

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

⑤ 学校教育における環境教育の推進	
(事業概要) 各学校の実態等に応じて環境保全への取組みを進めます。また、各教科等の指導において環境教育を進めます。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> ○東京都教育委員会から年 4 回配布された環境教育掲示用教材、解説書、ワークシートを活用し、各学校の実態に応じた取組みを継続して実施しました。 ○各教科指導においては社会科・理科の授業において地球温暖化についての学習を行い、児童・生徒が二酸化炭素 (CO ₂) の排出量削減に向けて取り組む態度を育成しました。 ※各教科等の指導における取組み例 ・「ごみ・資源」、「自然・生命」、「エネルギー・地球温暖化」等に関する内容について、各教科等において環境教育を実施しました。 ※学校での主な取組み 【赤 松 小】 小学校動物飼育推進校 (モルモットやウサギの飼育) 花育教室 (植物への関心、思いやりの心) 【大森第五小】 ブルートライアングルプロジェクト 【大森第六中】 洗足池水質浄化、ホテル復活プロジェクト、大岡山駅前花壇整備活動、農援隊による活動等幅広い環境教育を ESD 教育の視点で展開 【馬込東中】 アルミ缶回収運動 (リヤカーで町内巡り、アルミ缶つぶし)	
<平成 30 年度の主な取組内容> ○東京都教育委員会から配布される環境教育掲示用教材、解説書、ワークシートを活用し、各学校の実態に応じた取組みをさらに継続し実施します。 ○引き続き社会科・理科の指導において地球温暖化についての学習を継続的に行い、児童・生徒が二酸化炭素 (CO ₂) の排出量削減に向けて取り組む態度を育成します。	
<担当部> 教育総務部	

重点プロジェクトF 環境マインドを持つ人材の育成

⑥ 地域活動の担い手の育成	
(事業概要) おおた地域力発見倶楽部の発行や NPO・区民活動フォーラムの開催を通じて、地域活動等の紹介を行い、区民へ活動に向けた意識啓発を行います。	<評価> B
<平成 29 年度の取組内容> 【おおた地域力発見倶楽部】 ○区が実施する講座等の情報を掲載した「～ご近所デビュー～おおた地域力発見倶楽部」を年 3 回発行 (7、11、3 月、各 700 枚) し、特別出張所をはじめとした区内施設 (61 か所) での配布及び区ホームページ等で広報しました。 ○地域環境への理解を深めるための 6 事業 (池上地区における「苗配布会」及び「第 6 回スポ GOMI 池上大会」、環境計画課による「第 17 回エコフェスワンダーランド in 蒲田」及び「環境フォーラム 2018」、環境対策課による「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」及び「大田区自然観察路「池のみち」の生物・植物を調べよう!」) をおおた地域力発見倶楽部に掲載しました。	

【NPO・区民活動フォーラム】

- 平成 30 年 1 月 28 日（日）、消費者生活センター1 階及び 2 階で開催しました。
- 体験ワークショップ、ブース展示、お楽しみショー等による連携・協働の活動成果の発表や模擬店・野菜販売など、延べ 41 の区民活動団体（内、オーちゃんネットの「くらし・環境」分野の登録団体は 17 団体）が様々な形態で参加しました。
- 学習・区民活動・ボランティアについてやりがい探しの相談会を実施しました。
- 延べ 1,100 人の来場がありました。

<平成 30 年度の主な取組内容>

- 「～ご近所デビュー～おおた地域力発見倶楽部」を発行（年 3 回）し、区が実施する講座等の情報を周知します。
- NPO・区民活動フォーラムを平成 31 年 1 月下旬に開催予定。効果的な広報等を検討し、集客面で一定の成果を目指します。また、参加団体の交流機会も多く設け、連携・協働のきっかけを提供します。

<担当部>地域力推進部

< 用語解説 >

重点プロジェクトB 沿道環境の保全対策

幹線道路路面の評価監視

騒音規制法に基づき、自動車騒音対策を計画的総合的に行うため、幹線道路の自動車騒音を調査し、結果を環境省に報告しています。この調査は、幹線道路から 50m の範囲について、実測値や推計によって環境基準に適合しているか地域や時間帯別に評価しています。

要請限度調査

騒音規制法と振動規制法に基づき、主要道路における自動車騒音と道路交通振動を測定し、環境省令で定める限度を超えているか調査しています。限度を超えていることにより、生活環境が著しく損なわれると認めるときは、道路交通法の規定による措置を道路管理者に要請できます。

重点プロジェクトC 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大

再生可能エネルギー

自然界の中から繰り返し取り出すことのできるエネルギー（自然エネルギー）のことで、石油、石炭などの化石エネルギーと異なり二酸化炭素（CO₂）を排出しないため、クリーンなエネルギーです。

具体的には、平成 21 年（2009 年）7 月に成立した「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」（エネルギー供給構造高度化法）において、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、及びバイオマスが再生可能エネルギー源として規定されています。

系統電力

電力系統の安定運用のために、給電指令のもとで必要に応じて需給制御、電圧・周波数調整等ができる電源から供給される電力のことをいい、それ以外を分散型電源といいます。

ピークカット

電力ピーク時間帯の熱源動力負荷をカットすることです。

ピーク時はおおむね昼から午後にかけてであり、ピーク需要を減らすことは、二酸化炭素排出量の多い石油火力発電所の電力を減らすことにつながり、地球温暖化対策という観点から重要な取組みといえます。

重点プロジェクトD 生物多様性の保全・再生

ビオトープ

ドイツ語で生物を意味する「バイオ（Bio）」と場所を示す「トープ（Tope）」の合成語のことです。本来は 1 つの生物種にとって必要な空間のまとまりを意味しますが、現在では元来そこにあった自然風景、生態系を回復・保全した区域を含めます。

エコロジカルネットワーク

人と自然の共生を確保していくため、原生的な自然地域等の重要地域を核として、生態的なまとまりを考慮した上で、有機的に繋いだ生態系のネットワーク。ネットワークの形成により、野生生物の生息・生育空間の確保、人と自然とのふれあいの場の提供、地球温暖化防止等多面的な機能が発揮されることが期待されます

資料説明

☆の表記は重点プロジェクトを表します。

基本目標 A 環境と産業の調和の実現と好循環の創出

A-1 住工環の調和 (1) 工場の立地・操業環境の整備

① ものづくり拠点の形成支援

(事業概要)
区内工場の立地・操業環境の向上のため、産業支援施設（賃貸工場、創業支援施設など）の整備・運営を行い、事業の拡張や高度化のために行う事業に対しては、経費の一部を助成します。また、区が工業用地を取得し、その活用の展開を図ります。

(内容)
【民間型工場アパートの活用】
○平成 24 年 6 月に開設された東糀谷六丁目工場アパート（OTA テクノ CORE）には、高付加価値を生み出す中規模企業が集積し平成 25 年度末には 33 ユニット全室が満室となり、平成 29 年度も満室状態です。今後、この企業集積を通じて区内中小企業への波及効果が期待されています。
【ものづくり工場立地助成】
○企業が事業規模の拡張や高度化のために行う工場の新增設等に係る経費の一部を助成しました。
○新規に助成を実施する企業 14 件を認定し、このうち 5 件に助成を開始しました。平成 28 年度以前の認定企業のうち 8 件に助成が開始されました。また、継続して助成を実施した企業は 25 件（2 年目 13 件、3 年目 11 件、7 年目 1 件）でした。
【ものづくり企業立地継続補助金】
○防音、防臭、防振等の操業環境の改善を目的とした工場の改修事業や周辺環境及び近隣住民等へ配慮するために行う工場の移転事業に係る経費の一部を助成しました。
○平成 26 年度から実施している事業で、事業を実施する企業 5 件を認定し、助成を実施しました。

<担当部>産業経済部

A-1 住工環の調和 (1) 工場の立地・操業環境の整備

② 地域や環境にやさしい工場の認定

(事業概要)
人に優しい（働きがいのある労働環境）、まちに優しい（周辺環境との調和）、経営や技術に優れた工場を「優工場」に認定し、その中で特に優秀な工場を表彰することによって、大田区の工場に従事する人のやりがい、生きがいを引きだすとともに大田区企業の優秀性を内外にアピールし、大田区工業の振興を図ります。

(内容)
【工場表彰制度】
○8 社を優工場に認定しました。
○認定工場のうち「総合部門賞」3 社、「人に優しい部門賞」1 社、「まちに優しい部門賞」1 社を表彰しました。

<担当部>産業経済部

A-2 環境経営の推進 (1) 環境対応基準の取得支援	
① 環境マネジメントシステムの取得支援	
(事業概要) 環境に配慮した経営を推進する企業を支援していくため、環境認証取得促進セミナーを開催し、あわせてエコアクション21及びエコステージ並びに、ISO14001等の環境マネジメントシステムを取得する企業に必要な経費の一部を助成します。	
(内容) 【セミナー等啓発事業】 ○環境問題解決ビジネスに参入を考えている事業者に向けて、セミナーを1回開催しました。 【各種許認可等取得支援助成金の交付】 ○エコアクション21の助成金交付が2件ありました。エコステージ及びISO14001の助成金交付はありませんでした。	
<担当部>産業経済部	

A-2 環境経営の推進 (2) 事業活動に伴う環境負荷の低減促進	
① 環境にやさしい商店街の推進	
(事業概要) 区内商店街に対して、関連補助制度等に関する情報提供や活用促進を図り街灯の省エネルギー化(LED化)を促します。また、商店街の活性化イベントの際に、環境・エコに関するテーマを盛り込むことを条件に助成を行い、商店街の課題解決、活性化を図ります。	
(内容) 【区商店街装飾灯設置補助金及び東京都政策課題対応型商店街事業】の活用 ○区及び東京都の事業を、積極的に情報提供及び申請等の支援を行い合計10商店街の装飾灯及びアーケードがLED化されました。	
<担当部>産業経済部	

A-3 環境産業の創出 (1) 新製品・新技術開発の支援	
① 環境関連の新製品・新技術開発の支援	
(事業概要) 大田区内の中小企業が取り組む新製品・新技術開発を支援するため、新製品・新技術開発に要する経費の一部を助成します。 大田区中小企業が開発した、優れた新製品や新技術を表彰することで技術力・開発力の向上意欲を醸成するとともに、大田区中小企業の技術力を広く内外にアピールします。	
(内容) 【開発ステップアップ助成・実用化製品化助成】 ○区内中小企業の技術力、製品開発力の向上を図り、付加価値を産み出すものづくり産業の活性化を図るため、試作開発に要する経費の一部を助成します。(上限500万円、対象経費の2/3) 助成実績は開発ステップアップ助成6件、実用化製品化助成11件でした。 【新製品・新技術コンクール】 ○区内企業が開発した優秀な新製品・新技術を表彰します。第29回大田区中小企業新製品・新技術コンクールでは、次の9件を表彰しました。「最優秀賞」1件、「優秀賞」2件、「奨励賞」3件、「おおた福祉・医療費」、「おおた秀逸技能賞」、「おおたネットワーク賞」各1件	
<担当部>産業経済部	

A-3 環境産業の創出 (2) 市場開拓の支援

① 世界へ発信する産業支援拠点の整備

(事業概要)

羽田空港跡地第1ゾーンに、「新産業創造・発信拠点」を整備し、国際化した羽田空港との隣接性や大田区が誇る基盤技術の集積を活かし、国内外の企業による交流・連携を促進して、新市場の開拓、新技術の創出につなげます。これにより大田区はもとより首都圏、日本全体に寄与する機能発揮を目指します。

(内容)

【羽田空港跡地第一ゾーン整備方針に基づく検討・実施】

- 「羽田空港跡地第1ゾーン整備方針」(平成27年7月)に基づき、跡地整備の取り組みを進めました。
- 「新産業創造・発信拠点」の形成に向け、羽田空港跡地第1ゾーン(第一期事業)の事業予定者を決定しました。

<担当部>空港まちづくり本部

A-4 環境技術分野における国際交流・貢献 (1) 国際環境交流の推進

① 国際貢献のための環境技術情報の提供

(事業概要)

区内企業の環境製品や技術を、区ホームページや展示会などで、国内外に広く発信します。また、海外からの視察や工場見学時などに、大田区の環境施策に関するノウハウや、5S活動を通じた職場環境維持改善の優良事例を提供します。

(内容)

- 大田区内企業における優れた環境製品や技術を紹介する「環境製品技術カタログ」の掲載企業を増やし、平成29年12月に日本語版、英語版を発行しました。
- 区ホームページでの公表以外に、公益財団法人大田区産業振興協会に依頼して、おおた工業フェア(平成30年1月31日(水)から2月2日(金)まで)などの展示会にパンフレットを置くなどして、区内企業の技術紹介に努めました。
- その他、環境に配慮した製品、技術、ノウハウを幅広く集め、ビジネスマッチングの活性化を目指して開催された「川崎国際環境技術展」(平成30年2月1日(木)、2日(金))にて配布しました。
- 産業振興課、産業振興協会では、区の産業について一層の理解、関心を深めるため、海外からの視察及び工場見学への対応を行っています。

<平成29年度実績(海外)>

- ・行政等からの依頼に対応 4団体(46人)
- ・民間等からの依頼に対応 7団体(102人)

- 産業振興課では、「ものづくり人材育成事業」の一環として、区内の団体の行う外国人技能実習生受入事業の経費の一部を助成しています。これにより、区内企業の有する製造、加工等の技術の海外移転及び海外企業との技術の交流を図るとともに区内産業の発展を目指しています。

平成29年度は企業からの助成申請はありませんでした。

<担当部>環境清掃部、産業経済部

A-5 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

(1) 事業者・行政の連携強化

① 環境配慮行動の促進 ☆

(事業概要)

セミナーやイベントの開催、ホームページなどによる情報発信、環境配慮製品の流通促進などの普及啓発活動により、家庭や事業所における省エネ行動を促進します。

(内容)

- 大田区内企業における優れた環境製品や技術を紹介する「環境製品技術カタログ」の掲載企業を増やし、平成 29 年 12 月に日本語版、英語版を発行しました。
- 区ホームページでの公表以外に、公益財団法人大田区産業振興協会に依頼して、おた工業フェア（平成 30 年 1 月 31 日（水）から 2 月 2 日（金）まで）などの展示会にパンフレットを置くなどして、区内企業の技術紹介に努めました。
- その他、環境に配慮した製品、技術、ノウハウを幅広く集め、ビジネスマッチングの活性化を目指して開催された「川崎国際環境技術展」（平成 30 年 2 月 1 日（木）、2 日（金））にて配布しました。

<担当部>環境清掃部、産業経済部

A-5 産業分野の取組みを推進するための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

(1) 事業者・行政の連携強化

② 事業者・行政の連携強化 ☆

(事業概要)

産業分野の取組みの推進エンジンとなる産官の連携体制を整備し、事業者と行政が一体となって取組みを進めます。

(内容)

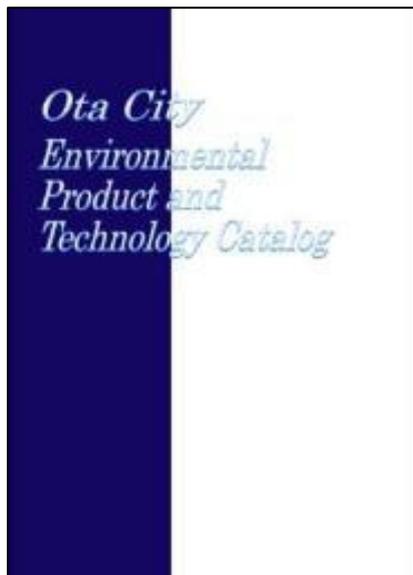
【環境課題解決のための取組支援業務委託】

- 食品廃棄物削減など循環型社会の構築や CO₂削減などの環境課題の解決に向け、区内企業が連携して、装置を開発し、環境学習や環境教育に役立てる事業について調査を実施しました。

【環境経営勉強会】

- 環境技術分野における国際交流・貢献をはじめ、産業分野の取組みには、区内企業、公益財団法人大田区産業振興協会、区関係部が一体となった取組みが必要となります。そのため、産業部局及び区内企業を交えた勉強会を平成 25 年度から立ち上げ、引き続き開催しました。「環境課題解決のための取組支援業務委託」についての調査結果を報告し、勉強会を実施しました。（参加企業 16 社 1 回）
「平成 29 年度 大田区都市型地産地消循環型社会モデル事業支援業務委託についての事業報告」
「平成 30 年度 環境課題解決の取組について」

<担当部>環境清掃部、産業経済部



「環境製品技術カタログ」の英語版



「川崎国際環境技術展」の様子

基本目標B 快適で安全な暮らしの実現
B-1 沿道環境の保全対策 (1) 騒音・振動対策の推進
① 自動車騒音・振動調査 ☆
<p>(事業概要) 自動車騒音・振動の実態把握とその対策のため、騒音・振動に関する調査を行い、関係機関へ対策を要望します。</p>
<p>(内容) ○幹線道路面的評価監視に係る調査を10区間で実施しました。 定定点(6幹線道路)として、第一京浜、第二京浜、産業道路、中原街道、環七通り、環八通り、準定定点(4地点 原則、5年周期で地点を変更)として、第二京浜、中原街道、ガス橋通り、産業道路を行いました。 道路近傍騒音 10区間中、昼間は5区間、夜間は2区間で環境基準を達成しました。 面的評価による環境基準達成率 10区間全体で昼間 89.7%、夜間 79.3%、昼夜とも 78.4% ○要請限度調査を2路線で2地点ずつ実施しました。 要請限度調査では振動は全地点・全時間区分で達成しました。騒音は昼間4地点で達成、夜間3地点で達成しました。騒音の環境基準は昼間2地点で達成、夜間1地点で達成しました。道路管理者に対して改善の要望を行いました。</p>
<担当部>環境清掃部

B-1 沿道環境の保全対策 (2) 大気環境の保全対策の推進
① 大気汚染調査 ☆
<p>(事業概要) 区内の大気汚染の状況を把握するため、住宅地などの一般環境、主要な道路沿道に測定局を設置し、常時測定を行います。 光化学スモッグによる被害を防止するため、光化学オキシダント濃度が高くなった場合は光化学スモッグ注意報等を発令します。</p>
<p>(内容) 【大気汚染常時監視測定結果】 ○環境基準が定められている大気汚染物質について、住宅地域等に設置している一般環境大気測定局5局と、主要な道路沿道に設置している自動車排出ガス測定局3局で測定を実施しました。 ・二酸化硫黄 全測定局で環境基準を達成 ・二酸化窒素 全測定局で環境基準を達成 ・光化学オキシダント 全測定局で環境基準を非達成 光化学スモッグの学校情報の提供日数は3日、注意報発令日数は1日 ・浮遊粒子状物質 全測定局で環境基準を達成</p>
<担当部>環境清掃部

B-1 沿道環境の保全対策 (2) 大気環境の保全対策の推進
② 都市計画道路の整備 ☆
<p>(事業概要) 交通渋滞による道路周辺環境への影響を軽減するため、区内都市計画道路の整備推進を図るとともに、国や東京都に働きかけます。</p>

(内容)

大田区で行った事業

事業中：補助線街路第 38 号線（羽田旭町付近）・43 号線（仲池上付近）・44 号線（上池台付近）
大田区画街路第 1 号線（北千束付近）・7 号線（蒲田駅東口）
京浜急行電鉄本線付属街路第 2 号線（梅屋敷駅前）

<担当部>都市基盤整備部、まちづくり推進部

B-2 環境保全対策 (1) 水環境の保全対策の推進

① 河川等水質浄化対策の推進

(事業概要)

東京都や流域自治体と連携して、合流式下水道の改善、浄化施設、河床整正などの統合的な水質浄化対策やユスリカ対策などを実施していきます。

また、透水性舗装や雨水貯留槽、屋上緑化の整備のほか、保護樹林・樹木の保護・育成を行い、下水道へ流入する雨水の量と河川へ越流する下水の量を削減するとともに、地下水や湧水のかん養に努めます。

さらに、下水道からの越流水そのものの汚濁を減らすため、生活排水減量の啓発活動を実施するほか、区道の路面や雨水ますの清掃などを実施します。

河川の実態や水質浄化対策の効果を把握するため、定期水質調査や河川パトロールを実施します。

(内容)

【水質浄化対策の研究・実施】

○呑川水質浄化対策研究会実施

<水質改善に関する取り組み>

- ・高濃度酸素水浄化施設設置工事（旧西蒲田五丁目児童遊園遊具その他撤去工事、送水管布設工事）の実施
- ・スカム発生抑制装置の効果検証
- ・河床整正工事の実施
- ・汚泥浚渫工事の実施
- ・改善効果を把握するための水質調査等の実施

<合流式下水道の改善に関する取り組み：東京都下水道局主体>

- ・貯留施設による合流改善の整備計画に関する調整
- ・高速ろ過マンホールシステムの整備計画に関する調整

○呑川水質・底質定期調査及び水質連続測定等の調査を実施

【透水性舗装】

道路改修工事における透水性舗装の施工

【道路浸透ますの設置】

道路浸透ます設置工事 10 か所

<担当部>都市基盤整備部、環境清掃部



呑川のスカム発生抑制装置の様子
(太平橋上流)

B-2 環境保全対策 (1) 水環境の保全対策の推進

② 水質汚濁調査

(事業概要)

事業所排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、分流式下水道地区(埋立域)での工場指導を実施します。

(内容)

○雨水ますに工場排水が入らないよう、分流式下水道地区(埋立地)での有害物質取扱工場の認可申請時に指導しました。

<担当部>環境清掃部

B-2 環境保全対策 (2) 環境保全対策の推進

① 鉄道騒音・振動調査

(事業概要)

新幹線、在来線の鉄道騒音・振動の調査を実施します。

(内容)

○区内には新幹線や在来線が多く走るため、概ね7年ごとに路線別の鉄道騒音と振動の調査を行っています。東横線と目黒線は、それぞれ2地点、大井町線は、1地点で騒音と振動の調査を行いました。東横線、目黒線及び大井町線について騒音・振動の指針値や環境基準はありませんが、調査結果を鉄道事業者に伝え、引き続き環境に配慮を求める要望を行いました。

<担当部>環境清掃部

B-2 環境保全対策 (2) 環境保全対策の推進

② 航空機騒音調査

(事業概要)

平成20年の横田空域返還に伴う区内上空飛行ルートの変更調査に加え、羽田空港の増便が検討されていることから、航空機騒音を把握するため騒音調査を継続します。

(内容)

○航空機騒音の常時監視を区内3か所と、短期測定を9月と12月にそれぞれ4か所で行いました。常時監視測定局と短期測定のすべてについて環境基準を達成していました。

○区内上空を飛行する内陸飛行騒音調査を12月に5地点で行いました。

内陸部の調査地点では環境基準の指定区域外ですが、環境基準の最も厳しい値を準用した場合でも騒音レベルはその値を下回っていました。引き続き監視を行っていきます。

<担当部>環境清掃部



航空機騒音調査の様子

B-2 環境保全対策 (2) 環境保全対策の推進

③ 土壌汚染対策

(事業概要)

土壌汚染による人の健康被害の防止に努め、区民の健康で安全かつ快適な生活を確保するため、有害物質取扱事業者に指導します。

(内容)

- 土壌汚染が社会的問題となり、工場跡地からの有害物質の拡散を心配する声が寄せられています。土壌汚染の状況を把握し、人への健康影響を防止することを目的として、土壌汚染対策法、環境確保条例及び大田区土壌汚染防止指導要綱が定められており、環境対策課では、環境確保条例第116条及び要綱に基づき、工場等を廃止する手続きの際に有害物質等の取扱いを確認し、適正な対策を取るよう指導、助言しています。
- 環境確保条例に基づく届出情報を提供するため、区政情報コーナーに台帳を配置し、区民等が自由に閲覧できるようにしています。
- 大田区土壌汚染防止指導要綱に基づき、危機管理の観点から災害や事故発生時に有害物質及び鉱油類の流出等による土壌等への汚染を防止するとともに、汚染の拡散を抑えるため事業者による自主管理体制を確立するよう指導を行っています。

<担当部>環境清掃部

B-2 環境保全対策 (2) 環境保全対策の推進

④ 事業所の危機管理対策

(事業概要)

災害時等に大規模な有害物質の流出を防止するため、少量でも化学物質を取扱っている工場での自主管理支援を行い、危機管理体制を確立します。

(内容)

- 平成28年度から「適正管理化学物質」の使用量が100kg未満の事業所に対し、「化学物質等使用状況及び現況報告」の提出を求めています。化学物質の使用有りと回答があった事業所に立入り調査を実施し、化学物質の保管・取扱い方法や災害時等に発生する漏洩等に対応できる態勢を確立するための指導、助言を行い、自主管理体制確立を促しています。

<担当部>環境清掃部

B-2 環境保全対策 (2) 環境保全対策の推進

⑤ 安全安心な暮らしのための情報提供

(事業概要)

区内放射線量の測定など、区民等や事業者の安全・安心な暮らしのために必要な情報提供を行います。

(内容)

○区内1か所で空間放射線量の測定を定期的に行うとともに、ホームページ等で測定結果を公表しました。また、北朝鮮による核実験の実施を受け、区民の不安に応えるため臨時に測定を実施し、測定結果を公表しました。

<担当部>環境清掃部

B-3 美しい都市環境の創造 (1) 景観・美観に配慮したまちづくり

① 景観計画の推進

(事業概要)

各地域の特性に応じた自然や多様な歴史資源、生活文化を、まちづくりに活かすため、平成25年10月に策定した「大田区景観計画」に基づき、個性と魅力あふれる良好な景観形成を誘導します。

(内容)

【景観計画の推進業務】

○大田区景観計画に基づく良好な景観形成の誘導

- ・大田区景観条例に基づく行為の事前協議 (134件)
- ・景観法に基づく行為の届出 (117件)
- ・景観法に基づく行為の通知書 (11件)
- ・景観法に基づく行為の変更届 (55件)
- ・大田区景観条例に基づく行為の完了報告書 (41件)
- ・大田区景観アドバイザー会議 (23物件)
- ・大田区景観審議会開催 (2回)

○大田区景観計画の推進

- ・第2回大田区景観まちづくり賞の募集及び受賞者の決定を行いました。(応募数68件のうち、街並み景観部門6件、景観づくり活動部門2件が受賞)。また、景観パネル展を本庁舎1階及び3階で開催しました。
- ・大田区景観審議会を2回、大田区景観審議会専門部会を2回、大田区景観審議会景観賞専門部会を3回開催しました。第9回大田区景観審議会において、「第2回大田区景観まちづくり賞受賞候補の決定」および「(仮称)洗足池景観形成重点地区の追加指定等に伴う大田区景観計画の変更(案)」を諮問し、「諮問のとおり定めることが適当である。」との答申を受けました。

<担当部>まちづくり推進部



景観パネル展

B-3 美しい都市環境の創造 (1) 景観・美観に配慮したまちづくり

② 歩きタバコ・路上喫煙対策

(事業概要)

区民の生活環境の向上を図ることを目的に、公共の場における歩行（自転車等運転中を含む）喫煙及び吸い殻等のポイ捨てを防止するための区民意識の啓発等総合的な施策の推進並びに、喫煙マナーに関わる問題について必要な措置を講じます。

(内容)

【喫煙マナー向上のための啓発】

○広報媒体を利用して「清潔で美しい大田区をつくる条例」の周知徹底を図りました。

（標語等を区報及び区ホームページへ掲載）

○小型横断幕の掲出、ポスター及びステッカーの配布を実施しました。

○たばこの吸い殻等の著しい地域の路上等に、喫煙マナー啓発路面シートを貼付して、歩きタバコ及びポイ捨てを抑制しました。（年間 90 枚貼付）

【大田区クリーンキャンペーンの実施】

○ポイ捨て・歩きタバコのない清潔で快適な地球環境と放置自転車のない安全で美しいまちを目指すため、春と秋に大田区クリーンキャンペーンを実施しました。

・春の大田区クリーンキャンペーン 4 駅・参加者 326 人

・秋の大田区クリーンキャンペーン 20 回・参加者 609 人

○その他 区内 1 か所・1 回・参加者 47 人

【区内巡回喫煙マナー啓発・指導業務の実践】

○区内の主要駅（蒲田駅を除く）周辺で 2 人 1 組の喫煙マナー啓発・指導員を配置し、喫煙マナー向上の呼びかけによる巡回を実施しました。（年間 106 日）

○蒲田駅周辺で 2 人 1 組の喫煙マナー啓発・指導員を配置し、喫煙マナー向上の呼びかけによる巡回を実施しました。（年間 213 日）

【歩きタバコ及び吸い殻の散乱防止対策】

○安心安全で快適な生活を実現するために、指定喫煙所の清掃及び適切な管理を実施しました。（1 月 1 日～3 日を除く毎日）

<担当部>環境清掃部



喫煙マナー向上のための啓発ステッカー

B-3 美しい都市環境の創造 (1) 景観・美観に配慮したまちづくり

③ 地域美化活動の支援

(事業概要)

区民等、事業者及び団体の相互協力による、環境美化活動を支援し、地域の美化を推進します。

(内容)

【地域美化活動への支援】

○各特別出張所と連携して、自治会・町会・事業者及び団体等が行う、公共の場所の清掃活動に支援用品を支給して地域の環境美化を推進しました。

(181 団体 ごみ袋 14,175 枚・軍手 11,289 双)

【多摩川統一美化活動】

○5月28日(日)、環境対策課主催の「平成29年度 多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」が開催され、羽田地区の7町会(羽田大鳥居町会、羽田西町町会、羽田前河原町会、羽田横町町会、羽田大東町会、本羽田一丁目町会、本羽田三丁目都南自治町会)が参加しました。

【鶉の木地区一斉清掃】

○6月15日(木)、「鶉の木クリーンアップディ」と称し、鶉の木地区7町会(鶉の木東・鶉の木西・鶉の木二丁目・鶉の木三丁目・千鳥南・千鳥北・南久が原一丁目)・東調布第三・嶺町・千鳥小学校、大森第七中学校、東京高校で鶉の木地区の一斉清掃を行いました。多くの方の協力を得ることができ、625名の参加があり、78袋のごみが集まりました。

【スポーツ GOMI 拾い大会】

○2月25日(日)、羽田地区で「第9回大田スポ GOMI 大会」が開催されました。地元の学校、自治会・町会、地域団体、企業を中心に57チームの参加があり、ごみの総重量は147.81kgになりました。制限時間(1時間)内に定められたエリア内で拾ったごみの質と量(燃えるごみ100g⇒10pt、たばこの吸い殻100g⇒100pt等)をポイントに換算し、競いました。また、企業の方々にも実行委員として参画いただき、大会PRや運営を含め、企画段階からお手伝いいただきました。

○3月3日(土)、池上地区で「第6回池上スポーツ GOMI 拾い大会」が開催されました。地元の小・中学生、自治会・町会、地域団体、企業等31チームの参加があり、ごみの総重量は137.73kgになりました。制限時間(1時間)内に定められたエリア内で拾ったゴミの質と量(粗大ゴミ、指定ゴミ袋に入らないゴミ等については、エリア地図に○をつけゴミの種類を明記し計量時に報告)をポイントに換算し競い合いました。

<担当部>環境清掃部、地域力推進部

B-4 自然災害に強いまちづくり (1) 健全な水循環の確保に向けた取組みの推進

① 健全な水循環の確保に向けた取組みの推進

(事業概要)

総合治水対策の一環として、下水道へ流入する雨水の量と河川へ越流する下水の量を削減するとともに、雨水を地下に浸透させ、水循環を豊かにし、地下水等を保全するため、道路での透水性舗装や道路浸透ますの設置等を行います。

また、民有地での雨水浸透ます等の設置に対して助成を行います。

(内容)

【雨水浸透ます・雨水貯留槽の設置補助事業】

○雨水浸透ます設置助成：1件

○雨水貯留槽設置助成：177件、小型203基、大型1基

【透水性舗装】 道路改修工事における透水性舗装の施工
【道路浸透ますの設置】 道路浸透ます設置工事 10 か所

<担当部>都市基盤整備部、まちづくり推進部

B-4 自然災害に強いまちづくり (2) 地域分散型エネルギーの確保

① 緊急時のエネルギー確保のための対策の推進

(事業概要)

避難所等において、災害発生直後に必要な電力や熱を確保するため、太陽光発電などの再生可能エネルギーや環境負荷の少ない天然ガス等を活用したコージェネレーションシステム、蓄電池等の分散型エネルギーシステムの導入を検討します。

また、導入したシステムを活用し、平常時の電力ピークカット等、エネルギーの効率的な活用を図り、温室効果ガスの削減を図ります。

(内容)

○災害時に避難所となる小・中学校に太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーの導入に向けた検討を行い、平成 26 年度に備蓄物品として 91 か所の避難所に持ち運び可能なソーラー発電システム及び照明器具を配備しました。

○ニッセイアロマスクエア街区の防災化対策を実施しました。(平成 27 年 7 月から稼働) 災害時避難場所となっている大田区民ホール (アプリコ) とニッセイアロマスクエアビル、蒲田東地域冷暖房センターの電力システムを統合し、ガスコージェネレーションシステムを導入することで、停電時の電気の最適運用が可能となりました。

<担当部>企画経営部、総務部、環境清掃部



ソーラー式蓄電池



非常用電源・照明器具

基本目標 C 低炭素社会の構築
C-1 省エネルギー型の行動様式への転換
(1) 家庭・事業所における省エネルギー行動の促進
① 家庭における省エネ型行動様式（生活様式）への転換
(事業概要) セミナーやイベントの開催、ホームページなどによる情報発信、普及啓発活動により、家庭の省エネ行動を促進します。
(内容) 【地球温暖化防止講演会】 ○地域における地球温暖化防止の機運の醸成と取組みを推進するため、地球温暖化防止講演会を開催しました。 ・お天気キャスター木原実の「2050年!地球未来予報」 6月10日(土) 東京工科大学・日本工学院専門学校3号館地下1階大講義室 講師 気象予報士・防災士 木原 実氏 参加者 320人 ・JAL工場見学SKY MUSEUMとそらエコ教室「飛行機の世界から学ぶ地球温暖化対策」 12月9日(土) JALメンテナンスセンター1 講師 パイロット 秋吉 信一 氏 参加者 70人(中高生) 【こども環境教室】 ○燃料電池車(公用車)と企業のCSRを活用し、「こども環境教室」を開催しました。 ・「燃料電池車の出前授業」 小学校6校、参加者 397人 ・「ものづくり教育・学習フォーラム(教育委員会主催)」への出展 1月20日(土) 大田区産業プラザ 参加者 600人 【エコレシピコンクール】 ○地球温暖化防止、食品ロス削減、ごみ減量を目的にエコレシピコンクールを開催しました。 ・応募期間 5月29日(月)～9月27日(水) 応募件数 152件 ・最終審査 12月16日(土) 佐伯栄養専門学校 最優秀賞1件 優秀賞2件 入賞3件 【リーフレットの作成】 ○省エネ型行動様式への転換を促進するため「はねぴよんの省エネハンドブック ～小さな暮らしの工夫が未来の地球を変える!?～」を作成しました。 【地球温暖化対策地域協議会と区の連携による普及啓発活動】 ○家庭における省エネ行動の促進を目的に、エコレシピコンクール最優秀作品を活用したエコライフ講習会「環境にやさしいお料理教室」を開催しました。 3月17日(土) 佐伯栄養専門学校 参加者 32人 ○家庭における省エネ行動の促進を目的に、自治会町会等が開催する省エネ講習会に講師を派遣しました。 ・NPO法人大田・花とみどりのまちづくり 10月15日(日) 参加者 18人 ・地域力推進六郷地区委員会 11月14日(火) 参加者 65人 ○家庭における省エネ行動の促進と児童の環境意識の向上を目的に、夏休みバス見学会を開催しました。 8月2日(水) 大田清掃工場・(株)リーテム東京工場 参加者 18組 39人 ○地球温暖化防止活動の普及を目的に、「OTAふれあいフェスタ」に出展し、環境クイズを実施しました。 11月4日(土)、5日(日) 参加者約2,500人 協力団体：大田空調衛生協会、大田区商店街連合会、大田区リサイクル事業協同組合、大田建設協会、大田造園協会、大田・花とみどりのまちづくり、大森法人会、キャノン(株)、(株)金羊社、京浜急行電鉄(株)、城南環境カウンセラー協議会、城南地区廃棄物リサイクル協同組合、東京ガス(株)、東京環境保全協会、東京急行電鉄(株)、東京工業大学坂野研究室、東京電力パワーグリッド(株)、東六郷一丁目町会(蒲田法人会、

大同生命保険(株)、(株)マコト、(株)読売情報開発法人事業部、プリンス電機(株)、(株)三尾建設ハウジングコミュニティ

○地球温暖化防止活動の普及と次代を担う子どもたちの環境意識の向上を目的に、「エコフェスタワンダーランド in 蒲田」に出展し、省エネグッズや水素をつくる自転車・燃料電池自動車モデル・風力発電の体験、デジタル地球儀「触れる地球」の展示などを行いました。

2月25日(日) 参加者約500人

協力団体：東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター

<担当部>全所属、環境清掃部



木原実の 2050 年!地球未来予報



JAL 工場見学 SKY MUSEUM とそらエコ教室

C-1 省エネルギー型の行動様式への転換

(1) 家庭・事業所における省エネルギー行動の促進

② 事業所における省エネ型行動様式への転換

(事業概要)

セミナーやイベントの開催、ホームページなどによる情報発信、普及啓発活動により、事業所における省エネ行動を促進します。

(内容)

【地球温暖化対策地域協議会と区の連携による普及啓発活動】

○事業者の省エネ行動の促進を目的に省エネ対策セミナー「アルプス電気(株)の挑戦!BEMSを最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」を開催しました。

3月1日(木) 調布地域庁舎・アルプス電気(株)本社ビル 参加者25人

○東京都地球温暖化防止活動推進センターが実施する「省エネ診断」の受診促進に取り組みました。

実施数 11件

<担当部>環境清掃部、産業経済部



省エネ対策セミナー



アルプス電気(株)本社ビルの見学

C-1 省エネルギー型の行動様式への転換 (2) 区役所による率先行動

① 区の業務から排出される二酸化炭素 (CO₂) の削減

(事業概要)

「地球温暖化対策推進法」に基づく実行計画として策定した「大田区役所エコオフィス推進プラン」を着実に推進し、区の業務から排出される二酸化炭素 (CO₂) を削減します。

(内容)

【大田区役所エコオフィス推進プラン第4次計画】

○計画期間：平成27年度～31年度

○基準年度：平成21年度

○削減目標と平成29年度実績

[二酸化炭素排出量]

目標：基準年度比 △15%

実績：30,366 t-CO₂ (基準年度比△7.9%)

[エネルギー消費原単位 (原油換算エネルギー消費量/延床面積)]

目標：基準年度比 △15%

実績：0.0181kL/m² (基準年度比△1.6%)

[上水道使用量]

目標：基準年度比 △15%

実績：1,222 千m³ (基準年度比△11.9%)

[コピー用紙使用量]

目標：基準年度以下

実績：382.2 t (基準年度比+16.0%)

[廃棄物排出量]

目標：基準年度以下

実績：3,549 t (基準年度比+2.9%)

【大田区役所エコオフィス推進プランの取組強化】

○区職員の環境マインド向上と取り組みの内外への発信を目的に環境省が実施するCOOL CHOICE及びFan to Shareに賛同登録しました。

○区の業務から発生する環境負荷の低減及びコピー用紙の削減を目的に、世界初の水を使わない製紙技術により庁舎内で使用済みコピー用紙を再生する乾式オフィス製紙機「PaperLab」を本庁舎2階に設置しました。

○各部局における省エネ・省資源対策の推進を目的に、電気・ガス・水道・コピー用紙などの使用状況や経年変化を見える化するエネルギー管理システムを導入しました。

○各施設でのエネルギー使用量の削減を目的に、事業者向け省エネ対策セミナー「アルプス電気(株)の挑戦! BEMSを最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」に参加しました。

3月1日(木) 調布地域庁舎・アルプス電気(株)本社ビル 参加者7人

<担当部>全所属、環境清掃部



乾式オフィス製紙機「PaperLab」

C-1 省エネルギー型の行動様式への転換 (3) 住宅・建築物の省エネルギー化の促進

① 住宅・建築物の省エネルギー化の促進

(事業概要)

住宅リフォーム助成及びおおた住まいづくりフェアの実施による住宅の省エネルギー改修の支援及び普及啓発を行うことにより、住宅の省エネルギー化を促進します。

(内容)

【住宅リフォーム助成事業】

○総助成件数・助成額 598件 62,653,000円

[助成内訳]

最低額 10,000円～最高額 300,000円、300,000円助成 ⇒2件

○リフォーム工事内容 (重複あり)

- ①節水トイレ 166件 (27.76%)
- ②手摺設置 28件 (4.68%)
- ③浴室改修 147件 (24.58%)
- ④窓改修 68件 (11.38%)
- ⑤屋根・外壁改修 432件 (72.23%) ※塗装含む
- ⑥段差解消 25件 (4.18%)

【おおた住まいづくりフェアの開催】

○「第8回おおた住まいづくりフェア」を開催し、断熱性能の高い窓、遮熱塗料及び省エネ機器等の展示・紹介を行いました。

11月26日(日) 参加者2,298人

<担当部>まちづくり推進部

C-2 低炭素まちづくり (1) 環境にやさしいまちづくり

① 中心拠点のまちづくり

(事業概要)

蒲田、大森、空港臨海部のまちづくりにおいて、緑づくりや基盤施設整備などの促進を図り、低炭素なまちづくりに取り組みます。

(内容)

【蒲田駅周辺再編プロジェクト(駅周辺都市基盤整備)】

- ・蒲田駅西口駅前広場整備工事その2及びその3が完了しました。
- ・蒲田駅東口駅前広場予備設計及び地下自転車駐車場詳細設計が完了しました。

【大森駅西側のまちづくり】

- ・補助第28号線(池上通り)の慢性的な渋滞、歩行者環境等の改善に向けて、関係機関との協議、まちづくり協議会での検討を行いました。
- ・これまでの協議結果などを踏まえて、区として、「大森駅西口基盤整備の基本的考え方」を取りまとめました。

【大森駅東側のまちづくり】

- ・大森駅東口駅前広場の中長期整備に向けた概略検討を行いました。
- ・平和島駅周辺の歩行者環境改善のために、関係機関との協議を行いました。

【空港臨海部まちづくり・交通ネットワーク等調査の実施】

- ・空港臨海部の産業のあり方や空港・港湾に隣接する立地特性を活かした適切な土地利用(活用)誘導の実現に向けて、地元工業団体等と連携して空港臨海部におけるまちづくりのアクションプラン等を実施しました。

<担当部>まちづくり推進部、都市基盤整備部

C-2 低炭素まちづくり (2) 交通ネットワークの構築

① 空港臨海部における交通ネットワークの検討

(事業概要)

空港臨海部の交通ネットワークについて、観光的側面も考慮しながら、公共交通機関、道路網、舟運、新たな交通システムを含めた、低炭素まちづくりに寄与する交通ネットワークの検討を進めます。

(内容)

【空港臨海部将来構想に基づいた交通ネットワークの検討】

○空港臨海部まちづくり・交通ネットワーク等調査において、空港臨海部における交通負荷の軽減や低炭素社会の実現の観点から、平成 28 年 3 月に開通した国道 357 号東京港トンネル(海側部分)がもたらす周辺道路への影響調査の結果を踏まえ策定した、具体的な整備方策の早期着手に向けて関係機関へ働きかけました。

多摩川トンネルの整備については、国交省の進捗状況を把握するとともに、国・東京都等の関係機関に対して、引き続き早期の整備着手及びしゅん工を強く働きかけました。

内陸部から臨海部へのアクセス改善策のため、大森駅～京浜島間における既存路線バス便の拡充について事業者と協議を行いました。

さらに、新交通システム導入の実現に係る効果・検証等を行いました。

【水上輸送ネットワークの検討】

○空港臨海部まちづくり・交通ネットワーク等調査において、移動手段やにぎわい観光の両面から舟運事業の可能性を把握するために、平成 28 年度に引き続き、社会実験として検証運航を実施しました。

また、災害時における水上輸送計画について、国及び都の関係部局の関連計画との調整等を行いました。

【羽田空港周辺交通対策の推進】

○東京港湾区域における都・港湾局による大井ふ頭その 1・その 2 埋立事業がしゅん工に伴い、路上待機車両等の解消が進展するとともに、埋立区域内に新たな構内道路が開通する等、東京港湾区域内の総合渋滞対策の着実な進捗について確認しました。

<担当部>まちづくり推進部

C-2 低炭素まちづくり (2) 交通ネットワークの構築

② 新空港線「蒲蒲線」の整備推進

(事業概要)

区内の移動利便性の向上と国際化した羽田空港と都心・副都心とのアクセス機能強化を図るため、矢口渡駅から京急蒲田駅間の早期整備に向けた取組みを促進していきます。

(内容)

【新空港線「蒲蒲線」の早期整備実現に向けた取組み】

- 答申第 198 号に基づき、関係者合意に向けて、事業範囲・費用負担割合・都市計画事業への位置付け等について、関係機関で協議を実施しました。
- 早期実現に向けて、平成 29 年 9 月に 15 区、3 市長連名による新空港線の要望書を小池都知事に手渡しました。知事からは「皆様方の御意見をしっかり受け止めて、課題を解決するように検討を進めていきたい」との言葉を頂きました。
- 整備実現に向けて、より具体的な事業計画などを区民一人ひとりに理解いただけるよう、様々なイベント（二十一世紀桜祭り、大蒲田祭、OTAふれあいフェスタ、空の日、商い観光展）等で周知・啓発活動を実施しました。
- 新空港線整備資金積立基金積立基金 10 億円を積み立てました。（平成 29 年度末基金総額 40 億円）
- 平成 30 年度中の整備主体設立に向けた出資金として、平成 30 年度予算に 1 億 8,000 万円を計上しました。

<担当部>まちづくり推進部

C-2 低炭素まちづくり (2) 交通ネットワークの構築

③ コミュニティバスの運行支援

(事業概要)

区内交通不便地域を解消するため、地域が支えるコミュニティバスの導入を検討するとともに、運行を支援します。

(内容)

- 収支採算性を向上させるため、利用案内の配布（公共施設、地元店舗、地元マンション）、ホームページへの掲載、各種イベント（二十一世紀桜祭り、子供ガーデンパーティー、環境フェア、子供フェスティバルなど）において、たまちゃんバスの展示や子供たちへの塗り絵・折り紙等を実施して利用促進を図りました。
また、二十一世紀桜祭り、環境フェアで回数券の販売を実施しました。
- 広告事業は、車内掲載広告と車内放送広告を総価契約に変更して収支改善を図りました。車外ラッピング広告の販売を開始しました。
- たまちゃんバスのイメージキャラクターの商標登録をしました。
- 乗車人員 63,230 人（前年度（平成 28 年度）比、5,522 人増）
- 試行運行を開始して 8 年が経過していることから、今後の運行方法について条件を以下のとおり決めました。
①本格運行移行・本格運行継続条件（収支率 50%以上）②試行運行期間（平成 31 年度まで）
- さらなる利用改善を図るため、行政、事業者、地元関係者による「大田区コミュニティバス等検討会議・作業部会」を 5 回開催して、改善案（バス停移設、運行時間の追加等）の方向性をまとめました。
- 他の交通不便地域※へのコミュニティバス導入条件について、他の自治体を調査し整理しました。

○平成 29 年度末に策定した交通政策基本計画に、コミュニティバスを含めたバスネットワークの充実等、交通不便地域の改善の方向性を示しました。

※交通不便地域：大田区では、鉄道駅から 500m 以上かつバス停からも 300m 以上離れている地域を公共交通不便地域と設定しています。

<担当部>まちづくり推進部

C-2 低炭素まちづくり (2) 交通ネットワークの構築

④ 自転車等利用総合対策の推進

(事業概要)

地球環境にやさしい自転車の利用について、警察や鉄道事業者などの関係機関及び地域の方々と連携・強化を図ることで、駅周辺の放置自転車対策や自転車走行空間の整備、コミュニティサイクルの導入を推進するとともに、自転車利用者に対する交通ルールの遵守、交通マナーの向上を呼び掛け、安全で安心なまちづくりを推進します。

(内容)

【自転車等利用総合基本計画に基づく整備計画一策定】

- 糀谷駅前地下自転車駐車場、梅屋敷駅自転車駐車場、雑色駅高架下自転車駐車場を新規開設しました。
- 萩中公園において自転車安全教室（スケアード・ストレイト方式）を開催しました。
- 糀谷商店街振興組合、萩中通り商店会において、商店街自転車押し歩き運動を実施しました。
- 大田区全域において、約 14.3km の自転車走行空間の整備をしました。
- コミュニティサイクル事業として、蒲田、大森、臨海部、糀谷・羽田地区ほか、馬込等の台地部を中心にサイクルポート（駐輪場所）を 35 ポート設置し、計 42 ポートと事業を拡大しました。
- 都心部 7 区（千代田区等）と調整を行い、平成 30 年 4 月 1 日から品川区と共に「広域相互利用」へ参加することに至りました。

<担当部>都市基盤整備部

C-2 低炭素まちづくり (2) 交通ネットワークの構築

⑤ 公共交通の利用促進

(事業概要)

空港利用者等の増加が見込まれるなかで、周辺道路の渋滞による環境面での影響や二酸化炭素（CO₂）発生の抑制のため、空港利用者等の公共交通機関への誘導を図ります。

(内容)

【公共交通への誘導促進用横断幕・懸垂幕の掲出】

- 本庁舎 JR 側外壁面へ横断幕を掲出しました。
- 本庁舎正面へ懸垂幕を掲出しました。

<担当部>環境清掃部

C-2 低炭素まちづくり (3) ヒートアイランド対策の推進	
① 呑川緑道における風の道のまちづくり	
(事業概要)	呑川沿いの道路を環境に配慮した透水性・遮熱性舗装などに改良するとともに、街路樹を植樹することによって、風の道を創出していきます。
(内容)	【呑川緑道の整備（風の道）】 ○整備工事（東雪谷五丁目、約 80m）
<担当部>都市基盤整備部	

C-2 低炭素まちづくり (3) ヒートアイランド対策の推進	
② 緑化の推進	
(事業概要)	地球温暖化防止、温熱環境の改善、自然環境の創出を図ることを目的として、生垣造成、及び建築物の屋上・壁面の緑化を推奨し、これら緑化を行う区民に助成します。 また、緑のカーテンなどの講習会を開催します。
(内容)	区ホームページや区報に掲載し、周知しました。 【生垣造成助成】 ○助成実績 12件 195m 【屋上・壁面緑化助成】 ○区ホームページや区報に掲載し周知しましたが、照会はあるものの助成には至らず、助成実績はありませんでした。 【緑のカーテン講習会】 ○省エネルギー効果のある「緑のカーテン」を広く区民に周知し、楽しみながら継続的に取り組める地球温暖化対策として、栽培方法などを習得する講習会を開催しました。 4月15日（土） 六郷特別出張所 参加者 27人 4月16日（日） 鶉の木特別出張所 参加者 27人 4月16日（日） 大田区役所 参加者 69人 4月22日（土） 大田文化の森 参加者 70人
<担当部>環境清掃部	

C-2 低炭素まちづくり (3) ヒートアイランド対策の推進

③ 打ち水の普及促進

(事業概要)

打ち水イベントの開催や用具等の貸出等により、ヒートアイランド対策としての打ち水の普及を図ります。

(内容)

【おおた打ち水大会】

○ヒートアイランド対策及び地球温暖化対策の推進を目的に、大蒲田祭（蒲田東口商店街）で「おおた打ち水大会」を開催しました。

8月6日（日） 参加者 約300人

【打ち水支援事業】

○打ち水の普及促進を目的に、打ち水用具の貸し出し及び給付を行いました。

貸出件数 1件 給付件数 56件

<担当部>環境清掃部



おおた打ち水大会

C-3 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大 (1) 区有施設への積極導入

① 区有施設への再生可能エネルギー設備等の導入、エネルギーの効率化・最適化設備の利用促進 ☆

(事業概要)

区有施設の建設等の際には、再生可能エネルギーや高効率の設備の導入など環境配慮型の施設を検討します。

また、導入したシステムを活用し、平常時の電力ピークカット等、エネルギーの効率的な活用を図り、温室効果ガスの削減を図ります。

(内容)

○羽田一丁目複合施設新築、羽田四丁目複合施設新築、六郷図書館改築で再生可能エネルギー設備の導入等を検討しました。

○改築を行った東六郷小学校で 256W のハイブリッド（太陽光・風力発電）の外灯を設置しました。

○改築を行った東六郷小学校と志茂田中学校の体育館に地熱を利用した換気設備を設置しました。

<担当部>企画経営部、都市基盤整備部、環境清掃部

<これまでの導入例>



東六郷小学校 太陽光発電設備 20kW



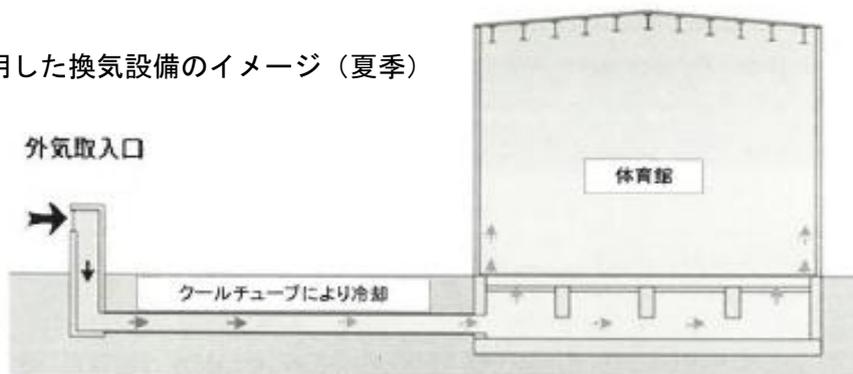
志茂田中学校 太陽光発電設備 50kW



障がい者総合サポートセンター 太陽光発電設備 5kW



地熱を利用した換気設備のイメージ（夏季）



C-3 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大 (2) 区民・事業者の導入の支援

① 住宅用太陽エネルギー利用機器等の設置拡大 ☆

(事業概要)

住宅に設置される太陽エネルギー利用機器等の費用の一部を補助し、導入を支援します。

(内容)

○住宅に太陽エネルギー利用機器等を設置した方に、その費用の一部を補助しました。

	〔実績〕		〔累計〕	
太陽光発電システム	103 件	478.37 kW	2,845 件	12,292.90 kW
太陽熱ソーラーシステム 及び太陽熱温水器	} 0 件	0.00 m ²	31 件	132.81 m ²

※資源エネルギー庁が公表する区内の太陽光発電システム(10kW未満)設置件数 3,792 件、容量 14,676.70kW(平成 29 年 9 月末時点)

<担当部>環境清掃部

C-3 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大 (2) 区民・事業者の導入の支援

② 大規模開発時における再生可能エネルギーの導入促進 ☆

(事業概要)

「地域力を生かしたまちづくり条例」により大規模開発時の再生可能エネルギーの導入を促進します。

(内容)

○「地域力を生かした大田区まちづくり条例」第 63 条の再生可能エネルギーの活用に基づき、再生可能エネルギー導入計画書を提出を受けました。

提出件数 138 件 うち導入予定 太陽光発電システム 6 件 (225.54kW)

<担当部>環境清掃部

C-3 環境にやさしいエネルギー等の導入拡大 (3) 次世代エネルギーの普及促進

① 次世代エネルギーの普及促進 ☆

(事業概要)

環境にやさしい次世代エネルギーの普及促進のため、情報提供を図ります。

(内容)

○燃料電池車（公用車）と企業の CSR を活用し、「こども環境教室」を開催しました。

- ・「燃料電池車の出前授業」 小学校 6 校、参加者 397 人
- ・「ものづくり教育・学習フォーラム（教育委員会主催）」への出展
1 月 20 日（土） 大田区産業プラザ 参加者 600 人

○「第 17 回エコフェスターワンダーランド」に、大田区地球温暖化対策地域協議会と協働で出展し、省エネクイズや水素をつくる自転車・燃料電池車モデル・風力発電の体験、デジタル地球儀「触れる地球」の展示などを行いました。

2 月 25 日（日） おなづか小学校 参加者約 500 人

協力団体：東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター

<担当部>環境清掃部



燃料電池車の出前授業(入新井第四小)



ものづくり教育・学習フォーラム

C-4 地球温暖化対策を促すための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

(1) 区民等・事業者・行政の連携強化

① 大田区地球温暖化対策地域協議会との連携

(事業概要)

「地球温暖化対策推進法」に基づき設置した「大田区地球温暖化対策地域協議会」と区が連携し、区民、事業者等に向けた地球温暖化対策の普及啓発及び支援に取り組むとともに、区が取り組むべき施策や効果的な実施方法について検討します。

また、地球温暖化対策に取り組む区民団体や事業者に関する情報を収集し、区民、事業者、区の情報共有を図るとともに、地域主体の地球温暖化対策を推進します。

(内容)

【大田区地球温暖化対策地域協議会の会議(連携協議)】

○家庭や事業所における地球温暖化対策の推進に向けた事業について検討・実施しました。

全体会 3回(うち視察1回)、第1部会 2回、第2部会 2回

【地球温暖化対策地域協議会と区の連携による普及啓発活動】

○家庭における省エネ行動の促進を目的に、エコレシピコンクール最優秀作品を活用したエコライフ講習会「環境にやさしいお料理教室」を開催しました。

3月17日(土) 佐伯栄養専門学校 参加者32人

○家庭における省エネ行動の促進を目的に、自治会町会等が開催する省エネ講習会に講師を派遣しました。

・NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり 10月15日(日) 参加者18人

・地域力推進六郷地区委員会 11月14日(火) 参加者65人

○家庭における省エネ行動の促進と児童の環境意識の向上を目的に、夏休みバス見学会を開催しました。

8月2日(水) 大田清掃工場・(株)リーテム東京工場 参加者18組39人

○事業者の省エネ行動の促進を目的に省エネ対策セミナー「アルプス電気(株)の挑戦!BEMSを最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」を開催しました。

3月1日(木) 調布地域庁舎・アルプス電気(株)本社ビル 参加者25人

○東京都地球温暖化防止活動推進センターが実施する「省エネ診断」の受診促進に取り組みました。

実施数 11件

○地球温暖化防止活動の普及を目的に、「OTAふれあいフェスタ」に出展し、環境クイズを実施しました。

11月4日(土)、5日(日) 参加者約2,500人

協力団体：大田空調衛生協会、大田区商店街連合会、大田区リサイクル事業協同組合、大田建設協会、大田造園協会、大田・花とみどりのまちづくり、大森法人会、キャノン(株)、(株)金羊社、京浜急行電鉄(株)、城南環境カウンセラー協議会、城南地区廃棄物リサイクル協同組合、東京ガス(株)、東京環境保全協会、東京急行電鉄(株)、東京工業大学坂野研究室、東京電力パワーグリッド(株)、東六郷一丁目町会(蒲田法人会、大同生命保険(株)、(株)マコト、(株)読売情報開発法人事業部)、プリンス電機(株)、(株)三尾建設ハウジングコミュニティ

○地球温暖化防止活動の普及と次代を担う子どもたちの環境意識の向上を目的に、「第17回エコフェスタワンダーランド」に出展し、省エネクイズや水素をつくる自転車・燃料電池自動車モデル・風力発電の体験、デジタル地球儀「触れる地球」の展示等を行いました。

2月25日(日) おなづか小学校 参加者約500人

協力団体：東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター

<担当部>環境清掃部



OTAふれあいフェスタ「環境クイズ」



エコフェスタワンダーランド「水素をつくる自転車」

C-4 地球温暖化対策を促すための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備

(2) 他地域と連携した取組みの推進

① 他自治体等との連携による二酸化炭素(CO₂)呼吸量の確保

(事業概要)

他の政策で削減量が十分でない温室効果ガスについて、国内友好都市（長野県東御市、秋田県美郷町、宮城県東松島市）や多摩川上流の他自治体等と連携し、森林保全、再生可能エネルギー発電による電力の購入等を通じた二酸化炭素（CO₂）吸収量の確保を図ります。

(内容)

○他の施策を優先的に実施しているため、具体的な取組みは実施していません。

<担当部>環境清掃部

基本目標D 自然共生社会の構築	
D-1 生物多様性の社会への浸透 (1) 生物多様性の理解促進	
① 生物多様性の普及啓発	
(事業概要) 自然観察路調査等を基に、多種多様な生物が生息できる環境づくりの啓発を進めます。	
(内容) ○絶滅危惧種である渡り鳥「コアジサシ」の講演会を開催しました。 12月9日(土) 参加者134人 ○「コアジサシ」営巣地整備 3月24日(土) 参加者59人、3月25日(日) 参加者60人 ○羽田水辺の楽校内で大田区内公園の生物多様性についての取組みを紹介しました。 ○調査結果は、区のホームページで公開しています。	
<担当部>環境清掃部	

D-1 生物多様性の社会への浸透 (1) 生物多様性の理解促進	
② 区民体験型の自然環境調査の実施	
(事業概要) 今ある貴重な自然を守り、育てていくために、区内の自然環境や動植物などの実態や変化を区民等と共に常に把握し、多様な生き物が息づく緑のまちづくりに活かしていきます。	
(内容) ○大田区自然観察路「池のみち」の生物や植物について専門調査を行うとともに、区民と協働で調査会を行いました。 [区民参加調査] 7月9日(日) 参加者28人 1月14日(日) 参加者25人	
<担当部>環境清掃部	

D-2 人と自然の関係の再構築 (1) 地域による緑づくりへの支援	
① 地域のみんなのみどりづくり	
(事業概要) 18地区のまちの個性を、地域住民の連帯と協働の象徴として「まちの緑」で表現するほか、助成制度を活用した緑の支援を拡充します。	
(内容) 【まちの緑の図の作成、その他PR活動】 ○樹木調査や区民を含めた各方面からの情報を基に作成した18色の「まちの緑の図」の更新を実施し区ホームページに公開するほか、パネル展を開催しました。また、区ツイッターにて開花情報等を発信(15ツイート)しました。 【PR活動】 ○18地域の特色や魅力はもとより、18地域の主体的な取り組みを取りまとめた「18色の特色ある地域づくり」の中で、「18色の緑づくりの取組」についても掲載しています。区政情報コーナー等で閲覧でき、区のホームページにも公開しています。 【「地域の花」の植栽】 ○平成26年度から18地域で地域の象徴として花を選定しています。自治会・町会をはじめとする地域の方々、学校等と連携し、春・秋にプランター等への植栽を実施しました。	

【18色の緑づくり支援】

○18色の緑づくり支援事業として、各地域の花を選定し、自治会・学校など、地域の方々のご協力をいただき、花づくりを通じて、活力ある地域づくりを推進しました。

○各地域が「地域の花」を決め、自治会・学校など、地域の方々のご協力と、花づくりを通じて、活力ある地域づくりを推進しています。18色の緑づくり支援事業として、以下の事業を行いました。

○区民の方が地域の花の育て方などを学ぶ機会として、育成講習会を開催しました。

・特別出張所で開催した育成講習会

5月17日（水） 嶺町特別出張所 参加者 20人

5月22日（月） 入新井特別出張所 参加者 20人

9月8日（金） 羽田特別出張所 参加者 30人

10月18日（水） 嶺町特別出張所 参加者 20人

実施回数 4回、参加者 90人

・ふれあいパーク活動団体を対象とした育成講習会

11月20日（月） 区民ホールアプリコ 参加者 250人

・ステップアップ講習会（全2回）

11月29日（水）、3月15日（木） 矢口特別出張所 参加者 110人

○講演会

9月30日（土） 区民ホールアプリコ 参加者 270人

○園芸体験

11月26日（日） 産業プラザPi0（「おおた住まいづくりフェア」内） 参加者 103人

○巡回調査（平成29年6月～30年3月）

計 83回

○区内外に事業と地域の活動を紹介するため、エコプロ2017、OTAふれあいフェスタ、おおた住まいづくりフェア等への出展、環境月間パネル展で展示、ケーブルテレビ放映、区ホームページに掲載等行いました。

【緑づくり助成】

○生垣造成及び屋上緑化・壁面緑化の助成については、区ホームページや区報に掲載し、周知しました。

助成実績：生垣造成助成 12件 195m

屋上緑化・壁面緑化助成 0件

<担当部>環境清掃部、まちづくり推進部、地域力推進部



「地域の花」



18色の緑づくりの様子

D-2 人と自然の関係の再構築 (2) 緑を支える仕組みづくり

① みんなの緑づくり

(事業概要)

公園や道路、河川、公共施設など公共空間にある「みんなの緑」を、地域や各種団体、企業などの地域力に支えられながら、区民と共に、守り、育て、活かす取組みをさらに拡げていきます。

(内容)

【ふれあいパーク活動】

- ・参加団体 130 団体 参加者 1,412 人
- ・活動 15 周年記念行事をアプリコ展示室にて実施
- ・PR パンフレットの配布、ふれあいパークニュースの配布及び掲示
- ・ポスター、区報、デジタルサイネージ等でふれあいパーク活動内容を紹介

【おおた花街道】

- ・活動地区数 7 地区、13 団体、延べ参加人数約 800 人
- ・地域の自主的な維持管理の施行（田園調布二丁目地区など 5 地区）
- ・NPO 団体による中間支援型の施行（大岡山駅前広場）
- ・民間企業による社会貢献事業参加型の施行（久が原地区＜ライラック通り＞）

< 担当部 > 都市基盤整備部

D-2 人と自然の関係の再構築 (2) 緑を支える仕組みづくり

② 緑のまちづくりのための基本的な仕組みづくり

(事業概要)

地域力に支えられた緑のまちづくりを着実に進め、緑を守り、つくり、育て、そして親しみ、後世に引き継いでいくために、緑のまちづくりを支える基本的な仕組みをつくりま

(内容)

【グリーンプランおおたの推進】

- 緑の基本計画「グリーンプランおおた」に基づく各みどり施策を推進するため、グリーンプランおおた推進会議を開催しました。
 - ・ 推進会議の開催 (3回)
 - ・ 区民公募委員との意見交換会の開催(1回)
 - ・ 庁内推進会議及び作業部会による事業の検討
- 区内の巨木やシンボルツリーなど、後世に残したいみどりを「おおたの名木選」として選定しています。
 - ・ 平成 29 年度は、総合部門として 8 件を指定しました。
 - ・ 選定委員会の開催(2回)

<担当部局>まちづくり推進部、環境清掃部

「おおたの名木選」



田園調布 イチョウ並木



調布清掃事務所 エノキ

D-2 人と自然の関係の再構築 (3) 野生生物の保護・管理

① 絶滅のおそれのある野生生物の調査

(事業概要)

自然観察路調査や生物生息調査を行い、区内の絶滅危惧種の把握に努め、保護を呼びかけます。

(内容)

○区内NPO と連携して絶滅危惧種である渡り鳥「コアジサシ」の観察会開催や営巣地整備を実施しました。観察会では飛来数などの説明や確認を行っています。

観察会 6月24日(土) 参加者136人、7月2日(日) 参加者95人

営巣地整備 3月24日(土) 参加者59人、3月25日(日) 参加者60人

○呑川について目視による鳥類と魚類の調査を実施しました。

<担当部>環境清掃部

D-2 人と自然の関係の再構築 (3) 野生生物の保護・管理

② 特定外来生物の防除

(事業概要)

国や東京都との連携により特定外来生物の防除・駆除を進め、在来固有種の保護に努めます。

(内容)

○自然観察路調査等を基に外来生物を捨てたり逃がしたりしないように注意喚起の啓発用ポスターを作成し、公園内等に設置しています。

<ポスター設置場所>

田園調布せせらぎ公園、洗足池公園、小池公園、多摩川台公園植物園、宝来公園、丸子川六郷用水、洗足流れ

○ハクビシン、アライグマの捕獲を区民と協働して、平成26年8月から開始しました。

平成29年度は、119件箱わなを設置し、ハクビシン34頭、アライグマ1頭を捕獲しました。

<担当部>環境清掃部、都市基盤整備部



注意喚起の啓発用ポスター



ハクビシンの捕獲の様子

D-3 水と緑のネットワークの構築 (1) 緑の環境軸の形成

① 臨海部における緑の拠点形成

(事業概要)

羽田空港跡地第1ゾーンにおいて、市街地に隣接した親水及び緑地空間を創出して、環境との共生をめざし、潤いとやすらぎのスペースを整備します。

臨海部埋立地域の海上公園や緑道などのみどり資源を、より区民に身近なものとして活用し、新たな海辺の魅力創出に取り組むなど、臨海部運河沿いのみどりづくりを進めます。

(内容)

【羽田空港跡地第一ゾーン整備方針に基づく土地利用の推進】

○空港跡地第1ゾーンにおける道路、駅前広場等、各種基盤施設の整備に向け、独立行政法人都市再生機構による羽田空港跡地地区土地区画整理事業の基盤整備工事が開始されました。

○親水性のある緑地などの基盤施設整備等について、関係機関と協議、調整を行いました。

【海辺の散策路整備】

○〔工事〕トイレ整備(2か所)

多摩川から大森ふるさとの浜辺公園に至る運河沿いの海辺の散策路整備に関して、水辺空間を区民が快適に利用できるよう環境整備を行いました。

【公共溝渠の整備】

○南前堀、貴船堀、旧呑川(締切護岸、一部埋立工事)

【海上公園の移管の推進】

○〔工事〕(仮称)昭和島二丁目公園(多目的スポーツ広場)

少年サッカーやフットサルのできる多目的スポーツ広場を中心とした施設整備を行いました。

<担当部>空港まちづくり本部、都市基盤整備部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (1) 緑の環境軸の形成

② 緑の骨格づくり

(事業概要)

呑川の側道に街路樹を植樹します。また、路面温度上昇を抑制するため、遮熱性舗装などで散策路を整備します。

このほか、沿川の歴史と環境を活かした観光スポットとしての観点からサイン計画を策定し、散策路にサインを設置していきます。

(内容)

【呑川緑道の整備(風の道)】

○整備工事(東雪谷五丁目、約80m)

【サイン整備】

○サイン整備工事(石川町一丁目～大森南五丁目)

<担当部>都市基盤整備部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (2) 水の環境軸の形成

① 水辺環境のネットワークづくり

(事業概要)

河川や池沼、臨海部の海辺などに残された貴重で多様な水辺環境を保全するとともに、新たな緑づくりの中で水辺環境の保全・再生に取り組みます。また、公園・緑地や既存の樹林地、河川、池沼、海浜などの水辺環境のネットワーク化を進めます。

(内容)

【海辺の散策路整備】

- [工事] トイレ整備 (2か所)

多摩川から大森ふるさとの浜辺公園に至る運河沿いの海辺の散策路整備に関して、水辺空間を区民が快適に利用できるよう環境整備を行いました。

【公共溝渠の整備】

- 南前堀、貴船堀、旧呑川 (締切護岸、一部埋立工事)

散策路を分断する貴船堀、旧呑川、南前堀水門周辺についても、東京都の防潮堤整備に合わせて係留施設や締切護岸の整備を進め、水と緑のネットワーク化を推進しました。

【海上公園の移管の推進】

- [工事] (仮称) 昭和島二丁目公園 (多目的スポーツ広場)

【呑川緑道の整備 (風の道)】

- 整備工事 (東雪谷五丁目、約 80m)

【桜のプロムナードの整備】

- 整備工事 (南馬込五丁目、約 180m)

<担当部> 都市基盤整備部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (3) 身近な緑の確保

① 貴重な緑の保全

(事業概要)

大規模公園・緑地や河川、海浜などの自然地や桜の名所などを保全・再生し、後世に引き継いでいきます。また、民有地内の樹林・樹木や区内にわずかに残されている貴重な農地の保全を進めます。

(内容)

【桜の名所の保全・再生】

- 洗足池公園や多摩川台公園、馬込の桜並木など、区内の桜の名所を後世に引継いでいくため、ソメイヨシノなどの桜の保護や植替え、環境改善による維持更新等に取り組みました。

- ・ 洗足池公園：サクラ樹勢調査診断委託、樹木更新工事 (2本)
- ・ 多摩川台公園：樹木更新工事 (5本)

【桜の計画的な維持・更新】

- 樹勢調査委託を元に、計画的に更新を行っていきます。

【民有緑地の保全】

- 区民緑地の新規の申出・指定はありませんでした。

【農地の保全】

- 生産緑地法が改正され、生産緑地地区に指定することができる下限面積が条例により 500 m²から 300 m²に引き下げることが可能となり、「大田区生産緑地地区に定めることができる区域の規模に関する条例 (平成 30 年 3 月 12 日第 20 号)」を制定しました。

【樹木・樹林の保護】

- 保護樹木等の指定状況、制度の周知

- ・ 保護樹木 1,095 本 保護樹林 82 か所 保護生垣 4 か所 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

- ・デジタルサイネージ、区ホームページで制度の周知をし、併せて樹木の適正管理について啓発を行いました。
- ・環境月間パネル展等の各種イベントで制度のご案内の配布により、制度の周知をしました。

＜担当部＞まちづくり推進部、都市基盤整備部、環境清掃部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (3) 身近な緑の確保

② 公園・緑地の整備

(事業概要)

緑の骨格拠点や地域の活動拠点となる公園・緑地の整備を進めます。

以下の3つの方針に基づき、公園の整備を進めます。

【地域に根ざした公園・緑地の整備】

【拠点公園・緑地の整備】

【大規模公園・緑地の魅力アップ】

(内容)

【地域に根ざした公園・緑地の整備】

＜新設拡張整備の推進＞

- ・新設整備 1 箇所

[工事] 西蒲田まつお児童公園 (348 m²)

- ・拡張整備 2 箇所

[工事] 多摩川台公園 (897 m²)、佐伯山緑地 (1,158 m²)

＜魅力ある公園のリニューアル＞

- ・改修整備 6 箇所

[設計] 池上梅園、南六郷三丁目公園

[設計・工事] 多摩川台公園

[工事] 千鳥いこい公園、萩中公園 (ガラクタ公園)、洗足池公園 (南千束二丁目)

【拠点公園・緑地の整備】

＜都市計画公園・緑地等の整備＞

- ・都市計画公園・緑地の整備 3 箇所

[設計・工事] 洗足池公園

[工事] 多摩川台公園、佐伯山緑地 (中央五丁目)

- ・自然環境保全型公園・緑地の整備 1 箇所

[工事] 佐伯山緑地

＜海上公園の移管の推進＞

- ・ [工事] (仮称) 昭和島二丁目公園 (多目的スポーツ広場)

＜メッセージベンチの整備＞

- ・ 問合せ (申込み) 1 件

【大規模公園・緑地の魅力アップ】

＜大規模公園・施設の再生整備＞

- ・ 大田スタジアム (東海一丁目) 実施設計

- ・ 萩中公園水泳場 (萩中三丁目) 修繕工事

- ・ 洗足池公園水質浄化施設 補修工事 (ポンプ取替等)

＜担当部＞都市基盤整備部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (3) 身近な緑の確保

③ 道路空間の緑化推進

(事業概要)

水と緑のネットワークの充実を図るため、洗足流れ・馬込桜並木・内川に至る道路を散策路として整備するとともに、サイン整備を進めていきます。また、馬込桜並木の桜再生（枯損木植替え）を進めます。

(内容)

- 【桜のプロムナードの整備】
- 整備工事（南馬込五丁目、約 180m）
- 【サイン整備】
- サイン整備の推進（実施設計）

<担当部>都市基盤整備部

D-3 水と緑のネットワークの構築 (3) 身近な緑の確保

④ 公共施設の緑化推進

(事業概要)

「大田区公共施設整備計画」第2部第1章の「公共建築物整備のあり方」にあるように、環境負荷低減の取組みとして、道路に接する部分に緑を確保する「接道緑化」をはじめ、地上部の緑化に加えて屋上や壁面、ベランダ等を緑化する「屋上等緑化」を推進します。

また、地球にやさしいまちづくりとともに、子どもたちの環境教育の充実を図るために、学校施設を活用した緑化を推進します。

(内容)

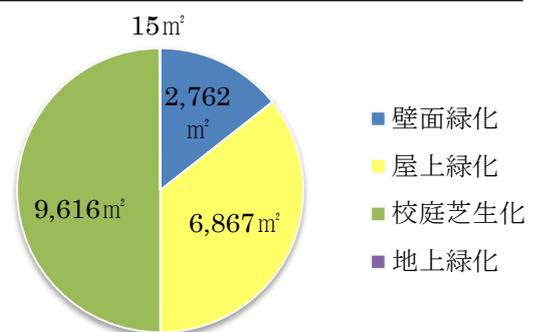
- 【壁面・屋上緑化・校庭緑化等】
- ・志茂田中学校の壁面緑化（263 m²）
- ・馬込第三小学校の校庭芝生化（160 m²）
- ・萩中小学校の校庭芝生化（150 m²）
- ・大森東中学校の校庭芝生化（150 m²）
- 【緑化した学校数（平成 29 年度まで）】
- ・区立小・中学校 87 校中 55 校

<担当部>企画経営部、教育総務部

学校緑化の校数・延べ面積



学校緑化の延べ面積内訳（緑化種別ごと）



D-3 水と緑のネットワークの構築 (4) 歴史と文化のまちなみづくり

① 歴史と文化と自然の散歩道づくり

(事業概要)

区内に残されている歴史的、文化的に貴重な資源を活かしたみどりのまちづくりを進めていくために、区内の景観みどり資源を最大限に活かすとともに、広く区民等や来訪者に親んでもらえるような、地域の歴史・文化性や自然の魅力を探訪できる散歩道づくりに取り組みます。

(内容)

○馬込文士村のエリア内において、桜のプロムナードを整備しました。

＜担当部＞都市基盤整備部

D-4 生物多様性の保全・再生 (1) エコロジカルネットワークの形成

① 生き物の生育・生息空間づくり ☆

(事業概要)

生き物が生育・生息できる空間を確保するため、10か所の緑の拠点、緑の環境軸及び水の環境軸の一部や区管理の公園において、必要に応じて国や東京都との連携を図りながら、生物多様性に配慮した緑地管理を実施します。

(内容)

○多摩川の河川敷においては、生き物が生息できる空間を確保するため、草刈の高さを高くしました。

○大森ふるさとの浜辺公園では、生き物の生息に配慮してヨシ原の粗放管理を実施しました。

○馬込自然林緑地においては、区内の貴重な自然林を後世に引き継ぎ、また、生き物の生息環境を残すため、現状の植生を維持していくよう管理しました。

＜担当部＞都市基盤整備部

D-4 生物多様性の保全・再生 (1) エコロジカルネットワークの形成

② 区民等が行うビオトープづくりの活動支援 ☆

(事業概要)

区が管理する公園や施設等の一部を開放するなどして、区民等や区民活動団体が主体的に取り組むビオトープづくりや生き物の保全活動を支援します。

(内容)

○洗足池水生植物園に大森第六中学校の生徒が、学校で育てたホタルの幼虫を放流しました。

○「田園調布せせらぎ公園」で田んぼづくりをしている環境団体への支援、NPOとの連携による本門寺公園や洗足池公園等での自然観察会、コアジサシの保護活動（森ヶ崎水再生センター屋上）を進めるNPOとの連携による観察会や支援、区民によるうのき水辺の楽校・羽田水辺の楽校の活動への支援等を実施しました。

＜担当部＞環境清掃部、都市基盤整備部

D-4 生物多様性の保全・再生 (1) エコロジカルネットワークの形成

③ ブルートライアングルプロジェクトとの連携 ☆

(事業概要)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアオスジアゲハをシンボルとした「おもてなしのまちづくり」として、バタフライガーデンやバタフライコーナーなどの環境整備や環境学習等の取組みを進めます。

(内容)

- 東京2020参画プログラム「ブルートライアングル公開講座」を開催しました。
 - ・講演会（大森第五小学校）
 - ・バタフライガーデンツアー（平和の森公園）
- ブルートライアングルプロジェクト基礎調査委託（その3）を実施しました。
 - ・内陸部の拠点公園及び駅前周辺におけるアゲハチョウ類の実態調査
- バタフライガーデン整備工事（東糀谷防災公園）を実施しました。
- バタフライコーナー整備工事（大森ふるさとの浜辺公園）を実施しました。
- 普及用のパンフレット「ブルートライアングルプロジェクト飼育体験マニュアル」を作成し、自然観察会等で活用しました。
- 自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」（平和の森公園）を実施しました。
8月27日（日） 参加者26人
- パネル展示等の実施により事業のPRを実施しました。
- 東京労災病院と連携した飼育実証実験を継続しました。
- 「特色ある教育」の一環として、下記の取組みを実施しました（大森第五小学校）。
 - ・「ブルートライアングルプロジェクトへの積極的な参画」として、ブルートライアングルの産卵・孵化・脱皮・蛹化・羽化等の瞬間を観察することを全学級で行いました。
 - ・7月に、全学年で地域・保護者向けのオリンピック・パラリンピック報告会を実施し、各学年の発達の段階に応じた方法で、ブルートライアングルの飼育や観察等を発表しました。

<担当部> 観光・国際都市部、都市基盤整備部、環境清掃部、教育総務部



バタフライガーデン（東糀谷防災公園）



自然観察会「アオスジアゲハを探しに行こう！」

基本目標E 循環型社会の構築

E-1 ごみを出さない生活への転換 (1) 発生抑制、再使用の生活様式の促進

① 生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換 ☆

(事業概要)
 循環型社会の構築のため、3R (リデュース・リユース・リサイクル) 推進、食品ロスを少なくするための PR により、さらに区民一人ひとりが生ごみの減量やごみを出さない生活様式への転換が図れるよう啓発を進めます。

(内容)
 ○チラシ・ポスター等による PR を実施しました。
 ・清掃だよりの発行 年 10 回
 ・区施設掲示板啓発ポスターの掲出 年 13 回
 ・区報への掲載 年 15 回

＜担当部＞環境清掃部

E-1 ごみを出さない生活への転換 (1) 発生抑制、再使用の生活様式の促進

② 商店街やスーパーと連携したごみの発生抑制につながる生活様式の促進 ☆

(事業概要)
 使用済みのペットボトルは、集積所 (行政回収) のほか、スーパーやコンビニ等の店頭 (自主回収) にて回収の推進に努めています。
 また、3R (リデュース・リユース・リサイクル) を推進し、ごみを出さない生活様式への転換を促すため、区民には、買い物には買い物袋を持参してもらいレジ袋や余分な包装を断るよう普及・啓発を図ります。

(内容)
 ○資源とごみの分け方・出し方 (転入者向け 95,000 部、外国語版 15,000 部) や冊子の発行の他、区ホームページ、区報に掲載し普及・啓発を図りました。
 ○「大田区ごみ分別アプリ～資源とごみを分別～」を平成 29 年 11 月に導入しました。

＜担当部＞環境清掃部

清掃だよりのポスター内容:

「食品ロス」ってどんなもの?
 まだ食べられるのに捨てられている食べ物のことを「食品ロス」といいます。日本では「食品ロス」が年間約330万トンにも上ります。うち約半分は家庭ごみから出しています。これを日本人1人当たり換算すると、毎日お米碗1杯分(約13g)のごはんの量を捨てていることになります。

「食品ロス」を減らすには?

食べ残しを出さない工夫をする

- 食材の買い過ぎがずいぶん減ります
- 食品の在庫確認
- 保存期間を上手に活用
- 得意時、食べ残しを注文

賞味期限と消費期限を正しく理解する

賞味期限と消費期限、2つの期限表示は賞味期限の欄が示されています。一度開封した食品は、表示されている期限にかかわらず、早めに食べ残しを処分しましょう。(下表参照)

エコバッグなどで料理の調理工夫

- 皮を厚くかいたり、脂っこい部分などを油煎に揚げたりしない
- 野菜の皮や葉のような捨てられない部分を使い切るように切ける

賞味期限	消費期限
開封して食べることになる期間 この期間を過ぎると、食べ残しは食べない方が安全です	開封前の賞味・消費期限が示されています
3ヵ月を超えない範囲で賞味表示し、3ヵ月以内の賞味期間を目安とする	賞味表示あり
生鮮食品、加工食品、惣菜など	惣菜、冷凍食品、惣菜など

10月は「3R推進月間」です

国は、10月を「3R推進月間」として、普及啓発活動を行っています。皆さんも、身近なところから3Rを実践しましょう!

1 Reduce (リデュース) ~発生抑制~
 使い捨て製品の利用を減らし、ごみを減らすのをめざす。

2 Reuse (リユース) ~再使用~
 物を再利用し、資源を無駄にしないのをめざす。

3 Recycle (リサイクル) ~資源利用~
 資源ごみの分別を徹底する。

3月推進月間に合わせた大田区内のイベント

地球にやさしいまちづくりポスターの展示 9/30(土)～10/1(日) 18:00～19:30
 主催: 大田区環境推進センター
 小・中学校から応募のポスターが選ばれたら、大田区消費者生活センター主催の企画展において展示します。

多摩川清掃工場 環境フェア2017 10/15(日) 18:00～19:30
 主催: 東京都環境局第一清掃工場
 協賛: 多摩川清掃工場
 【主なイベント】
 ○多摩川清掃工場見学 ○子ども工作教室 ○給木の物料配布
 ○フリーマーケット ○模擬店
 【大田区環境推進センター】
 ○環境フェアの申し込み受付(9/20～9/27)
 小田原駅西口10番出口のすぐそば
 電話: 042-724-3811
 大田区環境推進センターでは、この機会にぜひ、ご自身の環境意識を高めたいと考えています。
 □お申し込み・お申し込みの「ごZERO」特による
 □お申し込みの「ごZERO」特による
 □お申し込みの「ごZERO」特による
 □お申し込みの「ごZERO」特による

区民の皆様のご来場をお待ちしております

清掃だよりの発行部数: 5740 18:00 多摩川清掃工場: 3721-7216
 二層式分別回収機: 大田区環境推進センター: 2744-3811 多摩川清掃工場: 3732-5545

清掃だよりのポスター

E-2 資源循環のまちづくり (1) 環境負荷の低減	
① 温室効果ガス削減方策の検討	
(事業概要)	ごみの収集運搬と焼却処理における温室効果ガス排出量の削減に向けた検討を続けてまいります。
(内容)	○安定的・効率的な収集運搬に努めています。
<担当部>環境清掃部	

E-2 資源循環のまちづくり (2) 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの資源化促進	
① 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの資源化促進	
(事業概要)	資源の回収方法及び再資源化の手法を見直すことにより、一般廃棄物に含まれる金属類以外の資源の有効利用と環境負荷の低減を図ります。
(内容)	<p>【大田区分別収集計画の推進】</p> <p>○3年ごとの見直しに伴い第8期大田区分別収集計画(平成29～33年度)を策定しました。</p> <p>【再資源化の拡大】</p> <p>○清掃・リサイクル協議会(年5回)を開催し、ごみ減量・リサイクルの推進について協議を行いました。</p> <p>○庁内会議(検討会2回、作業部会3回)を開催し、事業内容を検討しました。</p>
<担当部>環境清掃部	

E-2 資源循環のまちづくり (2) 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの資源化促進	
② 金属、レアメタル回収の検討	
(事業概要)	<p>小型家電リサイクル事業*により、一般廃棄物に含まれるレアメタルや鉄分等の金属類を回収し、資源の循環とごみの減量を図ります。</p> <p>※小型家電リサイクル事業</p> <p>小型家電リサイクル事業には、42か所の区施設等に回収ボックスを設置する拠点回収、イベント等の機会を利用するイベント回収、粗大ごみ等から選り分けるピックアップ回収があります。</p>
(内容)	<p>○平成25年度に開始した拠点回収は、区内42か所で実施し、平成29年5月から「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に参画しました。</p> <p>また、OTAふれあいフェスタ等のイベントでも回収を行い、レアメタルや鉄分等有価物を3.41t回収し売却しました。</p> <p>○自己持込並びに収集した粗大ごみからピックアップ回収を実施し、鉄分等有価物を1,186.72t回収し売却しました。</p> <p>○不燃ごみから小型家電及び有価物をピックアップ回収を実施し、鉄分等有価物を566.58t回収し売却しました。</p>
<担当部>環境清掃部	

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (1) ごみの適正な分別の徹底

① 排出ルールの周知

(事業概要)

「資源とごみの正しい分け方・出し方」パンフレットを作成し、転入者等区民へ配布するほか、環境学習やごみ減量啓発事業において、ごみの分別徹底と資源化を推進する資料として活用します。また、外国人にもごみや資源の分別排出ルールを浸透させるため、多言語でのパンフレット等を作成し配布します。

集積所に誤った出し方をした場合には、警告シール等により、適正な排出を周知しています。

(内容)

○パンフレット・リーフレットを配布しました。

「資源とごみの分け方・出し方」

- ・転入者向け 95,000 部作成しました。

特別出張所、戸籍住民課住民係、清掃事務所等で配布しました。

- ・外国語版(英語、中国語、ハングル、タガログ語、ネパール語) 15,000 部作成しました。

特別出張所、戸籍住民課住民係、清掃事務所等で配布しました。

<担当部>環境清掃部



小型家電回収ボックス (拠点回収)



資源とごみの分け方・出し方 パンフレット

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (1) ごみの適正な分別の徹底	
② 資源持ち去り対策の徹底	
(事業概要) 区民等が安心できる資源循環を図ることを目的として、区民等が分別した資源を行政が確実に回収するために、定期的な早朝パトロールを実施し、資源の持ち去り行為を防止します。	
(内容) 【資源】 ○資源持ち去り防止のためパトロール車を1台から3台に強化して実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・委託によるパトロール 月曜日から土曜日の午前6時30分から午前9時まで実施しました。 実施日数 310日 ・職員によるパトロール 随時実施しました。 ・警告書75件、命令書6件発行 ・警察による送検2件 ○資源持ち去り防止対策について区報や区ホームページに掲載し周知を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> ・区報掲載 3月11日号に掲載しました。 ・区ホームページに常時掲載しています。 	
<担当部>環境清掃部	

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (2) 区民等が参加しやすいリサイクルの仕組みの構築	
① 資源回収の充実	
(事業概要) ペットボトルや食品トレイなどに加え平成27年10月から開始した、発泡スチロールの集積所回収の周知を更に進めるとともに、大田区分別収集計画に基づいた資源回収の充実を図ります。	
(内容) ○区設掲示板を活用し雑がみの周知を行うなど資源回収の充実を図りました。	
<担当部>環境清掃部	

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (3) 大田区清掃・リサイクル協議会との連携	
① ごみの減量と資源の有効活用	
(事業概要) 大田区清掃・リサイクル協議会に対して積極的に情報提供を行い、ごみの減量・リサイクル推進のための協議を行い、ごみ減量・リサイクルを進めていきます。	
(内容) 【大田区清掃・リサイクル協議会の開催】 ○開催回数5回 <ul style="list-style-type: none"> ・大田区一般廃棄物処理基本計画を推進するにあたり、小型家電リサイクル事業及び不燃ごみ再資源化モデル事業等に関する情報提供を行い、周知に関する意見をいただき、施策に反映させました。 ・「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に関わる株式会社リーテムの工場を見学しました。工場施設では使用済み小型家電に含まれる有用金属を抽出するまでの過程に 	

ついて学びました。

<担当部>環境清掃部

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (4) 安定的・効率的な清掃事業の構築

① 安定的・効率的な清掃事業の構築

(事業概要)

安全で効率的に事業を行うため、計画的に清掃事務所などの整備を行います。整備に当たっては、地球に優しい施設づくりを積極的かつ計画的に進めます。

(内容)

- 公共施設の整備計画を踏まえ、清掃施設の活用の可能性を調査するための準備を進めました。この中で、蒲田清掃事務所の移転先として、(仮称)多摩川清掃事務所建設に向けた整備検討会を開催しました。
- また、安定的で持続可能な収集業務ごみ収集体制の構築を目指し、一般財団法人大田区環境公社を設立して可燃ごみ収集業務の委託を開始しました。

<担当部>環境清掃部

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (4) 安定的・効率的な清掃事業の構築

② ボランティアごみの収集支援の促進

(事業概要)

公共の場所の清潔保持及び向上を目的とするボランティア活動や地域的な無償奉仕活動により一時的に排出されるごみに対し、ごみの処分手数料の減免制度を設けることにより活動の支援を継続して実施します。

(内容)

- ごみの処分手数料について減免を行いました。
 - ・減免率 全額免除
 - ・取扱件数 278 件

<担当部>環境清掃部

E-3 安定的・効率的な清掃事業の構築 (4) 安定的・効率的な清掃事業の構築

③ 高齢者等への戸別収集サービス

(事業概要)

ごみを自ら集積所まで出すことが困難な高齢者等の世帯に対して、ごみを戸別に訪問収集することで、日常生活の負担を軽減し、在宅生活の継続を支援します。

(内容)

- 対象者となる方のみで構成されている世帯で、集積所へごみを持ち出すことが困難であり、他の方の協力を得ることができない世帯のごみを収集します。

- ・実施世帯 377 世帯

<対象者>

- ・要介護 2 以上に認定されている。
- ・身体障害者程度 1・2 級に認定されている。
- ・その他区長が認めたとき。

<担当部>環境清掃部

E-4 事業者処理責任の徹底

(1) 事業系廃棄物の自己処理責任の徹底及び事業者に対する適正排出の徹底

① 事業用建築物の所有者に対する廃棄物の減量及び適正分別排出の指導強化

(事業概要)

延べ床面積 3,000 m²以上の事業用建築物の所有者に対して発生抑制や排出抑制などごみ減量を促すとともに、適正分別排出を指導します。

(内容)

- 「事業用大規模建築物における再利用計画書」の提出
 - ・依頼 568 物件
(延べ床面積 3,000 m²以上の全事業用建築物を対象)
 - ・立入指導 189 物件 (上記 568 物件中)

<担当部>環境清掃部

E-4 事業者処理責任の徹底

(1) 事業系廃棄物の自己処理責任の徹底及び事業者に対する適正排出の徹底

② 廃棄物等保管場所設置の指導の強化

(事業概要)

延べ床面積 3,000 m²以上の事業用建築物や集合住宅の建設に際しては、条例に基づく廃棄物等保管場所の設置が履行されるよう、建設者への指導を強化します。今後は、廃棄物等保管場所が拡充されるように、この基準の見直しを検討します。

(内容)

- 廃棄物保管場所事前届出 31 件
(延べ床面積 3,000 m²以上の大規模建築物で、可燃ごみ・不燃ごみの保管場所(集団住宅は資源を含む))
- 再利用対象物保管場所事前届出 28 件
(事業用途に供する部分の延べ床面積 3,000 m²以上の建築物の資源保管場所)

<担当部>環境清掃部

E-4 事業者処理責任の徹底

(1) 事業系廃棄物の自己処理責任の徹底及び事業者に対する適正排出の徹底

③ 廃棄物の排出量基準の変更の検討

(事業概要)

現行、区は 1 排出日 50 kg以上の事業系一般廃棄物を排出する事業者に対し、民間廃棄物業者による処理をするよう指導しています。事業系廃棄物の自己処理責任の徹底と、区が収集運搬する廃棄物を減量するため、この廃棄物の排出量基準の見直しを検討します。

(内容)

- 事業系廃棄物の排出状況の分析、他区の排出量基準の見直し状況調査などを踏まえ、引き続き排出基準の見直しの検討を行っていきます。

<担当部>環境清掃部

基本目標 F 持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出
F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (1) 環境推進リーダーの育成・活動支援
① 環境推進リーダー育成・活動支援 ☆
<p>(事業概要)</p> <p>地域の環境教育を担い、より良い環境づくりに向け、地域のリーダーとしての活躍が期待される環境推進リーダーを育成するため、大学や区内の環境 NPO 等と連携した講座を開催します。また、講座修了者が主体的に実施する環境学習プログラムの企画・運営を支援します。</p>
<p>(内容)</p> <p>○地域の環境学習における中心的な役割を担うとともに環境保全における地域のリーダーとなる人材の育成を目的として、大田区環境マイスター養成講座を実施しました。また、講座修了生が本講座や区主催の自然観察会等の行事にスタッフとして参加し、受講後のスキルアップを図りました。</p> <p>第 1 回 マイスターの役割と気づきの学習、大田区環境基本計画について等</p> <p>第 2 回 地球温暖化防止講演会</p> <p>第 3 回 省エネ・エコライフについて、グループワーク研究テーマと班編成について等</p> <p>第 4 回 下水処理の話（都下水道局森が崎水再生センター見学）等</p> <p>第 5 回 大岡山駅前「みんなの庭づくり」</p> <p>第 6 回 川と干潟のみち・大師橋干潟の生きもの観察、地域と連携した自然体験と保全活動等</p> <p>第 7 回 公園のみどりについて、子ども・親子を対象にした自然体験活動について等</p> <p>第 8 回 廃棄物とリサイクルについて（大田清掃工場見学）等</p> <p>第 9 回 洗足池の自然と水、簡易水質測定器・パックテストを使った水質調査（実験）等</p> <p>第 10 回 グループワーク研究発表、環境マイスターの活動について等</p>
<担当部>環境清掃部

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (1) 環境推進リーダーの育成・活動支援
② 職員研修の実施 ☆
<p>(事業概要)</p> <p>環境を題材とした職員研修を実施し、環境意識の向上に努めます。</p>
<p>(内容)</p> <p>○環境清掃部職員を対象に、区職員として率先垂範するため、環境マインドの向上を目的とした研修と清掃施設見学を実施しました。</p> <p>○環境課題について学び、情報収集を図るため、公的機関が実施する勉強会等及び東京ビッグサイトで開催されたエコプロ 2017 等の展示会に参加、視察しました。</p> <p>○各施設でのエネルギー使用量の削減を図るため、事業者向け省エネ対策セミナー「アルプス電気（株）の挑戦！BEMS を最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」に参加しました。</p> <p>○採用 2 年目職員対象の協働体験研修で、現場体験先のひとつとして区内の環境 NPO 活動に参加しました。</p>
<担当部>総務部、環境清掃部

③ 環境にかかわる表彰制度等の創設 ☆

(事業概要)

区民、学校、団体、事業所等を対象とした環境にかかわる表彰やコンテスト等を創設し、インセンティブの向上に努めます。

(内容)

【「地球にやさしいまちづくりポスター」の募集】

○区内の小・中学校の児童・生徒を対象に、「地球にやさしいまちづくりポスター」を募集し、入選作品を大田区ホームページ、環境イベント等で展示しました。また、平成30年2月25日開催の「第17回エコフェスタワンダーランド in 蒲田」の中で表彰しました。

応募校数 24校 応募数 189点 表彰数 22点

【環境フォトコンテスト(エコフェスタワンダーランド)】

○エコフェスタワンダーランド内で環境フォトコンテストを実施しました。区内小・中学校に呼びかけて募集し、最優秀賞1点、優秀賞2点を表彰しました。

2月25日(日)おなづか小学校

参加団体7団体 応募写真13枚 投票者277人

【エコレシピコンクール】

○地球温暖化防止、食品ロス削減、ごみ減量を目的にエコレシピコンクールを開催しました。

・応募期間 5月29日(月)～9月27日(水) 応募件数152件

・最終審査 12月16日(土)佐伯栄養専門学校 最優秀賞1件 優秀賞2件 入賞3件

【廃棄物減量及び適正処理優良事業者の表彰】

○区内の事業用大規模建築物における廃棄物の減量及び適正処理について、自主的かつ積極的に取り組み、顕著な成果を挙げていると認められる者について表彰しました。

11月 廃棄物管理責任者講習会において、6件の建築物の所有者等を表彰

<担当部>環境清掃部、教育総務部

エコレシピコンクール



最優秀賞受賞作品「華やかエコなパエリア」



受賞者のみなさん

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (2) 環境学習・環境教育の推進

① 環境学習の推進 ☆

(事業概要)

幼児から大人までの幅広い世代を対象にして、地球温暖化対策、自然や緑の分野をはじめ、保育園でのごみ減量の学習など循環型社会等について、環境学習を企業のCSRなども活用して進めます。

(内容)

<低炭素社会の構築>

○燃料電池車（公用車）と企業のCSRを活用し、「こども環境教室」を開催しました。

- ・「燃料電池車の出前授業」 小学校6校、参加者397人
- ・「ものづくり教育・学習フォーラム（教育委員会主催）」への出展
1月20日（土） 大田区産業プラザ 参加者600人

【地球温暖化対策地域協議会と区の連携による普及啓発活動】

○家庭における省エネ行動の促進を目的に、エコレシピコンクール最優秀作品を活用したエコライフ講習会「環境にやさしいお料理教室」を開催しました。

3月17日（土） 佐伯栄養専門学校 参加者32人

○家庭における省エネ行動の促進を目的に、自治会町会等が開催する省エネ講習会に講師を派遣しました。

- ・NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり 10月15日（日） 参加者18人
- ・地域力推進六郷地区委員会 11月14日（火） 参加者65人

○家庭における省エネ行動の促進と児童の環境意識の向上を目的に、夏休みバス見学会を開催しました。

8月2日（水） 大田清掃工場・（株）リーテム東京工場 参加者18組39人

○事業者の省エネ行動の促進を目的に省エネ対策セミナー「アルプス電気（株）の挑戦！BEMSを最大限に活かしたビルの省エネ・運用管理」を開催しました。

3月1日（木） 調布地域庁舎・アルプス電気（株）本社ビル 参加者25人

<自然共生社会の構築>

○区民協働調査で行った区自然観察路周辺の調査結果を基に、区内環境団体と協働でパンフレットを作成しました。パンフレットの内容は、区民の方がパンフレット片手に区自然観察路を散策できるよう、樹木・昆虫・野鳥などの紹介及びその地域ならではの環境以外の要素も取り入れています。

<循環型社会の構築>

○ごみ減量・リサイクルを啓発するために幼児から大人までの幅広い世代を対象にした環境学習や出前講座を実施しました。

- ・小学生を対象とした環境学習 30校
- ・保育園・児童館の低年齢児童を対象とした環境学習 4園、4館
- ・自治会・町会等を対象とした小型家電等の資源化事業などをテーマとする出前講座 27回

<担当部>環境清掃部、教育総務部

② 環境保全意識の啓発 ☆

(事業概要)

幼児から大人までの幅広い世代を対象にして、地球温暖化対策、自然や緑の分野をはじめ、循環型社会等について、パネル展示やイベント開催等を通じて、環境保全意識の啓発を行います。

(内容)

<低炭素社会の構築>

【地球温暖化防止講演会】

○地域における地球温暖化防止の機運醸成と取組みを推進するため、地球温暖化防止講演会を開催しました。

- ・お天気キャスター木原実の「2050年!地球未来予報」

6月10日(土) 東京工科大学・日本工学院専門学校3号館地下1階大講義室

講師 気象予報士・防災士 木原 実氏 参加者 320人

- ・JAL工場見学SKY MUSEUMとそらエコ教室「飛行機の世界から学ぶ地球温暖化対策」

12月9日(土) JALメンテナンスセンター1

講師 パイロット 秋吉 信一 氏 参加者 70人(中高生)

【おおた打ち水大会】

○ヒートアイランド対策及び地球温暖化対策の推進を目的に、大蒲田祭(蒲田東口商店街)で「おおた打ち水大会」を開催しました。

8月6日(日) 参加者 約300人

○打ち水の普及促進を目的に、打ち水用具の貸し出し及び給付を行いました。

貸出件数 1件 給付件数 56件

【イベントへの出展】

○区民等の省エネ型行動様式への転換の契機となることを目的に、大田区地球温暖化対策地域協議会と協働でイベントに出展しました。

- ・OTAふれあいフェスタ 11月4日(土)、5日(日) 参加者 約2,500人

協力団体：大田空調衛生協会、大田区商店街連合会、大田区リサイクル事業協同組合、大田建設協会、大田造園協会、大田・花とみどりのまちづくり、大森法人会、キャノン(株)、(株)金羊社、京浜急行電鉄(株)、城南環境カウンセラー協議会、城南地区廃棄物リサイクル協同組合、東京ガス(株)、東京環境保全協会、東京急行電鉄(株)、東京工業大学坂野研究室、東京電力パワーグリッド(株)、東六郷一丁目町会(蒲田法人会、大同生命保険(株)、(株)マコト、(株)読売情報開発法人事業部)、プリンス電機(株)、(株)三尾建設ハウジングコミュニティ

- ・第17回エコフェスタワンダーランド 2月25日(日)おなづか小学校 参加者 約500人

協力団体：東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、東京都地球温暖化防止活動推進センター

<自然共生社会の構築>

【多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～】

○多摩川河川敷を歩きながらごみを拾い、自然環境保護の大切さを考えることを目的に開催しました。併せて自然環境団体等によるパネル展、ペットボトルキャップの回収も実施しました。

5月28日(日) 参加者 2,093人

【環境フォーラム】

○自然環境団体による展示やステージ発表を実施しました。

3月10日(土) 池上会館

【緑のカーテン講習会】

○省エネルギー効果のある「緑のカーテン」を広く区民に周知し、楽しみながら継続的に取り組

める地球温暖化対策として、栽培方法などを習得する講習会を開催しました。

4月15日（土） 六郷特別出張所 参加者 27人

4月16日（日） 鶯の木特別出張所 参加者 27人

4月16日（日） 大田区役所 参加者 69人

4月22日（土） 大田文化の森 参加者 70人

【緑の講演会】

○みどりの効用と、草木の育成・栽培方法等について学ぶ機会を区民に提供しました。

6月7日（水） 区民ホールアプリコ 参加者 110人

共催：大田区、大田区緑化推進協議会

【第8回おおた住まいづくりフェア内事業】

○18色の緑づくり、生垣造成制度等のパネル展示、助成制度のパンフレット配布による紹介を行いました。気軽にできる園芸体験コーナー等、環境にかかわる啓発等を行いました。

11月26日（日） 大田区産業プラザPiO 参加者 103人

○緑や花があふれる暮らしのコーナー

・18色の緑づくり、生垣造成制度等PRコーナー

・園芸相談コーナー

【コアジサシ保護活動】

○絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」の保護活動を進めるNPOと連携して、森ヶ崎水再生センターの屋上にある営巣地の整備や観察会、活動を報告する講演会を実施しました。

・コアジサシ観察会 6月24日（土） 参加者 136人 7月2日（日） 参加者 95人

・コアジサシ講演会 12月9日（土） 区民ホールアプリコ 参加者 134人

・コアジサシ営巣地整備 3月24日（土） 参加者 59人 3月25日（日） 参加者 60人

<循環型社会の構築>

【OTAふれあいフェスタ】

○ごみ減量・循環型社会への理解・協力を求めるため、OTAふれあいフェスタにおいて「清掃・リサイクルコーナー」を設置しました。

・ごみ・3Rのクイズ

・スケルトン清掃車へのごみ積み込み体験

・清掃事業紹介パネルの展示

・地球にやさしいまちづくりポスターの展示

<持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出>

【環境月間パネル展】

○区の環境の現状や環境施策を広く区民に周知するため、パネル展を開催しました。

6月7日（水）～6月12日（月） 区役所本庁舎1階展示コーナー

【第17回エコフェスタワンダーランド】

○子どもを主に、広く区民の環境意識の高揚をはかることを目的として、「地域から考える地球の未来」をテーマに、区民・事業者・区が協働して開催しました。

区としては以下の展示を行いました。

・「小さな地球環境博物館」（大田区地球温暖化対策地域協議会との協働出展）

・「食品ロスマジックショー」

・「18色の緑づくり取組み紹介パネル展示」

2月25日（日）おなづか小学校 参加 28団体・1,200人

出展団体：NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり、おおたく環境探検隊、大森海苔のふるさと館、おもちゃ病院・大田、ガールスカウトケナフおおた、株式会社環境向学、株式会社協和エクシオ、地球っ子広場・自由が丘、東京工業大学木倉研究室、NPO

法人東京港グリーンボランティア、日東工器株式会社、呑川の会、羽田ビーチクラブ、羽田水辺の楽校、パルシステム東京南部環境委員会、富士通株式会社、株式会社防災サービスセンター、まち井、NPO 法人リトルターン・プロジェクト、株式会社菱興社、株式会社リーテム、ワタミ株式会社、大田区地球温暖化対策地域協議会

<担当部>環境清掃部

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (2) 環境学習・環境教育の推進

③ 自然観察会の実施 ☆

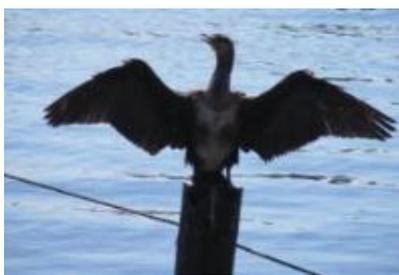
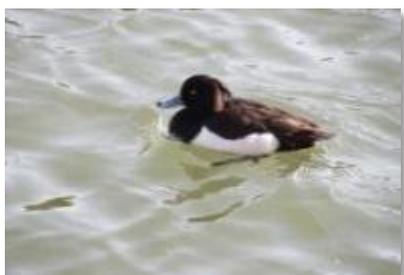
(事業概要)

NPO との連携も含め、区内の自然環境の理解・保護のための自然観察会を実施します。

(内容)

- 「平和の森公園で遊ぼう！」大森ふるさとの浜辺公園で、自然と触れあうゲームを行いました。
6月18日(日) 参加者18人
- 「コアジサシ観察会」昭和島にある森ヶ崎水再生センター屋上で、絶滅のおそれのある渡り鳥「コアジサシ」の子育てを観察しました。
6月24日(土) 参加者136人、7月2日(日) 参加者95人
- 「トワイライト探検隊」夜の本門寺公園でコウモリやセミの羽化を観察しました。
7月30日(日) 参加者27人
- 「アオスジアゲハを探しにいこう！」平和の森公園内の自然とふれあいながら、チョウ(アオスジアゲハ)やサナギ、卵を探してその生態を学びました。
8月27日(日) 参加者26人
- 「多摩川台公園・雑木林のみちを散策しよう！」秋の雑木林でドングリや生き物を観察しました。
10月22日(日) 参加者11人

<担当部>環境清掃部



洗足池・冬のバードウォッチング
観察されたキンクロハジロ(左)
とカワウ(右)

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (2) 環境学習・環境教育の推進

④ 自然体験学習の推進 ☆

(事業概要)

伊豆高原(小5)、とうぶ(小6)、野辺山(中1)の移動教室での活動事例をまとめた「自然体験プログラム」を基に、学習ガイドを作成し、自然体験活動の一層の充実を図ります。

(内容)

- 移動教室を通じて、児童・生徒が豊かな環境の中で自然に親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳について体験・学習できるよう、自然体験活動推進委員会を開催し検討を行いました。

<担当部>教育総務部

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (2) 環境学習・環境教育の推進

⑤ 学校教育における環境教育の推進 ☆

(事業概要)

各学校の実態等に応じて環境保全への取組みを進めます。また、各教科等の指導において環境教育を進めます。

(内容)

○東京都教育委員会から年4回配布された環境教育掲示用教材、解説書、ワークシートを活用し、各学校の実態に応じた取組みを継続して実施しました。

○各教科指導においては社会科・理科の授業において地球温暖化についての学習を行い、児童・生徒が二酸化炭素(CO₂)の排出量削減に向けて取り組む態度を育成しました。

※各教科等の指導における取組み例

・「ごみ・資源」、「自然・生命」、「エネルギー・地球温暖化」等に関する内容について、各教科等において環境教育を実施しました。

※学校での主な取組み

【赤松小】 小学校動物飼育推進校(モルモットやウサギの飼育)
花育教室(植物への関心、思いやりの心)

【大森第五小】 ブルートライアングルプロジェクト

【大森第六中】 洗足池水質浄化、ホテル復活プロジェクト、大岡山駅前花壇整備活動、農援隊による活動等幅広い環境教育をESD教育の視点で展開

【馬込東中】 アルミ缶回収運動(リヤカーで町内巡り、アルミ缶つぶし)

<担当部>教育総務部

F-1 環境マインドを持つ人材の育成 (2) 環境学習・環境教育の推進

⑥ 地域活動の担い手の育成 ☆

(事業概要)

おおた地域力発見倶楽部の発行やNPO・区民活動フォーラムの開催を通じて、地域活動等の紹介を行い、区民へ活動に向けた意識啓発を行います。

(内容)

【おおた地域力発見倶楽部】

○区が実施する講座等の情報を掲載した「～ご近所デビュー～おおた地域力発見倶楽部」を年3回発行(7、11、3月、各700枚)し、特別出張所をはじめとした区内施設(61か所)での配布及び区ホームページ等で広報しました。

○地域環境への理解を深めるための6事業(池上地区における「苗配布会」及び「第6回スポGOMI池上大会」、環境計画課による「第17回エコフェスワンダーランドin蒲田」及び「環境フォーラム2018」、環境対策課による「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」及び「大田区自然観察路「池のみち」の生物・植物を調べよう!」)をおおた地域力発見倶楽部に掲載しました。

【NPO・区民活動フォーラム】

○平成30年1月28日(日)、消費者生活センター1階及び2階で開催しました。

○体験ワークショップ、ブース展示、お楽しみショー等による連携・協働の活動成果の発表や模擬店・野菜販売など、延べ41の区民活動団体(内、オーちゃんネットの「くらし・環境」分野の登録団体は17団体)が様々な形態で参加しました。

- 学習・区民活動・ボランティアについてやりがい探しの相談会を実施しました。
- 延べ1,100人の来場がありました。

＜担当部＞地域力推進部

F-2 多様な主体が参加できるネットワークづくり (1) 地域活動団体の支援

① 地域活動団体への支援

(事業概要)

協働推進講師の派遣、地域力応援基金を活用した団体への助成、区民活動情報サイト（オーちゃんネット）の運用などを通じて、地域活動団体を支援し地域力を高めます。

(内容)

【協働推進講師派遣】

○地域活動に関する講演や体験講座等の自治会・町会からの要望に基づく派遣（2回、糀谷地区、久が原地区）、区民活動団体の要望に基づく派遣（2回、NPO団体、区民活動コーディネーター養成講座修了者）を実施したことにより、地域活動へ支援を行いました。

【スタートアップ助成の募集・実施】

○新規募集（申請数22件）を行い、公園から排出される樹木剪定廃材の循環事業の展開により公益性のある自然循環システムを構築する事業等、8事業に助成したほか、平成28年度からの継続事業4事業に助成しました。

【ステップアップ助成の募集・実施】

○元気高齢者及び要介護予備軍のシニアを対象に生活機能の低下の予防、楽しい健康づくりや仲間づくりの促進等を目指す事業等、平成28年度に採択した10事業（新規3事業、継続7事業）に助成しました。

○新規募集（申請数：14事業）を行い、平成30年度に助成する8事業を採択しました。

【ジャンプアップ助成の募集・実施】

○「中高生コミュニティ事業」のテーマで採択した1事業に助成しました。

【区民活動情報サイト（オーちゃんネット）の運用】

○区民活動データベースの構築・運営

オーちゃんネットへの登録団体が657団体となりました。（前年度比33団体増）

このうち、「くらし・環境」分野に関する活動を行う団体が186団体あります。

○地域ごとに情報を提供

オーちゃんネット（Webサイト）による発信のほか、mics（ミックス）おおたでは、活動団体の情報をプリントアウトし、活動分野別に閲覧できるようにしています。

＜担当部＞地域力推進部

F-3 学習・情報発信・活動のための基盤づくり (1) 環境活動拠点の整備

①（仮称）おおたエコプラザの開設

(事業概要)

区有施設等の有効活用を図りながら、大田区の環境情報の発信・共有、区民等や事業者による環境学習・環境関連活動のための拠点空間を整備します。

(内容)

○整備に向けて、必要な改修工事等について、関係部局との調整を実施しました。

○NPO団体との連携を進め、エコプラザ運営時に向けた人材育成などの検討を行いました。

＜担当部＞環境清掃部

F-3 学習・情報発信・活動のための基盤づくり (2) 環境情報の収集・提供

① 区民等が保有する環境情報の収集

(事業概要)

大田区が実施する環境イベント等で、アンケートなどにより、参加区民等が保有する環境情報を収集するとともに、日常的に広く情報収集するための仕組みの整備を検討します。

(内容)

- 緑のカーテン講習会では、緑のカーテンをすることにより、緑いっぱいの窓辺を楽しむ暮らしとともに、体感温度を低くする効果等について情報提供しました。また、ゴーヤ等の適切な育成方法を教え、参加者からの質問・相談に対して講師からアドバイスしました。
- 講習会等についてのアンケートを取り、職員で情報共有するとともに、次回以降にも活かすようにしました。

<担当部>環境清掃部

F-3 学習・情報発信・活動のための基盤づくり (2) 環境情報の収集・提供

② 環境白書等による環境情報の提供

(事業概要)

環境白書「大田区の環境」による大田区環境基本計画の実績報告のほか、区ホームページ、イベント等の機会を活用して環境情報を提供します。

(内容)

- 平成 28 年度大田区環境基本計画に基づく実績報告として、「大田区の環境」を 12 月に発行しました。

<担当部>環境清掃部

環境基本計画（後期）進捗管理指標一覧

※は単年度の指標です。進捗率は29年度実績／目標値（33年度）の単年度計算による算定です。

基本目標 A 環境と産業の調和の実現と好循環の創出					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①商店街における街灯のLED化の取組み [累計] 基準年 31 商店街に対して 29 年度実績は 99 商店街でした。	31 商店街 (22年度)	99 商店街	115 商店街	81.0%	産業 経済部
②環境保全技術分野の新製品・新技術コンクール受賞数 [／年・() 内は累計] 大田区中小事業者が開発した優れた新製品や新技術を表彰する「新製品・新技術コンクール」において、環境技術に関わる案件は、29年度はありませんでした	2 件 (27年度)	0 件 [※] (2 件)	2 件 [※] (12 件)	0% [※] (16.7%)	産業 経済部
③海外からの団体視察受入数 [／年]	14 団体 (27年度)	11 団体 [※]	15 団体 [※]	73.3% [※]	産業 経済部

基本目標B 快適で安全な暮らしの実現					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①道路沿道測定局の二酸化窒素環境基準達成率 ^{※1} 29年度実績は100%でした。	66.7% (22年度)	100%	100%	100%	環境 清掃部
②道路交通騒音の環境基準達成率 ^{※2} 基準年77.1%に対し29年度実績は78.2%でした。測定結果をもとに管理者に要望を行い状況改善に向けた取組みを継続します。	77.1% (27年度)	78.2%	100%	4.8%	環境 清掃部
③一般環境測定局の二酸化窒素環境基準達成率の維持 基準年、29年度実績とも100%でした。	100% (22年度)	100%	100%	100%	環境 清掃部
④航空機騒音の環境基準達成の維持	100% (27年度)	100%	100%	100%	環境 清掃部
⑤光化学スモッグ通報の発令回数 基準年5回に対し29年度の発令回数は1回でした。光化学スモッグの発生は気象条件など広域的な要因もあり、東京都と連携した取組みも進めています。	5回 (22年度)	1回	0回	80.0%	環境 清掃部
⑥呑川（山野橋・底層）の溶存酸素量 ^{※3} 基準年0.7mg/Lに対し、29年度実績は1.2mg/Lでした。溶存酸素量を増やして水質を良好にするため、平成26年6月に大平橋付近のスカム発生抑制装置を更新・機能強化し、稼働しています。	0.7mg/L (27年度)	1.2mg/L	2.0mg/L	38.5%	環境 清掃部

環境基準とは

環境基本法により国が定めています。大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音について、人の健康や生活環境を守るために、「維持されることが望ましい基準」のことを言います。

※1 道路沿道測定局の二酸化窒素環境基準達成率：二酸化窒素の環境基準*を達成した道路沿道測定局3局の割合

※2 道路交通騒音の環境基準達成率：定点で昼夜ともに基準値以下と推計される戸数割合

※3 呑川（山野橋・底層）の溶存酸素量：年12回の水質測定結果の年度平均値

基本目標 C 低炭素社会の構築					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①大田区の温室効果ガス排出量 基準年 3,261 千 t-CO ₂ に対して 27 年度実績は 3,205 千 t-CO ₂ でした。区内のエネルギー消費量が減少していますが、東日本大震災以降、火力発電による電力供給が増加し、電気の排出係数が上昇したことが主な要因です。	3,261 千 t-CO ₂ (20年度)	3,205 千 t-CO ₂ (27年度)	3,138 千 t-CO ₂ (31年度)	45.5%	環境 清掃部
②区民一人当たりの温室効果ガス排出量 基準年 4.72 t-CO ₂ /人 に対して 27 年度実績は 4.50 t-CO ₂ /人 でした。区内のエネルギー消費量が減少していますが、東日本大震災以降、火力発電による電力供給が増加し、電気の排出係数が上昇したことが主な要因です。	4.72 t-CO ₂ /人 (20年度)	4.50 t-CO ₂ /人 (27年度)	4.47 t-CO ₂ /人 (31年度)	88.0%	環境 清掃部
③大田区のエネルギー消費量	37,506 TJ (20年度)	31,679 TJ (27年度)	30,829 TJ (31年度)	87.3%	環境 清掃部
④区民一人あたりのエネルギー消費量	54.3 GJ/人 (20年度)	44.5 GJ/人 (27年度)	44.0 GJ/人 (31年度)	95.1%	環境 清掃部
⑤住宅用太陽光発電システムの設置件数 [累計]	975 件 (22年度)	3,792 件	3,400 件 (32年度)	116.2%	環境 清掃部
⑥区有施設の再生可能エネルギー設備等導入件数 [累計]	15 施設 (27年度)	20 施設	18 施設	166.7%	企画 経営部 都市基 盤整備 部
⑦庁有車の低公害車導入率 基準年度 65.4% に対して 29 年度実績は 56.1% でした。低公害車の導入率は後退しましたが、自動車の燃費向上等を背景に庁有車から排出される二酸化炭素排出量は、基準年度 (27 年度) 328 t-CO ₂ に対して 29 年度実績は 231 t-CO ₂ となり、29.6% 削減されています。	65.4% (27年度)	56.1%	76.9% (32年度)	-80.9%	環境 清掃部
⑧屋上緑化・壁面緑化の実施件数 30 年度に調査を予定しています。	3,189 件 (100,907 ㎡) (21年度)	30 年度 調査予定	3,500 件 (111,000 ㎡) (31年度)	—	まち づくり 推進部

基本目標 D 自然共生社会の構築					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①コアジサシを知っている区民の割合 27年度に実施した「大田区政に関する世論調査」では31.7%の方が「知っている」との回答がありました。	34.1% (22年度)	31.7% (27年度)	50.0%	-15.1%	環境 清掃部
②アオスジアゲハを見たことのある区民の割合	—	20.6%	50.0%	41.2%	環境 清掃部
③自然環境調査に参加する区民の数 [／年] 基準年194人に対して29年度実績345人でした。	194人 (22年度)	345人	300人	142.5%	環境 清掃部
④自然観察会の参加者数（応募者数） [／年]	55人 (155人) (27年度)	82人※ (270人)	100人※ (200人)	82.0%※	環境 清掃部
⑤「緑の多さに満足している」と答えた区民の割合 基準年54.4%に対して直近の29年度実績が58.7%でした。	54.4% (20年度)	58.7%	65.0% (32年度)	40.6%	環境 清掃部
⑥緑被率 30年度に調査を予定しています。	20.5% (21年度)	30年度 調査予定	20.9% (32年度)	—	まち づくり 推進部
⑦空港臨海部埋立地での新たな公園・緑地の整備量 [累計] 基準年以降新たに取り組んだ整備量です。基準年0haに対して29年度までの累計実績4.01haでした。	0ha (21年度)	4.01ha	5ha (32年度)	80.2%	都市基 盤整備 部
⑧直径40cm以上の樹木の本数（公園・緑地、街路樹を除く） 30年度に調査を予定しています。	10,224本 (21年度)	30年度 調査予定	12,500本 (32年度)	—	まち づくり 推進部
⑨暮らしを支える身近な公園の充足率 30年度に調査を予定しています。	97.0% (20年度)	30年度 調査予定	98.0% (32年度)	—	都市基 盤整備 部
⑩洗足池に集う野鳥の種類 3年に1回の調査のため、次回調査は31年度の予定です。	21種※4 (22年度)	31年度 調査予定	38種 (30年度)	—	環境 清掃部
⑪生物多様性に配慮した管理方法を取り入れる公園の数 [累計] 基準年以降新たに取り組んだ公園数です。基準年0箇所に対して28年度までの累計実績6箇所でした。	0箇所 (22年度)	7箇所	10箇所	70.0%	環境 清掃部

進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
⑫ビオトープづくり等に取り組む区民活動団体数〔累計〕 基準年6団体に対して29年度実績9団体でした。	6団体 (22年度)	9団体	10団体	75.0%	環境 清掃部
⑬公共施設緑化実績 (学校緑化実績含む)〔累計〕	18,187 m ² (27年度)	19,260 m ²	19,400 m ²	88.5%	企画 経営部

※4 専門調査機関による調査

基本目標 E 循環型社会の構築					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①区民1人1日あたりのごみと資源の総量※5	658 g (27年度)	639 g	651 g	271.4%	環境 清掃部
②区民1人1日あたりの区収集ごみ量※6	518 g (27年度)	500 g	494 g	75.0%	環境 清掃部

※5 区が収集した家庭ごみと区が回収した資源の総量を区民1人1日あたりの量に換算したもの
(事業者が自主回収した資源は除く。)

※6 区が収集した家庭ごみの総量を区民1人1日あたりの量に換算したもの

基本目標 F 持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出					
進捗管理指標	基準 (22年度)	29年度 実績	目標値 (33年度)	進捗率	担当 部局
①環境マイスター養成講座修了者数 [／年・ () 内は累計]	17人 (27年度)	8人 [※] (44人)	20人 [※] (110人)	40.0% [※] (40.0%)	環境 清掃部
②環境学習・講座の開催数、参加者数 [／年]	6回 385人 (27年度)	10回 551人	10回 500人	100.0% (144.3%)	環境 清掃部
③エコフェスタワンダーランドの開催校以外の 参加者率 (アンケート調査による)	—	71.3%	50%	142.6%	環境 清掃部
④ふれあいパーク活動団体数 基準年 126 団体に対して 29 年度実績 130 団体 でした。(平成 30 年 4 月 1 日現在) 関係部局 が 18 色の緑づくり事業などと連携して推進し ていきます。	126 団体 (22 年度)	130 団体	170 団体 (32 年度)	9.1%	都市基 盤整備 部
⑤区民活動情報サイト (オーちゃんネット) のくらし・環境関連登録団体数 基準年 100 団体に対して 29 年度実績 186 団体 でした。	100 団体 (22 年度)	186 団体	200 団体	86.0%	地域力 推進部
⑥ (仮称) おおたエコプラザの整備 立地やコンセプトについて検討しました。	未整備 (22 年度)	未整備	整備	—	環境 清掃部

前文

私たちの生活は、これまでに経験したことがないほど豊かで便利になった。一方、経済成長に伴う都市化、生活様式の変化は、自然環境にも大きな影響を加え、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、ヒートアイランド現象などのさまざまな環境問題を引き起こしている。これらの環境に対する負荷の原因は、産業活動から日常生活に至るまで広い範囲にわたっている。特に、人間の活動による二酸化炭素等の温室効果ガスの急激な増加は、地球規模での気候変動を引き起こし、人間の生存基盤である地球環境にも深刻な影響を及ぼしている。

私たちは、日々の営みが環境に大きな負荷を与えていることを自覚し、生活様式及び事業活動のあり方からまちづくりに至るまでを環境保全の視点で見直す必要がある。地域社会のすべての人々が、相互に連携し協力しながら、一人一人の力を「地域力」として結集し、低炭素社会を始め、環境への負荷が少ない社会の実現に向けて積極的に行動しなければならない。その不断の行動により、未来の世代へ継承する良好な環境を育み、地域間交流や国際交流を通じて、環境の尊さを世界に発信する「環境先進都市おおた」を目指して、この条例を制定する。

みんなで力を合わせて、
「環境先進都市おおた」を
目指そうよ！



第1条 目的

この条例は、環境の保全についての基本理念を定め、大田区（以下「区」という。）、区民等及び事業者の役割を明らかにするとともに、環境の保全に関する施策の基本的な事項を定めることにより、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって区において良好な環境を確保することを目的とする。

第2条 定義

この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 環境への負荷 人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるもの又はそのおそれのあるものをいう。
- (2) 公害 環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に基づく生活環境への侵害であって、大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下、悪臭等によって、人の生命若しくは健康が損なわれ、又は人の快適な生活が阻害されることをいう。
- (3) 区民等 区の区域内（以下「区内」という。）に住む人、区内で働く人若しくは学ぶ人、区内に一時的に滞在する人又は区内を通過する人をいう。
- (4) 事業者 区内で事業活動（公益的な活動を含む。以下同じ。）を行うすべての団体又は個人をいう。

第3条 基本理念

環境の保全の基本理念は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 区民等が健康で安全かつ快適な生活をおくることのできる良好な環境を確保し、これを未来の世代へ継承していくことを目的として行わなければならないこと。
- (2) 人と自然とが共生し、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な地域社会を構築することを目的として行わなければならないこと。
- (3) すべての日常生活及び事業活動において、区、区民等及び事業者が常に相互に連携し、協力し合い、積極的に推進されなければならないこと。

第4条 区の設定

区は、環境の保全を図るため、次に掲げる施策を策定し、実施する。

- (1) 地球温暖化の防止及び低炭素社会の実現に関すること。
- (2) ヒートアイランド現象の対策に関すること。
- (3) 公害の防止に関すること。
- (4) みどり及び水辺環境の保護育成に関すること。
- (5) 自然環境及び生物多様性の保全並びに自然とのふれあいの推進に関すること。
- (6) 資源の循環的な利用及びエネルギーの有効利用に関すること。
- (7) 廃棄物の減量及び適正処理に関すること。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、環境の保全を図るために必要な事項に関すること。

第5条 区民等の役割

区民等は、次に掲げる事項に自ら努めなければならない。

- (1) 日常生活において、環境への負荷の低減に係る地球温暖化の防止、公害の防止及び自然環境の保全を図るなど環境の保全に配慮すること。
- (2) 前条の規定により区が実施する環境の保全に関する施策に協力すること。
- (3) 他の区民等及び事業者と相互に協力し、地域の緑化、美化等の環境改善を図ること。

誰もいない部屋の電気を消したり、冷暖房の設定温度を適正に保ったり、今日からできることを始めようね！



第6条 事業者の役割

事業者は、次に掲げる事項に自ら努めなければならない。

- (1) 事業活動を行うに当たっては、環境への負荷の低減に係る地球温暖化の防止に努めるとともに、その事業活動に伴って生ずる公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するため、その責任において必要な措置を講ずること。

- (2) 第4条の規定により区が実施する環境の保全に関する施策に協力すること。
- (3) 事業活動に関し、区又は区民等に対して環境保全に関する情報及び環境への負荷に係る情報を提供すること。

事業者が省エネを行うとコスト削減にもつながるね！



第7条 環境基本計画

区は、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、大田区環境基本計画（以下「環境基本計画」という。）を定めるものとする。

- 2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
 - (1) 環境の保全に関する目標
 - (2) 環境の保全に関する施策の方向
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、環境の保全に関する重要事項
- 3 区は、環境基本計画を定めるに当たっては、区民等及び事業者の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるものとする。
- 4 前項に定めるもののほか、区は、環境基本計画を定めるに当たっては、第16条の規定により設置する大田区環境審議会の意見をあらかじめ聴かなければならない。
- 5 区は、環境基本計画を定めたときは、速やかにこれを公表するものとする。
- 6 前3項の規定は、当該環境基本計画の変更について準用する。

大田区の環境施策の基本になるんだね。

条例の基本理念に掲げた環境像を実現するための計画だよ。



第8条 区施策と環境基本計画の整合性

区は、事務事業を実施するに当たっては、前条の環境基本計画との整合を図るものとする。

第9条 区民等及び事業者に対する要請

区は、区民等及び事業者の活動が環境に著しい影響を及ぼすおそれのある場合は、その行為者に対し、環境の保全について適切な配慮がなされるよう要請を行い、報告を求めることができる。

- 2 前項の要請を受けた者は、速やかに区に報告しなければならない。

第10条 資源の循環的な利用等の推進

区は、環境への負荷の低減を図るため、区の施設の建設及び維持管理その他の事業の実施に当たっては、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量に努めなければならない。

- 2 前項に規定するもののほか、区は、環境への負荷の低減を図るため、区民等及び事業者によるエネルギーの有効利用が促進されるよう必要な支援を行うものとする。

第11条 情報の提供

区は、環境の保全に関する情報を区民等及び事業者に対し、適切に提供するものとする。

第12条 環境学習の推進

区は、区民等及び事業者が環境の保全について理解が深められるよう、環境の保全に関する学習の推進に必要な措置を講ずるものとする。

第13条 区民等及び事業者の自発的な活動の推進

区は、区民等及び事業者が行う自発的な環境の保全に関する活動が促進されるよう、必要な措置を講ずるものとする。

第14条 監視及び測定等

区は、環境の状況を的確に把握するために、必要な監視及び測定を実施し、その結果を公表するものとする。

第15条 国、東京都その他地方公共団体等との協力

- 区は、環境の保全を図るため広域的な取組を必要とする場合は、国、東京都その他地方公共団体と協力してその取組の推進に努めるものとする。
- 2 区は、環境の保全を図るため必要がある場合は、大学又は研究機関と協力してその推進に努めるものとする。

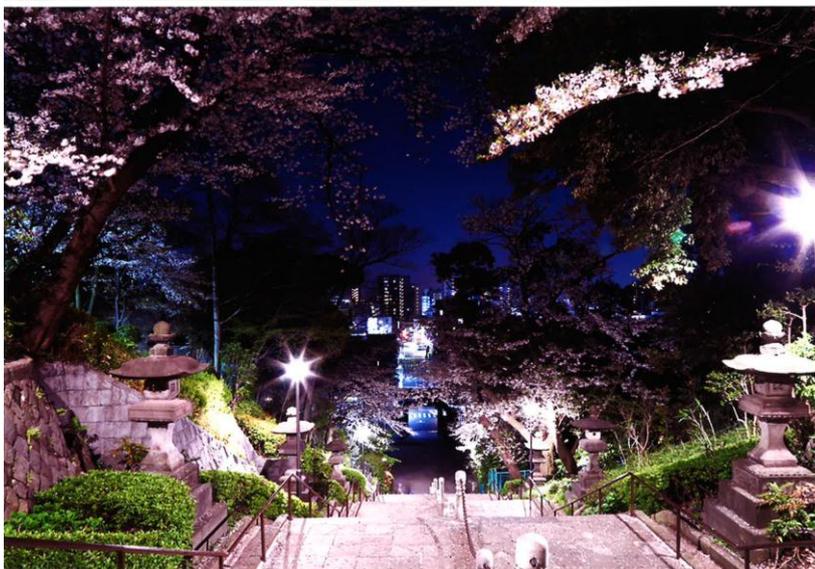
第16条 大田区環境審議会

環境基本法（平成5年法律第91号）第44条の規定による区長の附属機関として、大田区環境審議会（以下「審議会」という。）を置く。

- 2 審議会は、区長の諮問に応じて、次に掲げる事項（他の附属機関の権限に属するものを除く。）を調査審議し、区長に対して答申又は提言をするものとする。
 - (1) 第7条の環境基本計画に関すること。
 - (2) 前号に掲げるもののほか、区の環境の保全に関する基本的事項に関すること。
- 3 審議会は、区民、事業者、学識経験者、区議会議員、関係行政機関職員及び区職員のうちから、区長が委嘱し、又は任命する委員25人以内をもって構成する。
- 4 委員の任期は2年以内とし、欠員が生じた場合の補充委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

最優秀賞 日東工器 株式会社

タイトル「桜さくまち ～池上本門寺から見る私達が住むまち～」 84 票



〔説明コメント〕

池上本門寺までの道には、沢山の桜が咲いていて、階段を上りきって振り返るととてもキレイな景色が広がっていました。満開の桜と、その先の夜景は格別でした。大田区は自然豊かで魅力あふれるまちだと思います。キレイなまちと、多くの自然をこれからも守っていきけるよう、ごみのポイ捨てはしない、分別して捨てる、落ちているごみは拾う、など身近なエコ活動を日頃から心がけたいと思います。

優秀賞 羽田ビーチクラブ

タイトル「海岸清掃 (地域の人々でゴミ拾い)」 37 票



〔説明コメント〕

大田区内の小学生と船に乗って羽田空港の浅瀬へ。だれも清掃できないでいるエリアをきれいにする活動。

優秀賞 羽田水辺の学校
タイトル「多摩川水辺の授業」 34 票



[説明コメント]
今日うなぎを3匹ゲット、
大漁だぜ！



「大田区の環境」の表紙は
区役所で「回収⇒再生」した
ものを使用しています。

